

金融論目錄

第一章 總論

一丁

第二章 世界諸國銀行業ノ概況

第一節 諸要國銀行業ノ大小比較

一三丁

第二節 古代ノ銀行

一八丁

第三節 近代ニ於ケル歐洲大陸ノ諸銀行

二二丁

第四節 英國ノ銀行業

二九丁

第五節 日本ノ銀行業

三四丁





第六節 獨逸ノ銀行業

四六丁

第七節 北米合衆國ノ銀行業

六一丁

第三章 英國金融事情ノ概況

六九丁

第四章 英蘭銀行ノ起元及發達

一二〇丁

第五章 英蘭銀行ト政府トノ關係

一四六丁

第六章 金融市場ニ於ケル利子昇降ノ有様

一七二丁

第七章 金融市場ノ浮沈

一八三丁

第八章 金融市場整理法

二三一丁

三十八

三十九

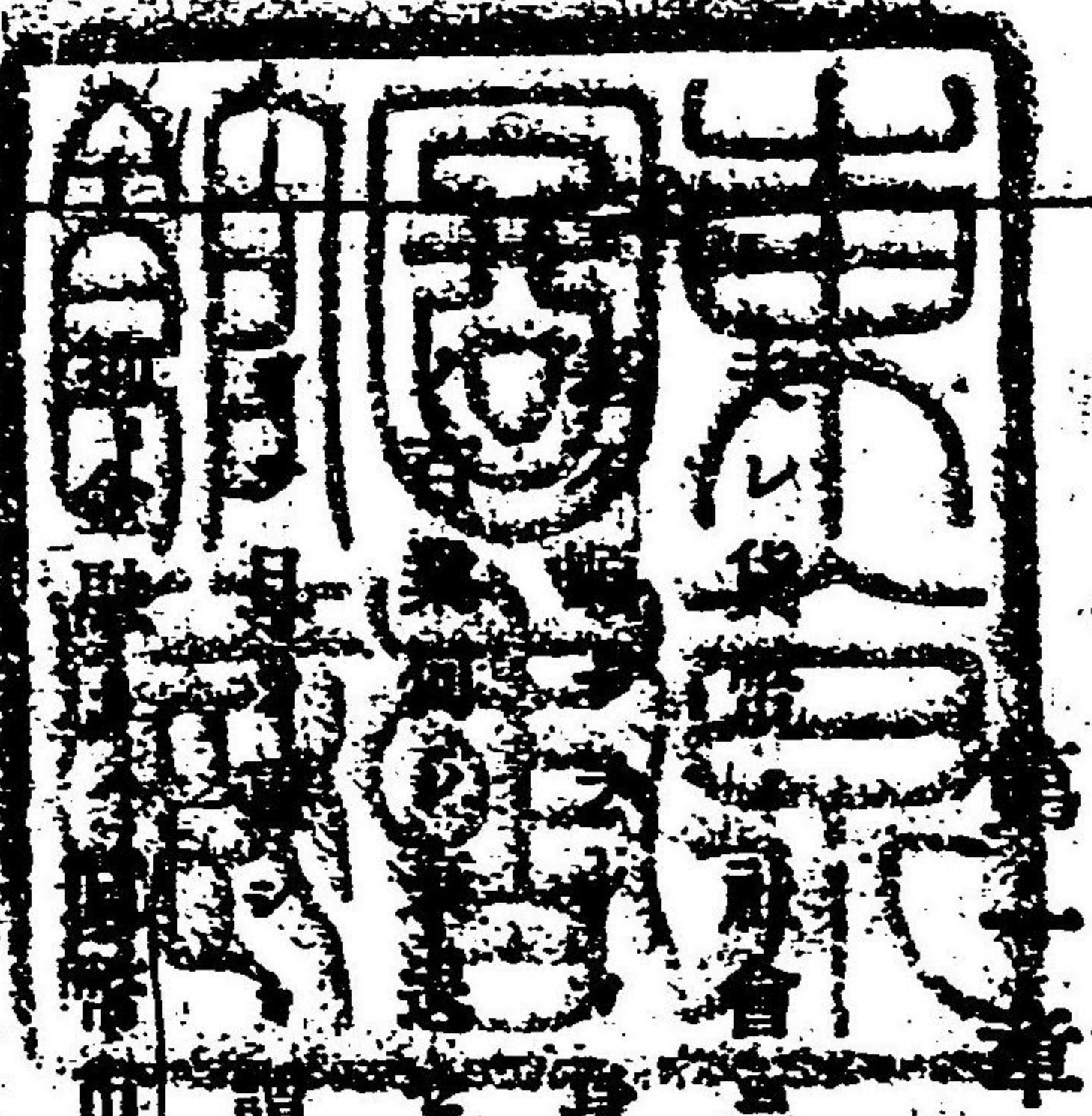
第九章 中央銀行ノ組織

二八九丁



金融論

文學士 濱田健次郎 講述



總論

流通スルヤ猶ホ血液ノ人體ヲ循環スルカ如シ血行ニシテ壅  
身體必ス其健康ヲ失フヘシ金融ニシテ澁滯不良ナラソカ社會  
ニサルヲ得ン金融事情ノ社會ノ盛衰得喪ニ關係スル實ニ大ニ  
謂フヘシ是レ吾人カ深ク探究スルヲ要スル所以ナリ

此貨幣市場ニ於ケル貨幣ノ需要供給ノ關係ヲ云フニ外ナラス而シテ  
所定セラルヘント雖モ其全體ヨリシテ之ヲ言ヘハ總テ銀行ノ手ヲ經テ所定セ  
ラル、モノナリ



凡ソ人民個々ノ手裡ニ分存スル所ノ資金ノ如キハ其貸借融通甚タ容易ナラス  
即チ資本ヲ借ラシヨトテ望ム者ハ誰ニ就キテ之ヲ求ムヘキヤヲ知ラサルガ爲  
メニ或ハ好機ノ乘シテ以テ巨利ヲ占メ得ヘキアルモ其資金ヲ得ルニ由ナキト  
キハ空シク之ヲ傍觀スルニ止マルコトアリ而シテ資金ヲ貸キシコトヲ欲スル  
者モ亦何處ノ向業ニ其資本ヲ投入スヘキヤヲ知ラサルヨリシテ或ハ徒ラニ之  
ヲ死守シテ當ニ生シ得ヘキ利益ヲ收ムルコトヲ得サルコトアリ然ルニ若シ此  
等個々ノ手裡ニ分存散在セル資本ヲ集合シテ以テ之ヲ一銀行ニ委附スルニ於  
テハ貨幣ノ貸借甚タ自在トナルモノナリ即チ資本ヲ要スル者ハ直ニ銀行ニ到  
リテ之ヲ借受ケ之ヲ活動轉用シテ以テ産業ヲ振起スルヲ得ヘシ而シテ銀行ハ  
資金ヲ貸渡シテ以テ自テ適當ノ益金ヲ収ムルノミナラス又能ク應分ノ利子ヲ  
個々ノ資金委託者即チ株主ニ割賦スルヲ得ヘシ是ニ由リテ之ヲ觀レハ社會ノ  
金融即チ貨幣市場ニ於ケル貨幣ノ需要供給ノ關係ヲ左右スルモノハ銀行業ニ  
入リタル所ノ資金ニシテ彼ノ人民個々ノ手裡ニ分存スル資金ノ如キハ殆ト金  
融事情ニ關係セサルモノト見ルモ不可ナキナリ

右ニ述フルカ如ク貨幣市場ニ入りテ金融ヲ左右スル所ノ資金ハ概シテ銀行業  
ニ入リタル資金ナルカ故ニ銀行業ト金融事情トハ終始親密ナル關係ヲ有スル  
モノナリ即チ銀行業ノ未ダ十分ニ發達セサル所ニ於テハ金融事情常ニ不良ニ  
シテ之ニ反シテ銀行業盛大ナル所ニ在リテハ金融能ク通達ス是ヲ以テ尙モ金  
融ノ通達順良ナルヲ願ハ、須ラク先ツ銀行業ノ發達ヲ謀ルヘシ銀行業ノ發達  
ヲ謀ラスシテ漫ニ金融事情ノ完全ヲ望ムハ猶ホ翼ナクシテ飛ハシコトヲ欲シ  
足ナクシテ歩マンコトヲ欲スルカ如シ豈ニ深ク思ハサルヘケンヤ  
抑全世界中銀行業ノ最モ發達セル國ハ英國ニシテ隨ヒテ同國ガ貨幣市場ニ於  
ケル貨幣ノ供給ニ富メルコトハ眞ニ驚クニ堪ヘタルモノナリ或ル邦國ニシテ  
資金ヲ要スルコトアラシカ假令之ヲ他國ニ求メテ得サル場合ニ於テモ往キテ  
之ヲ英國ニ求メハ未ダ曾テ之ヲ得スト云フコトナシ夫レ鐵道ヲ敷キ電線ヲ架  
シ運河ヲ開通シ船舶ヲ製造シ或ハ規模宏大ナル製造事業ヲ起ス等皆一トシテ  
社會ヲ裨益シ國力ヲ増進スルノ要具ニアラサルハナシ然リト雖モ若シ邦國ニ  
シテ融通運轉スヘキノ資金ヲ有セサルトキハ如何ニ其國土ハ天然ノ財源ニ富



ムモ又其人民ハ學識ニ長シ且ツ能ク有爲ノ氣風秀ツルモノナルモ決シテ此等  
 大事業ヲ起スヲ得サルナリ大事業ニシテ起ラザレハ大利益ハ望ムヘカラサ  
 ルナリ即チ之ヲ約言セハ國ノ金融ニシテ通達セザレハ大利アル事業ハ決シテ  
 起ラサルナリ果シテ然ラハ國ノ金融ハ何ニ頼リテカ能ク通達シ得ヘキヤ他ナ  
 シ銀行業ヲ盛大ニスルニ在リ銀行業ニシテ若シ能ク振起發達セシカ金融自ラ  
 通達シ貨幣市場ニ於テ貨幣ノ運動活潑ナルヘシ今日英國カ金融上ノ關係ヲ以  
 テ能ク世界ニ冠絶スルヲ得タルハ實ニ其銀行業ノ盛大ナル他ニ比スヘキナキ  
 ニ因ルモノナリバヤヨット氏カ英國ヲ目シテ銀行國ト云ヒシハ眞ニ旨言ト謂  
 フヘキナリ

凡ソ資本ハ利益少キ地ヲ去リテ利益多キ處ニ移ルモノナリトハ經濟學者ノ常  
 ニ口ニスル所ニシテ理ニ於テハ決シテ爭フヘカラサルモノナリ然リト雖モ彼  
 ノ金融事業ノ發達セザル國ニ於テハ資金ノ貸借利用自在ナラサルカ爲メ此資  
 金轉移ノ事遲々トシテ容易ニ其効驗ヲ目撃スル能ハサルコトアリ是ヲ以テ人  
 或ハ其理ヲ信シテ其實ヲ疑フ者アラソ若シ之ヲ疑ハ、宜シク英國ノ貨幣市場

ニ就キテ之ヲ見ルヘシ必スヤ能ク其理其實ヲ併セ信スルニ至ラソ抑英國ニ於  
 ケル資金ノ集散轉移ノ蹟ハ實ニ顯著ナルモノナリ人若シ英國銀行家及ヒ證券  
 取引人ノ帳簿ヲ檢セハ以テ能ク其實際ノ景況如何ヲ知ルヲ得ヘシ即チ倫敦ノ  
 銀行家等ノ手ニ在ル所ノ爲換券ハ多クハ皆利益多キ産業ヨリ引出セル者ニシ  
 テ其利益少キ所ノ産業ニ關スル者ハ甚タ寥寥タリ例ヘハ木綿業ニシテ盛況ニ  
 換クトキハ其賣買取引繁多トナルヘク其取引ニシテ繁多ナレハ之ニ關スル爲  
 換取組隨ヒテ繁多トナリ倫敦市場ニ於ケル手形類ハ時ニ十中ノ八九ハ木綿業  
 ニ關スルモノトナルヘシ之ニ反シ若シ石炭業ニシテ非常ニ衰退セシカ之ニ對  
 スル手形類ハ時ニ遂ニ金融市場ニ其勢力ヲ失スルニ至ルヘシ夫レ英國殊ニ倫  
 敦ニ於テ資本カ商業ノ盛衰ニ由リテ轉移スルコトノ迅速自由ナルハ恰モ響ノ  
 聲ニ應スルカ如ク水ノ低所ニ走就スルニ似タリ

是ノ如ク英國ニ於テ利益ノ多少ニ應シテ資本流轉ノ蹟ノ顯著ナルハ是レ實ニ  
 英國ニ於テ銀行業發達シ信用取引ノ自在ナルニ因ラヌンハアルヘカラス若シ  
 夫レ邦國ニシテ貨幣市場ニ於ケル貨幣ニ乏シク金融通達セサルトキハ假令如



何ナル好機會ノ乘ヲ以テ巨利ヲ博スヘキアルモ之ニ投ルルノ資金ヲ得ルニ道ナク徒ラニ傍觀シ去ラサルヲ得サルノ憾ヲキ能ハス合金融ノ通否カ一國商業ノ盛否ニ關スル實際ノ効果如何ヲ知ラント欲セハ請フ彼ノ蘇士運河ト英國ノ東洋貿易トノ關係ヲ探究セヨ

抑蘇士運河開鑿前ニ於テハ東洋諸國ト歐洲諸國トノ貿易ハ總テ彼ノ喜望峰ヲ經回シテ一旦歐洲ノ南西部(即チ英吉利佛蘭西和蘭等)ニ輻湊シテ而シテ後更ニ歐洲ノ各地方ニ分配セラレタルモノナリキ夫レ東洋貿易ノ斯ノ如ク一旦遠ク歐洲ノ西南端ニ集リテ後更ニ東シテ全歐諸地ニ及ホスカ如キハ隨分奇異ナル顯象ト謂ハサルヘカラス是ヲ以テ世人カ蘇士運河開鑿ノ舉アルヲ開クヤ以爲ラシ此運河ニシテ果シテ能ク竣功スルニ至ラハ從來東洋貿易上ニ存セシ所ノ奇異ナル顯象ハ自ラ其跡ヲ収メ漸ク始メテ地理上本然ノ線路ニ歸スルヲ得ヘシト彼ノ佛國ノ學士トクヴィール氏ノ如キモ亦嘗テ此運河ニ就キ言ヲ爲シテ曰ク此運河ヲ利用スル者ハ希臘人スチリア人伊太利人タルマシア人及ヒシシリ人ナルヘシト然ルニ今同運河カ千八百六十九年十一月十七日ヲ以テ其航

通ヲ開キシヨリ今日ニ至ルマテノ同運河航通船舶ノ實況ヲ見ルニ事全ク豫想ニ出テ重ニ之ヲ利用スルモノハ彼ノトクヴィール氏カ指名セル諸國ニアラス

今英國ノ統計學士ミカエル、ジャ、マルホール氏ノ統計字典ニ據レハ千八百七十年(即チ開業ノ翌年)ニハ同運河航通船舶ノ艘數並ニ其噸數ハ僅ニ四百七十六艘四十三萬六千噸ナリシカ千八百七十五年ニハ千四百九十四艘、二百九十四萬一千噸ニ増加シ千八百八十年ニハ二千二十六艘、四百三十萬五千噸ニ上リテ此運河航通貿易ハ非常ニ發達セシカ重ニ之ヲ利用スルモノハ終始英國ナリトス即チ千八百七十年以降凡ソ十年間ニ於ケル平均數ニ於テモ英國ハ其地位ヲ失ハズシテ英國ハ其七割七分ノ多キヲ占メタルモ佛蘭西ハ僅ニ九分和蘭ハ四分ニシテ其他ノ諸國ノ如キハ之ヲ合シテ稍ク一割ニ達スルヲ得タリ然リ而シテ此割合ハ今日ニ至リテモ依然然更スル所ナシ即チ昨年三月五日及ヒ五月十四日刊行ノ英國セント、セト、ムス、パゼットニ編纂セル所ニ據レハ近年來英國ノ貿易業ノ大ニ衰退セリトノ嘆聲アルコトモ拘ハラズ蘇士運河貿易ニ於テハ英國依然



第一位ヲ占メ通過船舶艘數二千五百艘噸數四百萬噸即チ總數ノ七割七分ノ多キヲ占メ居ルモ佛國ノ如キハ千八百八十五年ニ於テハ九分ナリシニ八百八十六年ニ於テハ八分二厘五毛百七十艘五十萬噸ニ減シ和蘭ハ四分百二十艘二十二萬噸ニシテ前年ト同シク獨逸ノ如キハ八十六年ニ於テ五厘五毛ヲ增加セルモ尙ホ三分六厘九毛ニ過キズ是ニ由リテ之ヲ觀レハ英國カ蘇士運河ヲ利用シテ受クル所ノ利益ノ大ナル知ルヘキナリ今同運河通過船舶ノ艘數並ニ其噸數ノ實數ヲ知ラシメシカ爲メ左ニ英國セイ、スコット、ケルナー、氏編纂ノ千八百八十八年政治家必携萬國年鑑ニ據リ千八百八十六年ニ於ケル統計ヲ抄録ス

國別	艘數	總噸數
英吉利	二二三一	六、二五四、四一七
佛蘭西	二二二七	六、九九、一九四
和蘭	一一二七	三、一二、九六四
獨逸	一六一	三、一四、七一五
伊太利	六九	一、八四、九六〇

澳地利	七七	一九一、三三三
西班牙	二五	八八、〇七六
露西亞	二四	五八、二八八
諾威	二八	四七、九九一
白耳義	一	一、二九二
埃及	四	三、〇五六
土耳其	六	三、三六三

右陳述スル所ニ據レハ英國カ東洋貿易上ニ有スル所ノ勢力ノ大ナル實ニ推知スルニ堪ヘタリ夫レ蘇士運河タル地理上ノ關係ヨリシテ推論スルトキハ地中海沿岸ノ諸國カ應ニ十分之ヲ利用シテ以テ其貿易ヲ發達シ以テ其國力ヲ増進スルヲ得ヘシ彼ノトクヰヰル氏カ豫言スル所ハ實ニ能ク理ニ適ヘルモノナリ然ルニ今其實際ノ結果ヲ見レハ事全ク反對ニ出テ、地中海沿岸諸國ノ如キハ殆ト其影響ヲ受ケサルモノト云フモ不可ナク地理上最モ適切ナサラル所ノ



英國カ終始能ク之ヲ利用シテ恰モ其全體ノ利ヲ獨占スルノ勢アリ嗚呼是レ何  
ノ故ニ然ル乎他ナシトクヴィール氏カ指名セル諸國ノ如キハ皆資力ニ乏シク  
金融上毫モ勢力ヲ有セサルニ因ルモノナリ凡ソ斯ノ如キ運河ヲ利用シテ以テ  
十分能ク其國ノ商業ヲ擴張シ勝ヲ貿易世界ニ制セント爲スニハ必スヤ夥多ノ  
巨大ナル船舶ヲ製造シ物貨運搬ノ便ヲ謀ラサルヘカラス然ルニ若シ邦國ニシ  
テ資力ニ乏シク金融事業通達セサルニ於テハ何ニ頼リテカ其費金ヲ給充シ以  
テ其目的ヲ達スルコトヲ得ン

斯ノ如ク英國金融事情ノ能ク通達シ居ルヤ當ニ英國ナシテ能ク好機ヲ愆ラス  
速ニ利益多キ所ノ新業ニ從事スルコトヲ得セシムルノミナラス亦能ク其一且  
占得セル事業ヲ保持養成スルノ便利ヲ有セシメタリ蓋シ英國ノ如キ金融事情  
發達シ信用取引ノ盛大ナル邦國ニ於テハ貸借自由ナルヨリシテ金利自ラ低廉  
ナリ而シテ金利ニシテ低廉ナルトキハ自家資金ニ乏シキ者モ此低廉ナル資金  
ヲ借入レテ以テ産業ニ從事スルコトヲ得ルモノニシテ此等借入資金ヲ以テ事  
ニ從フ者ハ通常利子ヲ仕拂ヘル後ニ少許ノ利益ヲ餘スヲ得ルヲ以テ満足スル



カ故ニ彼ノ自家ノ資本ヲ使用シ當時産業社會ニ於ケル利益ノ通例ノ割合ヲ収メシコトヲ欲スル者ヲ壓倒シ得ルモノナリ勢斯ノ如クナルヲ以テ英國ニ於テハ事業ニシテ苟モ利益アルモノナラシメハ借入資本ヲ利用シテ該事業ノ發達ヲ促シ遂ニ金融未通ノ諸國ヲ壓倒スルニ至ル金融事情ノ通否ノ一國産業ノ盛衰ニ關係スル豈ニ至大至重ナラスヤ

夫レ然リ然リト雖モ信用取引法ノ發達セル所ニ於テハ其利益ノ巨大ナルニ比應スル丈ケノ危険アリ例ハ英國ロムバード街ニ於ケル信用取引高ハ實ニ巨大ナルモノナレトモ其實際ノ現在豫備金額ハ實ニ僅少ナルモノナリ是故ニ若シ一朝恐慌起リ信用紊亂スルノ不幸ニ遭遇スルヤ人々一時ニ現金取換ヲ請求スルコトアルヘシ斯ノ如キ場合ニ於テハ倫敦ノ銀行業者ハ非常ノ危険ニ陥ルコトアルヘシ世人或ハ以爲ラク英國ハ古來金融事情ノ通達ヲ以テ有名ナルモノニシテ其間幾多ノ經驗ヲ爲シ今日ニ至リテハ金融業上危険ナル顯象ヲ呈スルノ患ナカルヘシト是レ未タ深ク想ハサルノ說ノミ勿論說者ノ言ノ如ク英國ハ久シク信用取引ノ業務ニ慣レ且ツ經驗ニ富ムカ故ニ他國ニ比シテハ遙ニ能



ク巧ニ金融ヲ處理シ信用ヲ利用スト雖モ而カモ往々非常ノ危険ニ陥リ爲メモ莫大ノ損失ヲ蒙ルコトアリ彼ノ「オヴアーレンド、ガールチー」會社ノ失敗ノ如キハ實ニ顯著ナル例證ナリ即チ同會社ハ今ヲ距ルコト二十六七年ニ方リテハ英蘭銀行ニ亞キテ最モ盛大ナル取引ヲ爲シ金融市場ニ於テ其名内外ニ轟キシカ社務ニ謹慎ナラサシリカ爲メ漸ク損失ヲ來タシ六年ノ後ニ至リテ遂ニ救フヘカテサルノ極度ニ達シ大ニ倫敦ノ貨幣市場ヲ擾亂セリ是ニ由リテ之ヲ觀レハ英國ノ如キ銀行國ニ於テスラ屢々危険ナル場合アリ況ヤ銀行業ニ未熟ナル諸他ノ邦國ニ於テヤ豈ニ慎マサルヘケンヤ

然リ而シテ前段ニモ述ヘタルカ如ク銀行業ト金融事情トハ常ニ甚タ親密ナル關係ヲ有スルモノナルカ故ニ余ハ先ツ茲ニ最近調査ノ諸統計ニ據リ以テ現ニ世界ニ於ケル銀行業ノ實況ヲ示サントス(銀行論ニ關シテハ田尻先生ノ適實親切ナル講義筆記アリ諸君之ニ就キテ十分ニ研究セラレシコトヲ乞フ)

### 第二章 世界諸國銀行業ノ概況

#### 第一節 諸要國銀行業ノ大小比較

抑、此五十年間ニ於ケル世界ノ銀行業發達ノ蹟ハ實ニ顯著ナルモノナリ今有名ナル英國ノ統計學士マルホール氏ノ言フ所ニ據レハ今日ニ於ケル世界ノ銀行業ハ之ヲ千八百四十年頃ニ比スレハ大約十一倍ノ増大ヲ致シ其發達増大ノ速度ハ商業ニ比シテ三倍、人口ニ比シテ三十倍ナリト云フ又同氏著ノ統計字典(千八百八十四年倫敦刊行)ニ據レハ世界諸要國ニ於ケル銀行業ニ關スル資金額ハ左ノ如シ

國名	資 金 額			人口一人ニ對スル資金
	資 本	預 り 金	合 計	
英吉利	二七〇 <small>百五十萬</small>	五七〇 <small>百五十萬</small>	八四〇 <small>百五十萬</small>	二五 <small>百</small>
佛蘭西	五五	一五〇	二〇五	六
獨逸	八五	二〇〇	二八五	六
論			一三	



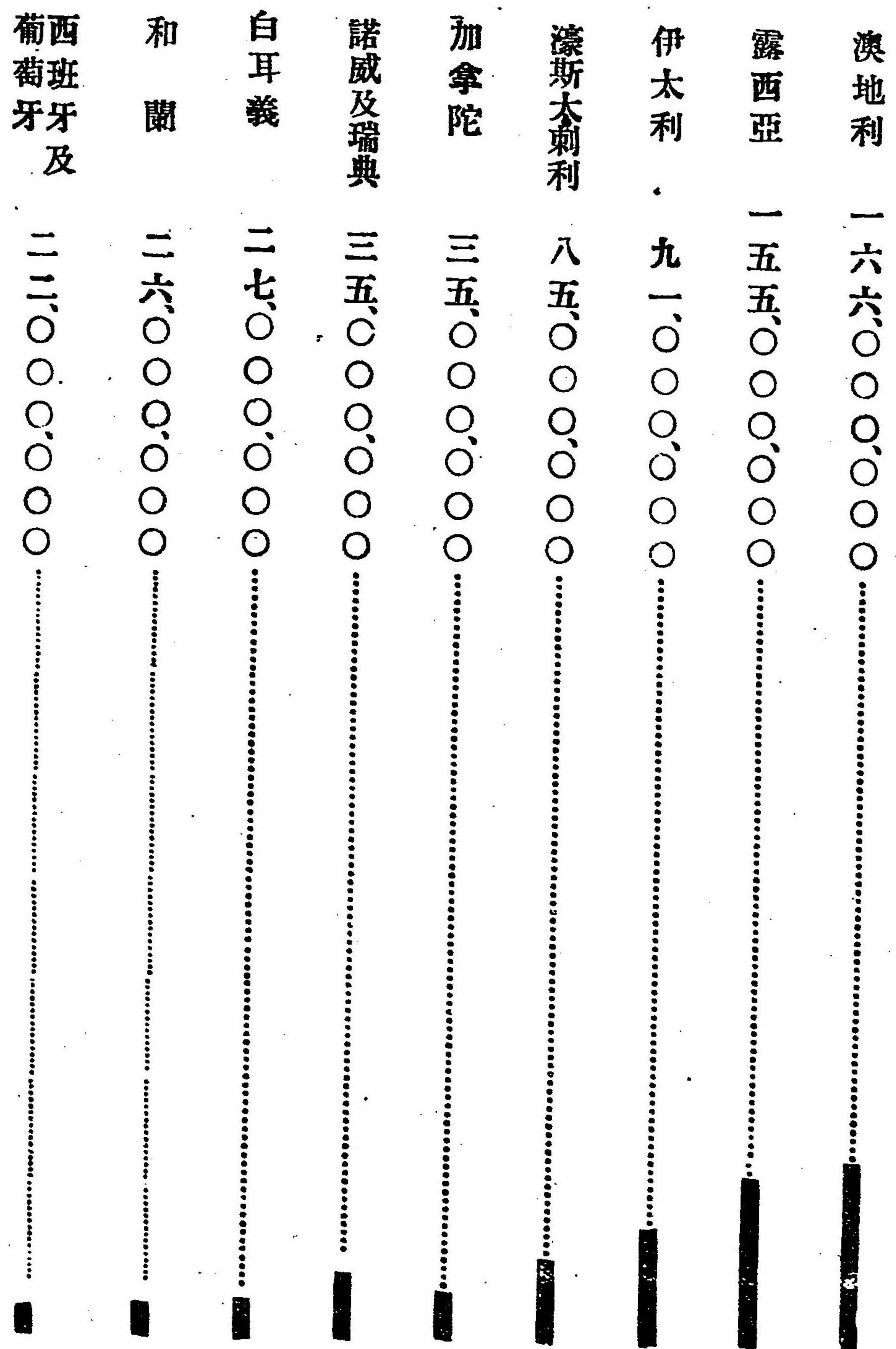
露亞西	四	一	一	一	一	一
澳地利	三	一	一	一	一	一
伊太利	三	一	一	一	一	一
西班牙及葡萄牙	一	一	一	一	一	一
白耳義	七	二	二	二	二	二
和蘭	六	二	二	二	二	二
諾威及ヒ瑞典	一	二	三	三	三	三
小計(歐羅巴)	五	一	一	一	一	一
北米合衆國	一	三	五	五	五	五
加拿陀	一	一	三	三	三	三
濠斯太刺利	一	一	一	一	一	一
總計	七	一	一	一	一	一

右ノ表ニ據リテ之ヲ見レハ銀行業ノ最モ盛大ナルハ英吉利ニシテ北米合衆國

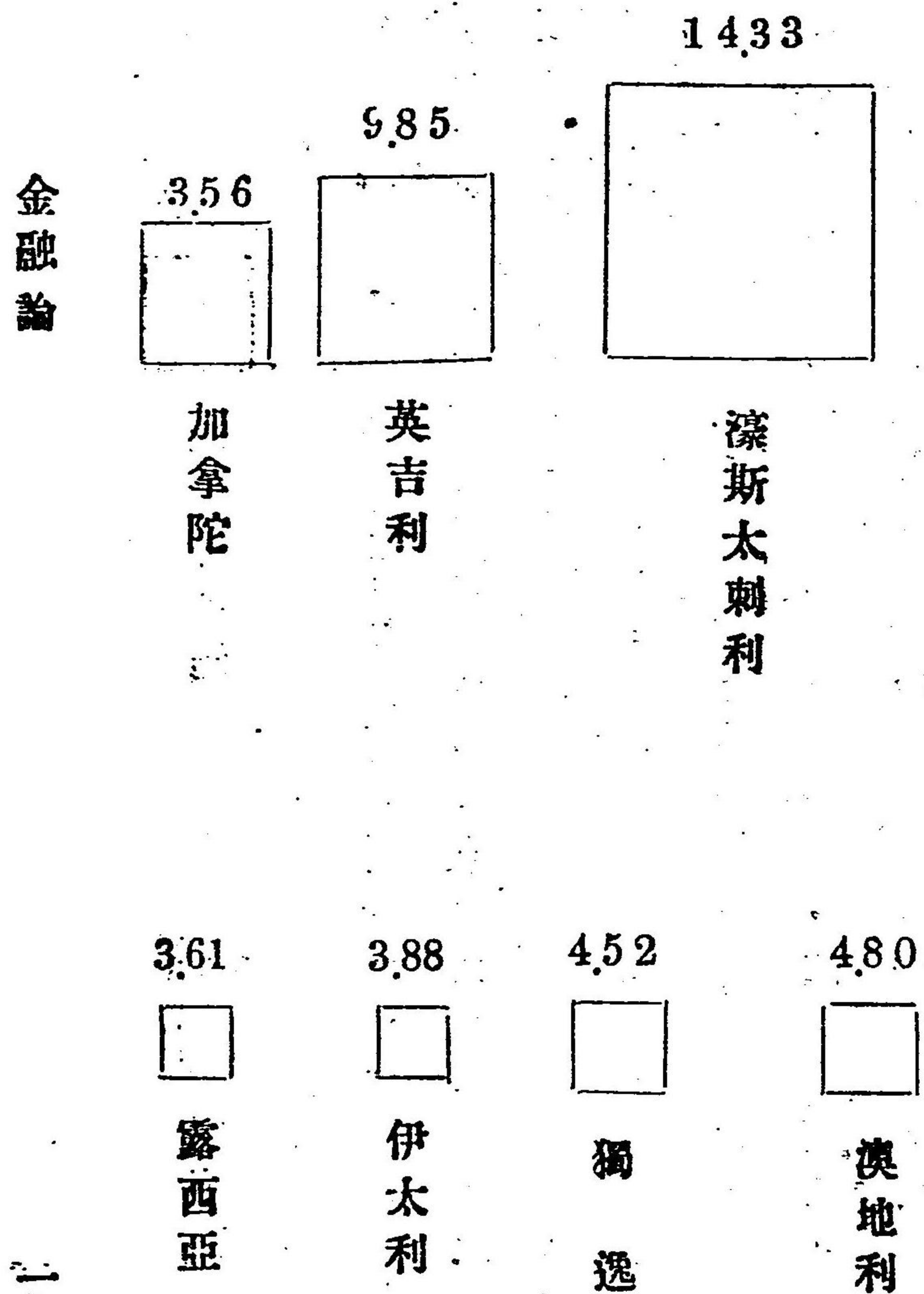
之ニ次キ獨逸、佛蘭西、澳地利、露西亞、伊太利等相序ツルモノナリ又其人口一人ニ對スル資金額ノ多寡ニ付キテハ濠斯太刺利第一位ヲ占メ(是レ全ク其人口ノ疎ナルニ比シテ其銀行業ノ盛大ナルニ由ル)英吉利、北米合衆國、加拿陀、和蘭等相次クヲ見ル而シテ西班牙及ヒ葡萄牙ノ如キハ總額ニ於テモ亦人口配當高ニ於テモ共ニ最下位ニ在リ今右諸要國ニ於ケル銀行業資金額ノ多少ヲシテ一目瞭然タラシムルカ爲メ左ニ長短ノ線ヲ畫シテ以テ比較計量ス

英吉利	八四〇〇〇〇〇〇
合衆國	五三一〇〇〇〇〇
獨逸	二八五〇〇〇〇〇
佛蘭西	二〇五〇〇〇〇〇





又一國內ニ存在スル富チ一〇〇ト見做ストキハ之ニ對スル銀行資金ノ百分比  
 例ハ 濠斯太刺利一四、三三 英吉利九、八五 加拿陀五、五六 北米合衆國五、五五  
 澳大利四、八〇 獨逸四、五二 伊太利三、八八 露西亞三、六一 佛蘭西二、五三  
 ナリ今此等ノ割合チ平方形ノ大小ヲ以テ顯表スレハ左ノ如シ





5.55

北米合衆國

253

佛蘭西

斯ノ如ク人口一人ニ對スル銀行資金高ノ割合ニ於テ濠斯太刺利カ第一位ヲ占ムル所以ハ是レ蓋シ濠斯太刺利ハ新國ニシテ且ツ其富源限ナク資本ヲ投入スヘキ有益ナル事業多ク隨ヒテ資金ノ運轉活潑ナルノ度合ニ比シテ其人口ノ尙ホ未タ十分稠密ナラサルニ由ルモノナルヘシ然リト雖モ是レ固ヨリ單ニ人口ト資金トノ比例數ニ過キスシテ其金融世界ニ於テ資金ノ供給實額ノ多饒ナルハ決シテ英國ニ比肩スヘキモノアラサルナリ故ニ今英國ノ金融事情ヲ明ニスルトキハ畧能ク歐米諸他要國ノ金融事情ヲ推知スルヲ得ヘキナリ余輩ハ先ツ古今諸銀行ノ景況ヲ畧述シ而シテ後十分英國ノ金融事情ヲ研究セントス

### 第二節 古代ノ銀行

銀行業ノ起原ハ實ニ遠シ近世諸學士殊ニコウトルガ氏ノ研究セル所ニ據レハ

昔時希臘ノ雅典府ニ於ケルトラベゾデースナルモノハ今日ノ銀行ノ作用ヲ爲シ能ク國內ノ金融ヲ通達シ商業ヲ補成セリ而シテ其業務ノ盛大ナリシ狀況ハ紀元前四百年代ニ於テモ既ニ其事務範圍ノ廣濶ナルカ爲メ區部ヲ分設シ以テ各自ヲシテ專務ヲ執ラシメタルノ一事ヲ以テ之ヲ推測察知スルヲ得ヘシ其後羅馬帝國ノ時代ニ至リテアルゼンダリアイナルモノアリ是レ其性質ニ於テハ彼ノ希臘ノトラベゾデースニ相類スト雖モ當時文物既ニ進歩シ事業ノ範圍雅典ノ時代ニ比スレハ遙ニ皇張セルヲ以テアルゼンダリアイノ社會ニ對スル必要ハトラベゾデースニ超過スルコト實ニ數倍ナリキ斯ノ如ク銀行ノ業務ハ既ニ希臘羅馬ノ盛大ニ胚胎養成セラレタリト雖モ眞ニ今日ノ所謂銀行ノ組織ニ至リテハ之ヲ伊太利ノ名譽ニ歸セサルヲ得サルナリ

伊太利國ヴェニス府ニ設立セラレタル銀行ハ實ニ公然銀行事業執行ノ目的ヲ以テ組織セラレタルモノ、嚆矢トス而シテ其創立期日ハ今ニ於テ諸說一定セズ或ハ之ヲ第十二世紀ノ中頃ニ在リトシ或ハ第十五世紀ノ始ニ在リトス即チアンダーソン氏著商業史ニ據レハ千百五十七年ニ於テ設立セラレタルモノナ



ルヘシト云ヘリ又セー、イ、ホルン氏ノ説ニ據レハ同銀行ハ兎ニ角第十四世紀  
 人前半期頃ニ至リテハ其業務既ニ能ク整頓セシモノナルヘント云ヘリ又同銀  
 行ノ性質ハ預金銀行ニシテ無株金ニテ設立セラレシモ其發行セル證券ハ終始  
 人民ノ好撰スル所トナリ通貨ニ對シ割増ヲ以テ通用セリ然ルニ千七百九十七  
 年ニ至リ佛國ノ侵襲ニ遇ヒテ遂ニ衰廢セリ

伊國セノア府ノ銀行ハ千四百七年ヲ以テ設立セラレ「ナエムバー、オフ、セント、シ  
 ヨー」ト稱セラレタリ其業務概テヴェニスノ銀行ト同シク隨分重要ナルモノ  
 ナリシカ千七百四十年澳地利ノ侵襲スル所ト爲リテ廢滅セリ

セノア銀行設立ノ後大約二百年即チ千六百九年ニ於テ彼ノ有名ナル「アムステ  
 ルダム」銀行ノ設立アリ「今ノ和蘭銀行ハ千八百十四年ニ於テ此「アムステルダム」  
 銀行ニ繼襲シテ起レルモノナリ」此銀行ハ是レ純然タル商業的ノモノニシテ毫  
 モ政府ノ財産ニ干與セカリシモノナリ即チ其業務ハ全ク人民ノ資金ヲ預リ之  
 チ保管シ預ケ金ノ請求ニ應ジテ之ヲ返附スルニ止リテ自ラ之ヲ運用シテ他ニ  
 貸出スコトヲ爲サス能ク久シク信用ヲ堅固ニ維持セシカ第十八世紀ノ半頃ヨ

リシテ隱然其預リ金ヲ東印度會社ニ貸附セリ是ヨリシテ制規漸ク弛緩シ千七  
 百九十四年佛兵ノ侵襲ヲ蒙ムルニ及ヒテ止ムコトヲ得ス其實際ノ狀況ヲ公然  
 明示セルニ和蘭「西フリ」スランド及ヒ東印度會社ニ貸出セル金額ハ一千五十  
 萬「フロレン」ニ「フロレン」ハ凡ソ四十錢ニ達セリ斯ノ如ク其隱策ノ露顯スルヤ從  
 來甚ク堅固ナリシ所ノ信用忽チ地ニ墜チ終ニ倒行スルニ至レリ「ホーア」氏ノ調  
 査ニ據レハ千七百七十五年ニ於ケル同銀行ノ現在金額ハ三千三百萬「フロレン」  
 ナリシト

「アムステルダム」銀行設立ノ十年後即チ千六百十九年ニ於テ「漢堡銀行」設立セラ  
 ル同銀行ハ「アムステルダム」銀行ヲ模倣セルモノヨシテ其性質預金銀行ニシテ  
 預金人ノ間ニ立チテ相互義務ノ辨償ヲ媒介ス  
 千六百二十一年ニ於テ「マイレンベル」銀行起リ千六百三十六年ニ「ハロツタル」  
 「ダム」銀行設立セラル共ニ皆漢堡銀行ニ模シタルモノナリ又千六百五十七年ニ  
 至リテ「瑞典銀行」設立セラル而シテ銀行券ハ此「瑞典銀行」始メテ之ヲ發行スト云  
 フ「或ル説ニ據レハ始メテ銀行券ヲ發行セシハセノア銀行ナリト云フ」



右ニ述ヘ來リタル諸銀行ノ設立ニ至リタル要因ニ二アリ即チ一ハ政府ノ財政ヲ救済シ以テ其信用ヲ保持スルカ爲メニ起リ他ノ一ハ全ク商業社會ニ於ケル金融上ノ便利ヲ謀ルニアリタリ即チヴェニス銀行ノ如キハ甲種ニ屬シ阿姆斯特ダム銀行漢堡銀行ノ如キハ乙種ニ屬スルモノナリハ之ヲ要スルニ此等諸銀行ハ固ヨリ當時ニ在リテ公私ノ爲メ財政上ナリ又金融上ナリ大ナル功用アリシモノナルハ疑フヘカラスト雖モ而カモ其用其功決シテ今日所謂銀行ノ如ク大ナラサルモノニシテ銀行業ノ非常ニ發達ゼシハ實ニ此五十年來ノ事ナリトス

### 第三節 今代ニ於ケル歐洲大陸ノ諸銀行

(第一) 佛蘭西銀行 佛蘭西銀行ハ英國銀行ニ亞キテ最モ盛大ナルモノナリ同銀行ハ千八百年ニ於テ創立セラレタレトモ其基礎固定スルヲ得シハ千八百六年ニ在リ其資本金額ハ創立ノ際ニ於テハ四千五百萬法ト定メラレシカ千八百六年ニ至リ之ヲ倍シテ九千萬法ト爲シ一株ヲ千法トシテ總資本額ヲ九萬株ニ

分チ且ツ同銀行ニ附與スルニ佛國ニ於テ獨リ兌換券ヲ發行スル特權ヲ以テセリ然リ而シテ同銀行ハ能ク謹慎シテ其特權ヲ濫用セス且ツ巧ニ業務ヲ執行セシモ拘ラス彼ノ千八百四十八年ノ革命ノ爲メニ非常ナル厄運ニ陷レリ即チ當時同銀行ハ地方政府并ニ巴里府ニ大ナル繰替ヲ爲サ、ルヲ得サリシノミナラス世間ノ信用甚ク頹敗セルカ爲メ準備金續々引出サレ金庫漸ク空歛ナラントス是ヲ以テ政府ハ千八百四十八年三月十六日ノ布告ヲ以テ現金仕拂ヲ停止シ銀行券ヲ以テ法貨トセリ然レトモ濫發ノ弊ヲ防止センカ爲メ銀行券發行ノ最高額ヲ三億五千萬法ト定メタリ又千八百四十八年前ハ在巴里佛蘭西銀行ト同シク兌換券ヲ發行スルノ權ヲ有セル所ノ銀行、里昂、馬爾塞、ボルドウ等ノ諸要府ニ在リシカ佛國政府ハ千八百四十八年四月二十七日及ヒ五月二日ノ布告ヲ以テ此等ノ諸銀行ヲ佛蘭西銀行ニ合併セシメテ其支店トセリ資本金額ハ右合併ニ由リ増加シテ都合資本金額九千二百二十五萬法、此株數九萬二千二百五十株トナレリ其後千八百五十七年六月九日ノ布告ヲ以テ更ニ資本金額ヲ二倍シタルニ株數ハ十八萬二千五百株トナレリ又佛蘭西銀行ノ利益配當金額ハ常ニ多ク



シテ甚ダ長景況ヲ呈セリ即チ其最モ少カリシハ千八百四十八年ニシテ僅ニ七分五厘ニ當リ其最モ多カリシハ千八百五十六年及ヒ五十七年ニシテ二割七分二厘ト二割四分七厘ニ上レリ此佛蘭西銀行ノ事ニ就キテハ後段別ニ言フ所アルヘシ

(第二) 孛漏生銀行 孛漏生銀行ハ千七百六十五年伯林府ニ設立セラレシカ爾後千八百四十六年ニ至ルマテ毫モ變更ナク同年ニ銀行條例ヲ改正シ資本金額ヲ千五百萬「ターレル」ニ増加シ千八百五十年ニ至リ更ニ之ヲ増加シテ二千百萬「ターレル」ト爲セリ而シテ同銀行ハ「ブレフラウ、キヨイニクスベルグ、ダンナツク、ステツチン、マクデブルグ、ミュンスタル、コログチ、メルボーゼン、ストルム、エルベルグ、エルド、ヂユツスセルドルフ、コブレツツ、ミンタン、エルフユルト、ストラル、スント、キヨースリン、リークニツ、オツベルン」等ノ諸要府ニ支店アリテ其取引極メテ大ナリ而シテ此孛漏生銀行ハ今日ニ於テハ獨逸帝國銀行ト變シ其政府財政上ニ有スル勢力愈々強且ツ大ト成レリ尙ホ此獨逸銀行ノ事ニ關シテハ後段更ニ述フル所アルヘシ

第三 維也納銀行 墺地利維也納銀行ハ千八百十五年ノ設立ニ係ルモノニシテ其目的ハ全ク政府ノ財政ヲ回復シ主トシテ當時非常ニ低落セル政府紙幣ノ引換ヲ完済センガ爲メナリキ是レ實ニ墺地利國ノ中央銀行ニシテ紙幣發行權ヲ獨有ス又其支店ハ「ブラツク、ベスト、ブリュン」等凡ソ二十箇所ニ在リ然レトモ其取引ハ各皆未ダ盛大ナラスト云フ

第四 巴華里銀行 ヌーレムベルク銀行ハ巴華里國ノ中央銀行ニシテ「アンズ、パツヒ、ハイロイト、ハムベルク、ホーフ、ルードヴィツクス、ハーフエン、ラチスボン」及ヒ「ヴエルクツブルク」ニ支店ヲ有シ政府ノ財務長官之ヲ監督ス

第五 ライプツツ銀行 ライプツツ銀行ハ千八百三十九年ヲ以テ設立セラレ其創立資本金額百五十萬「ターレル」ナリ又同銀行ノ利益ハ左ノ如キ割合ニテ分配セラル、モノナリ即チ資本金ニ對シ三分準備金トシテ二割五分(但シ準備金ニシテ三百萬「ターレル」ニ達スルトキハ之ヲ止ム)事務員ニ對シ五分及ヒ株主ニ對シテ七割ナリト

第六 白耳義銀行 白耳義銀行ハ佛蘭西銀行ニ模シテ組織セラレタルモノニ



其株ハ一株一千法コテ二萬五千株アリ又二十法、五十法、百法、五百法、及ヒ一千法ノ銀行紙幣ヲ發行ス但シ正金準備額ノ三倍以上ノ紙幣ヲ發行スルコハ政府ノ認可ヲ得サルヘカラス

第七 コペンハーゲン銀行 丁抹國コペンハーゲン銀行ハ千三百四十一萬千六百リクスダラーノ資本金額ヲ以テ千八百十三年ニ設立セラレタルモノニシテフレンスブルク及ヒレンドスブルクニ支店ヲ有ス

第八 希臘銀行 希臘銀行ハ雅典府ニ在リテハトラス及ヒシラニ支店ヲ有ス其資本金額ハ五百萬ドラクマニシテ之ヲ五千株ニ分テリ其發行スル紙幣ノ種類ハ二十五ドラクマ、百ドラクマ、及ヒ五百ドラクマノ三種ニシテ其發行高ノ三分ノ一ハ金銀貨ニテ準備セラル、コトヲ要ス又其利益ノ分配法ハ先ツ株式ニ對シ七分ノ利子ヲ取去リ若シ餘剩アルトキハ其二十分ノ四ハ之ヲ積立金ニ加ヘ但シ此積立金高カ資本金額ノ五分ノ一ニ達スルトキハ之ヲ止ム二十分ノ一ハ頭取其他ノ役員ニ分與シ残り二十分ノ十五ハ株主ニ分配スルモノナリ

第九 伊太利銀行 伊太利銀行ノ本店ハナポリニ在リテフロレンス、ナ

ブルス、ミラン及ヒゼノアニ支店アリ其資本金額ハ一億法ニシテ之ヲ分テテ十萬株トス而シテ此伊太利銀行ハ千八百六十三年ニ於テナポリ銀行トタスカノ銀行ト合併シテ組織セラレタルモノナリ

第十 葡萄牙銀行 葡萄牙銀行ハ里斯本府ニ在リテオポルトニ支店アリ其資本金額ヲ分テテ八萬株トス此銀行ハ舊里斯本銀行トコムバニア、コンフィアジサ、ナシヨナールト稱セシ銀行トテ勅令ニテ合併シ組織セラレタルモノニシテ其發行スル紙幣ノ最小ナルモノヲ千二百レイトス

第十一 西班牙銀行 西班牙銀行ハ其本店マドリッドニ在リテヴァレンシア及ヒアリカントニ支店アリ其資本金額ハ一億二千萬リール、ヴェロン(一リール、ヴェロン)ハ大的我五錢ニシテ之ヲ六萬株ニ分テリ而シテ此銀行ハ千八百四十九年ニ於テ彼ノイサベラ第二世ノ代ニ設立セラレタルセント、フェルジナンド銀行ニ代リテ興レルモノナリ

第十二 瑞典銀行 瑞典銀行ハ千六百三十七年ニ設立セラレタルモノニシテ其本店ハストックホルムニ在リテゴテンブルク、マルメヨ、及ヒヴィンビ



ニ支店アリ其資本金額ハ千三百萬「ターレル」ニテ紙幣ヲ發行ス  
 第十三 諾威銀行 諾威銀行ハドロンタイムニ本店アリテ諸所ニ支店アリ其  
 資本金額ハ三百萬「ターレル」ニシテ正金準備額ノ二倍マテ紙幣ヲ發行スルコト  
 ナ得ルモノナリ  
 第十四 瑞西國ニ於テハ各聯邦ニ一銀行アリ  
 第十五 土耳其格銀行 土耳其格銀行ハ其資本金額六千七百萬法ニシテ紙幣發行  
 ノ權ヲ委テラレタリ  
 第十六 和蘭銀行 和蘭銀行ノ資本金額ハ最初五百萬「フロリン」ナリシカ千八  
 百十九年ニ至リテ之ヲ一千萬「フロリン」トシ千八百三十八年ニ於テ更ニ同銀行  
 條例ヲ改正シ其資本金額ヲ一千五百萬「フロリン」ニ増加セリ而シテ此改正條例  
 モ亦再ヒ千八百六十三年ヲ以テ改定セラレタリ  
 以上掲ケル所ヲ以テ歐洲大陸諸國ノ銀行ニ關シ畧説セシコ付キ余ハ是ヨリ英  
 吉利、佛蘭西、獨逸及ヒ北米合衆國ノ銀行業ノ景況ニ就キテ少シク述フル所アラ  
 ントス

### 第四節 英ノ銀行業

英國銀行業ノ他國ニ冠絶スルコト既ニ第一章及ヒ第二章第一節ニ於テ略述セ  
 シ所ヲ以テ之ヲ知ルヲ得ヘシ而シテ其發達ハ實ニ此二三十年間ニ在ルモノナ  
 リ「マルホール」氏嘗テ其著書「世界ノ進歩」ニ於テ叙シテ曰ク「銀行業ハ英國ノ貿易  
 ト繁榮トヲ進ムルコトニ於テ其効力眞ニ蒸氣力ニ劣ラサルナリト此言ヤ正ニ  
 能ク銀行業ト國家ノ福利トノ關係ヲ明示セリト謂フヘシ今同氏ノ調査ニ據レ  
 ハ千八百五十年來英國銀行業ノ進歩ハ左ノ如シ

	資本及ヒ預ケ金額		人口一人ニ對スル金額	
	一八五〇年	一八八二年	一八五〇年	一八八二年
英 蘭	二〇七、〇〇〇、〇〇〇	六六〇、〇〇〇、〇〇〇	一一	二六
蘇格蘭	三六、〇〇〇、〇〇〇	一〇三、〇〇〇、〇〇〇	一一	二八
愛 蘭	一七、〇〇〇、〇〇〇	四三、〇〇〇、〇〇〇	三	八
合 計	二六〇、〇〇〇、〇〇〇	八〇六、〇〇〇、〇〇〇	一〇	二三

金融論



又本年一月、倫敦銀行雜誌ニ記スル所ニ據レハ一千八百七十六年ヨリ千八百八十六年ニ至ル毎年ノ聯合王國銀行業資金ノ増加額ハ左ノ如シ

年次	英蘭及ヒ威爾斯	蘇格蘭	愛蘭	聯合王國
一七八六	增一、八二四、〇六〇	增二〇八、八一六	減一二四、五八五	增一、九〇八、二九一
一八七七	同 一、三八四、一四二	同 四六二、八九一	增一六四、〇九三	同二、〇一一、二二六
一八七八	同 一九八、四二七	減一、二二五、八三五	減 一九、三七五	減 九四六、七八三
一八七九	同 一、二一八、九二五	增 五五、九九二	增 二六、二五五	增一、三〇一、一七二
一八八〇	同 二、九八九、八六六	減 三、四二四	同 一〇四、七六三	同三、〇九一、二〇五
一八八一	同 四七三、八四〇	增 九六、五九一	增 一八八、四一六	同 七五八、八四七
一八八二	同 一、〇〇七、二一七	同 四〇二、二八六	減 三二四、一五七	同 一、〇九五、三四六
一八八三	同 二、四二七、九〇二	同 一七〇、七〇五	增 一三四、三四〇	同 二、七三二、九四七
一八八四	同 二、一三七、五五六	同 九四、四六六	同 六八、四九五	同 二、三〇〇、五一七
一八八五	增 一、八二一、九六三	增 四、三〇七	減 五八一、三二一	增 一、二〇一、七九四
一八八六	同 三、一三三、〇六六	同 一三、六四〇	增 二一七、二三〇	同 五四三、九三六

五十四

合計 同 一、五九七、四一四 同 三、八〇、四三五 減 一、三五、八四六 同 六、〇四二、〇〇二

五十五

又千八百八十二年六月ノ調査ニ據レハ英國内ニ於ケル聯合本銀行ノ數ハ百八十六行ニシテ内百二十行ハ英國ニ屬シ十行ハ蘇格蘭ニ屬シ九行ハ愛蘭ニ屬シ四十七行ハ植民地ニ屬シ又千八百八十六年ニ於ケル聯合王國聯合本銀行ノ資本及ヒ準備金額ハ英蘭銀行資本一千四百五十五萬三千磅準備金三千二百四十四萬六千九百外ノ在英蘭諸聯合本銀行三千八百八十五萬三千磅準備金二千二十四萬六千九百磅アイル、オフ、マンニ屬スルモノ資本額九萬千九百磅準備金五萬七千四百磅蘇格蘭ノ分資本額九百五萬二千磅準備金四百八十九萬九千七百磅愛蘭ノ分資本額七百十三萬二千八百磅準備金二百五十五萬二千七百磅ニシテ合計資本額六千九百六十八萬三千六百磅準備金額三千七十五萬六千七百磅ナリ

又聯合本銀行ノ資本ト預ケ金トノ割合ハ英國ニ於テハ資本一ニ對シ預ケ金五、蘇格蘭ニ於テハ資本一ニ對シ預ケ金五半、愛蘭ニ於テハ資本一ニ對シ預ケ金三ナリ即チ預ケ金ノ割合ニ多キハ蘇格蘭ニシテ愛蘭ハ最モ少シ

又右銀行業資金ニ對スル利益ハ英蘭ノ地方銀行ニ於テ最モ多ク倫敦ノ銀行ニ



於テ最モ少シ即チ英蘭地方銀行ノ利益ハ年二分ニ當リ愛蘭ニテハ年一分ト三分ニ蘇格蘭ニ於テハ一分ト三分一倫敦ニ於テハ一分ト四分一ニ當レリ  
 今英國銀行業ノ盛況ヲ知ラシニハ彼ノ倫敦銀行者交換所ノ取引高ヲ見ルニ如カサルナリ即チマルホル氏ノ統計字典ニ據レハ千八百三十九年ニ於テハ同所取引總高ハ九億八千萬磅ニテ人口一人ニ付キ四百九十磅平均一日ニ三百二十萬磅ナリシカ千八百六十九年乃至七十年ノ間ニ於テハ平均一年ニ三十五億四千萬磅一日ニ一千二百萬磅人口一人ニ付キ一千二百磅ニ増加シ千八百七十一年乃至八十年ノ間ニ於テハ平均一年ニ五十二億一千萬磅一日ニ一千七百萬磅一人ニ付キ一千五百磅トナリ千八百八十一年ニ於テハ六十三億八千三百萬磅一日ニ付キ二千五十萬磅一人ニ付キ一千六百八十磅ニ増加セリ實ニ盛大ナリト謂フヘキナリ請フ更ニ一昨年八月刊行ノ倫敦銀行雜誌ニ據リ千八百六十八年ヨリ千八百八十六年ニ至ル十九年間ノ各年ノ取引高ヲ示サシ

千八百六十八年  
 千八百六十九年

三、四二五、一八五、〇〇〇  
 三、六二六、三九六、〇〇〇

千八百七十年  
 千八百七十一年  
 千八百七十二年  
 千八百七十三年  
 千八百七十四年  
 千八百七十五年  
 千八百七十六年  
 千八百七十七年  
 千八百七十八年  
 千八百七十九年  
 千八百八十年  
 千八百八十一年  
 千八百八十二年  
 千八百八十三年

三、九一四、二二〇、〇〇〇  
 四、八二六、〇三四、〇〇〇  
 五、九一六、四五二、〇〇〇  
 六、〇七〇、九四八、〇〇〇  
 五、九三六、七七二、〇〇〇  
 五、六八五、七九三、〇〇〇  
 四、九六三、四八〇、〇〇〇  
 五、〇四二、三八三、〇〇〇  
 四、九九二、三九八、〇〇〇  
 四、八八五、九三七、〇〇〇  
 五、七九四、二三八、〇〇〇  
 六、三五七、〇五九、〇〇〇  
 六、二二一、二〇六、〇〇〇  
 九、九二九、四〇四、〇〇〇



千八百八十四年  
千八百八十五年  
千八百八十六年

五、七九八、五五五、〇〇〇  
五、五一一、〇七一、〇〇〇  
五、九〇一、九二五、〇〇〇

### 第五節 佛蘭西ノ銀行業

佛蘭西ハ全體ヨリ之ヲ論スルトキハ其全國内ニ存在スル富財總額ニ比シテ其銀行業未ダ盛大ナリト言フヲ得サルナリ彼ノ第二章第一節ニ揭示セル歐米諸要國富財總額ニ對スル銀行業金額ノ比較圖ヲ見ハ以テ其一班ヲ窺フニ足ラン即チ英國ノ如キハ富財總額一〇〇ノ中銀行業ニ入レル所ノ金額ハ九、八五、北米合衆國ハ同シク五、五五、獨逸ハ同シク四、五二、ナルニ佛國ハ僅ニ二、五三、ニ過キスレテ實ニ最下位ニ在リ夫レ佛蘭西ハ歐洲大陸中最モ顯要ナル邦國ナリ然ルニ右ノ如ク銀行業ニ入レル所ノ金額ノ割合寡少ナルハ抑、何ノ故ゾ是レ蓋シ佛國ニ於テハ國內ノ資金多クハ一個人ノ手裡ニ分存シテ之ヲ集合スル慣習未ダ普ク行ハレサルガ爲メナリ

佛國ニ於テハ斯ノ如ク資本ヲ集合スル慣習發達セサルカ故ニ同國ニハ巴里銀行ヲ除キテハ別ニ巨大ナル銀行アルコトナシ是ヲ以テ佛蘭西銀行ノ業務ハ自然ト手廣ク成リテ佛國貨幣市場ニ殊大ノ勢力ヲ有スル者ナリ請フ左ニ千八百八十七年一月二十七日ノ株主總會ニ提出セラレタル報告書ニ據リ同銀行ノ事務概況ヲ示サン(佛蘭西銀行ノ沿革ハ本章第三節第二十二項ニ於テ畧述シ置ケリ)

(一) 取引總額 千八百八十六年中ノ取引總額ハ四億八千三百五十八萬八千六百十二磅ナリ之ヲ前年即チ八十五年ノ取引總額四億九千二百九十八萬三千九百十二磅ニ比スレハ九百三十九萬四千四百八十磅ヲ減少セリ而シテ此減少ハ主トシテ割引取引ノ減少(巴里本店ニ於テ大約六百四十萬磅支店ニ於テ大約三千二百萬磅ノ減少)ヨリ來レルモノナリ但シ取換金、貸付金、金銀塊等ノ取引ニ於テ著シキ増加アリ

又右營業取引ノ外ニ佛蘭西銀行カ大藏省ノ爲メニ無報酬ニテ取扱ヒタル金額ハ三億五千七百五十七萬八千三百八十四磅ニ達セリ即チ大藏省ニ代リ受取リタル金額ハ一億八千二百七十五萬八千五百五十六磅(内一億二千四百四十六萬二千四



百八十磅ハ本店四千二百二十九萬五千五百七十六磅ハ支店ニシテ同シ支拂ヒタル金額ハ一億七千四百八十二萬三千二百二十八磅内本店ノ分一億二千七百五十二萬九千九百八十磅支店ノ分四千七百十九萬八千三百四十八磅ナリ

(二) 現金正金額 千八百八十六年十二月三十一日ニ於テ佛蘭西銀行本店及ヒ支店ノ正金現在高ハ九千四百九十二萬四千磅ニテ之ヲ八十五年十二月三十一日ノ現在高八千九百五十五萬二千磅ニ比スレハ五百三十七萬二千磅ヲ増加セリ又八十六年中其金額ノ最高額ニ達セシハ五月二十七日ニシテ一億百三萬二千磅ナリ又其最低額ニ降リシハ一月十六日ニシテ八千八百八十二萬磅ナリキ今八十五年及ヒ八十六年ニ於ケル本店及ヒ支店所有ノ金銀高ハ左ノ如シ

千八百八十五年	千八百八十六年
金 本店 一四、八五二、〇〇〇 支店 三一、三五六、〇〇〇	金 本店 一六、二三二、〇〇〇 支店 三三、〇九二、〇〇〇
銀 本店 九、六一六、〇〇〇 支店 三三、七二八、〇〇〇	銀 本店 一〇、六九六、〇〇〇 支店 三四、九〇四、〇〇〇

合計	金 四六、二〇八、〇〇〇	銀 四九、三二四、〇〇〇
總計	四三、三四四、〇〇〇	四五、六〇〇、〇〇〇
	八九、五五二、〇〇〇	九四、九二四、〇〇〇

(三) 割引ノ歩合 本年中割引ノ歩合ニ變更ナシ即チ千八百八十三年二月二十二日以來三分ノ歩合ヲ維持セリ是レ實ニ同銀行カ大ニ注意セル所ニシテ割引歩合ノ定固ナルハ實ニ商業社會ニ便益ヲ與フルモノナリ又貸附金ノ利子モ同四年間變動セズシテ其四分ノ歩合ヲ保持セリ

(四) 割引取引 本年中ニ本店及ヒ支店ニテ割引セル金額ハ三億三千二百一十一萬五千五百七十二磅キシテ其年ノ價額三億七千萬四千八百六十七磅ニ比スレハ實ニ三千七百八十八萬九千二百九十五磅ヲ減少セリ右本年中割引高ノ内本店ニ於テセルモノ手形四百九十六萬六千五百八十一通此金額一億五千二百四十萬四千二百八磅ナリ而シテ此四百九十六萬六千五百八十一通ノ手形ノ内八志四片以下ノモノ一萬三千五百二十八通九志二片乃至二磅ノモノ六十三萬八千八百七十六通二磅至乃四磅ノモノ九十四萬二百七十一通四磅以上ノモノ三



百三十七萬三千九百六通ニシテ四磅以下ノモノ殆ト全數ノ三分一ヲ占メタリ  
 今千八百八十一年以降四磅以下ノ手形價額ヲ舉ケンニハ百十六萬  
 九百四十五磅、八十二年ハ百二十二萬四千三百二十六磅、八十三年ハ百三十四萬  
 九千二百七十磅、八十四年ハ百五十八萬五千五百十五磅、八十五年ハ百五十九萬八  
 百三十九磅ニテ八十七年ニハ百五十九萬二千六百七十五磅ナリ即チ本年ニ於  
 テハ割引取引全額ノ減少ニモ拘ラス四磅以下ノ小手形割引ハ最モ多額ニ上リ  
 タルモノニシテ以テ銀行カ小買ノ爲メニ用立チタル所ノ一斑ヲ窺知スルニ足  
 ルモノナリ又本年中ニ支店ニ於テ取引セル割引手形ノ數ハ六百四十一萬八百  
 二十四通ニシテ此金額一億七千九百七十一萬三千六百六十四磅ニ上レリ又本店  
 ニテ取扱ヘル割引手形價額ノ最高額ニ達セシハ五月十四日ニテ四千五百二萬  
 四千磅ニ上リ其最低額ニ降リシハ九月二十日ニテ千六百五十四萬八千磅ナリ  
 キ而シテ千八百八十七年一月二十七日ニ於テハ本支店ヲ合セテ二千八百八十  
 二萬八千磅ナリ

(五) 貸附金 本年中ニ公債證書、鐵道株券等ニ對シ貸附セル金額ハ三千九百七

十四萬千五百八十八磅(内本店ノ分二千五百八十八萬三千五百十二磅支店ノ分  
 千三百八十五萬八千七十六磅)ニシテ前年ニ於ケル二千三百三十八萬五千八百  
 四磅(内千五十四萬八千四百五十二磅)ハ本店千二百八十三萬七千三百五十二磅  
 ハ支店ニ比スレハ千六百三十五萬五千七百八十四磅ヲ増加セリ又貸付金額ノ  
 最高額ニ上リシハ五月十日ニテ即チ二千九百十三萬二千磅其最低額ニ下リシ  
 ハ八月二十六日ニテ即チ千十六萬四千磅ナリキ

(六) 銀行券流通高 本店及ヒ支店ヨリ發行セル銀行券價額ハ千八百八十五年  
 十二月二十六日即チ千八百八十五年ノ取引開始日ニ於テ一億千七百七十六萬千  
 二百五十二磅、其最高額ニ上リシハ八十六年一月二十九日ニテ一億千八百九十  
 四萬六千五百三十六磅、其最低額ニ下リシハ九月二十四日ニテ一億六百三十二  
 萬三千四磅ニシテ八十七年一月二十七日即チ本報告書提出ノ當日ニ於テ一億  
 千四百十七萬八千七百四十八磅ナリ此最後示セシ所ノモノヲ銀行券一枚ノ價  
 ニ由リテ區別スレハ即チ左ノ如シ

五百磅券

五枚

一〇〇〇



四十磅券	一、二五〇、一七九	四六、〇〇七、一六二
二十磅券	五七三、三三二	一一、四六六、四四〇
八磅券	二、五九〇	二〇、七二〇
四磅券	一三、一四八、八七一	五二、五九五、四八四
二磅券	一、九六〇、四六七	三、九二〇、九三四
一磅券	一九、六八九	一九、六八九
十六志券	一二二、八一七	九八、二五四
四志券	一六〇、九〇二	三六、一八〇
外	一二〇八	一六、八八七
合計	一七、一四〇、〇五〇	一一四、一七八、七四八

(六) 本店ニ於ケル正金銀行券及ヒ交換取引 此等取引ノ總額ハ前年ニ比シテ大ニ増加セリ即チ八十五年ニ於テハ交換取引十一億六千二百三十六萬千三百八十磅、銀行券取引六億五千四百八十七萬五千二百二十八磅正金取引四千七百四十五萬二千五百四十磅合計十八億六千四百六十八萬四千五百四十八磅ナリシカ

八十六年ニ於テハ交換取引十三億八千七百九十萬三千三百六十磅、銀行券取引六億五千八百三十九萬四千二百四十八磅、正金取引五千四百十三萬三千六百五十二磅、合計二十一億四十三萬二千二百六十四磅ナリシヲ以テ八十六年ニハ交換取引ニ於テ二億二千五百五十四萬千九百八十磅、銀行券取引ニ於テ三百五十二萬三千六百二十磅正金取引ニ於テ六百六十八萬千六百十六磅合計二億三千五百七十四萬六千七百十六磅ヲ増加セリ

(八) 振出手形 本年中本店ニ宛テラレタル振出手形ハ百十三萬四千九百七十八通、此金額二千二百二十三萬二千七百四十八磅ニテ前年中ノ百二萬千九百四十六通、此金額二千二百三萬九百磅ニ比スレハ十一萬三千二十二通、二十萬千八百四十八磅ヲ増加セリ又同年中支店ニ宛テラレタルモノハ二十二萬四千四百三十通、此金額百八十九萬千四百四十四磅ニシテ前年ノ十八萬五千七百八十八通、百七十五萬七千七百七十六磅ニ比スレハ三萬八千六百四十二通、十三萬四千六十八磅ヲ増加セリ即チ八十六年中ニ本店及ヒ支店ニ宛テラレタル振出手形ハ合計百三十五萬九千四百八通、此金額二千四百十二萬三千八百九十二磅ニ達セリ



(九) 定取引 本店ニ於テ定取引ヲ結約セル口數ハ三千八百六口ニテ支店ニ於ケルモハ六千四百八十一口ナリ即チ合計一萬二千八百七十七口ナリ

(十) 手形發行高 本年中本店ヨリ出タセル手形價格ハ三千六百六十四萬二千二百六十磅支店ノ分四千四百五十一萬七千六百五十二磅合計七千六百十五萬九千九百七十二磅ニシテ前年ノ七千二百七十六萬六千四百九十二磅ニ比スレハ三百三十九萬三千四百二十磅ヲ増加セリ内支店ヨリ本店並ニ他ノ支店ニ宛テタル小切手ハ六萬七千六百九十枚此金額二千三百三十三萬九百八十八磅本店ヨリ支店ニ宛テタルモノ一萬六千六百一枚此金額千三百二萬五千五百八十磅合計八萬四千二百九十一枚三千六百三十五萬二千四百六十八磅ニシテ前年ニ比スレハ三千四百七十四枚二百五十五萬九千七百七十二磅ヲ増加セリ

(十一) 證券預リ高 證券類預リ業ハ引續キ伸張ス即チ千八百八十六年中ニ取扱ヒタル證書取引業ハ自由預ケ、抵當預ケ、取引所員預ケノ三種ヲ合シテ五百三十一萬五千七百十五通ニシテ前年ニ比スレハ六十七萬二千六百六十七通ヲ増加セリ而シテ此増加ハ重ニ八十六年五月十日ヲ以テセル三分利付公債證書ノ取

引ヨリ來レリ又十二月二十四日ニ於テ本店ニ存在セルモノハ四百三十五萬二千二百四十六通此金額一億二千七百八十四萬磅ナリ而シテ此金額ニ對スル預ケ人ノ數ハ四萬五千三十七人ニテ二十萬六千七百口ヨリ成レリ

(十二) 支店ノ數及ヒ取引高 巴里銀行ノ支店ノ數ハ千八百八十六年ニ於テ九十四箇所アリテ其内最モ重要ナルモノヲボルドー、里昂、馬耳塞、リユー、及ヒアイツルノ五支店トス

右九十四店ノ八十六年中ノ取引高ハ合計二億四千二十一萬五千五十二磅ニシテ八十五年ニ於ケル二億七千二百四十二萬七千二百二十四磅ニ比スレハ三千二百二十一萬二千七百七十二磅ヲ減少セリ今右ニ舉ケタル五箇所ノ最要支店取引高ニ就キテ其減少ノ景況ヲ見レハ即チ左ノ如シ

ボルドー支店ノ八十五年中ノ取引高ハ二千五百九萬三千六百磅ナリシカ八十六年ニハ二千三百二十九萬四千五百磅ニテ百七十九萬五千五百三十六磅ノ減少ヲ示セリ

里昂支店ハ八十五年ニ於テ一千九百二十七萬三千三百四十四磅、八十六年ニ於



テハ一千八百四十八萬三千七百十六磅ニテ七十八萬九千六百二十八磅ヲ減少セリ

馬耳塞支店ニテハ八十五年ニ二千八百八十二萬四千九百九十二磅ナリシカ八十六年ニハ一千七百三萬八磅ナリキ即チ四百七十九萬四千九百八十四磅ヲ減少セリ

リヨ支店ニ於テハ八十五年ニ一千五百三十一萬三百四十八磅ナリシカ八十六年ニハ一千三百三十三萬七千八百八十八磅ニテ二百十七萬二千四百六十磅ノ減少ナリ

アーヴル支店ニテハ八十五年ニ於テ一千六百八十三萬二千九百三十二磅ナリシカ八十六年ニハ一千二百二十六萬六千七百三十六磅トナレリ即チ五百五十六萬六千九百九十六磅ヲ減少セリ

(十三) 政府ニ對スル立替金 千八百八十六年ニ於ケル政府ニ對スル立替金額ハ依然五百六十萬磅ニシテ其内二百四十萬磅ハ千八百五十七年六月十日ノ法令ニ準據シ三百二十萬磅ハ千八百七十八年ノ法令ニ準據セルモノナリ

(十四) 證券發行高 八十六年中ニ發行セル各種證券類ハ九百五萬枚此金額九千三百八十萬磅ニシテ之ヲ區別スレハ即チ左ノ如シ

四十磅ノモノ	一、四二五、〇〇〇 <sup>枚</sup>	五七、〇〇〇、〇〇〇 <sup>磅</sup>
二十磅ノモノ	四七五、〇〇〇	九、五〇〇、〇〇〇
四磅ノモノ	六、五〇〇、〇〇〇	二六、〇〇〇、〇〇〇
二磅ノモノ	六五〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇

右九千三百八十萬磅ヲ以テ八十五年中ノ發行高九百三十五萬枚此金額八千三百三十萬磅ニ比スレハ枚數ニ於テ三百枚ヲ減少シ而シテ金額ニ於テ一千二百五十萬磅ヲ増加セリ

(十五) 銀行員ノ數 千八百八十六年ニ於ケル銀行員ノ總數ハ二千二百二十四人ニシテ其内一千四人ハ本店ニ屬シ一千二百二十人ハ支店ニ屬ス之ヲ八十五年ニ於ケル二千二百三十八人ニ比スレハ十四人ヲ減シタリ

(十六) 本店及ヒ支店ノ經費 本店ノ經費ハ二十五萬九千七百八磅ニシテ支店ノ分ハ二十四萬七千六百六十二磅ナリ又本支兩店ニ關スル普通經費ハ正貨及



ヒ證券運送費六千四百四十磅政府へノ納稅額九萬七百三十三磅其他雜費二千萬  
 四百八十八磅合計十一萬八千三百六十一磅ナリ右三口總計六十二萬五千七百  
 三十一磅ナリ  
 (十七) 配當金 八十六年度ノ利益ハ營業不振ノ結果トシテ自ラ減少シ配當金  
 モ亦隨ヒテ減少セリ即チ八十六年ノ上半期ニ對スル配當ハ一株ニ附キ三磅一  
 志一片同シク下半年分ハ二磅十七志七片ニシテ全年分六磅七志八片ナリ而シ  
 テ一株ニ對スル一年分稅額三志八片ナルヲ以テ差引配當實額ハ一株ニ付キ六  
 磅四志ナリキ

### 第六節 獨逸ノ銀行業

獨逸ノ銀行業ハ方今歐洲ニ於テ第三位ニ在リト雖モ漸々盛況ニ進ミ將ニ大陸  
 ノ銀行ノ霸王ヲラントスルノ勢アリ  
 凡ソ獨逸ニ於テ銀行ノ名稱チ有スルモノニ三種アリ即チ(第一)紙幣發行銀行(第  
 二)抵當銀行及ヒ(第三)株式銀行是ナリ而シテ其中實際眞ノ銀行業ニ從事スルモ

ノハ第一ノ紙幣發行銀行ナリ  
 今千八百八十年十二月ノ調査ニ據レハ獨逸帝國銀行其他諸銀行(但シ抵當銀行  
 チ除ク)ノ實況ハ左ノ如シ

	帝國銀行	諸他銀行	合計
資本高	六、〇〇〇、〇〇〇	七、五〇〇、〇〇〇	一三、五〇〇、〇〇〇
紙幣發行高	四一、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	五一、〇〇〇、〇〇〇
準備金高	二九、五〇〇、〇〇〇	六、〇〇〇、〇〇〇	三五、五〇〇、〇〇〇
預金高	九、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	一二、五〇〇、〇〇〇
割引高	二四、五〇〇、〇〇〇	一四、〇〇〇、〇〇〇	三八、五〇〇、〇〇〇

又同時ニ於ケル抵當銀行ノ資本金額ハ千八百萬磅ニシテ其紙幣發行高ハ八千  
 萬磅ナリ

獨逸ノ銀行業ハ右ノ表ニ示スカ如ク過半ハ皆帝國銀行ノ所占タリ是ヲ以テ帝  
 國銀行ハ常ニ同國ノ金融上ニ巨大ナル勢力チ有ス故ニ獨逸銀行業ノ一斑ヲ知  
 ラント欲セハ帝國銀行ノ事業ヲ研究スルニ如カサルナリ請フ左ニ千八百八十



五年三月十八日ノ同銀行總會ニ提出セラレタル千八百八十四年度ノ報告書ヨリ要項ヲ抜摘シテ同銀行ノ事業ノ概況ヲ示サン

(一) 獨逸帝國銀行ノ本店ハ柏林ニ在リテ其支店ノ數二百十九箇所アリ今支店所在地ノ重要ナルモノヲ舉グレハブレームン、ブレスラウ、キヨルン、ダンジヒ、ドルトムンド、フランクフルト、アンデル、マイン、漢堡、ハノヴェル、ボーゼン、ステツナン、ストラスブルヒ、スツットガルトナリ

(二) 千八百八十四年ニ於テ帝國銀行カ取扱ヒタル金額ハ實ニ巨大ナルモノニシテ本店ニ於テ十一億五千四百四十二萬二千五百五磅支店ニ於テ二十四億二千八百一十一萬七千八百八十磅合計三十五億七千九百五十三萬九千六百八十五磅ニ上レリ而シテ此金額ヲ千八百八十三年度ニ於ケル三十一億三千九十八萬五千二百九十五磅ニ比スレハ八十四年ニ於テハ四億四千八百五十五萬四千三百九十磅ヲ増加セリ

(三) 株主及ヒ株數ノ運動ヲ示サンニ千八百八十三年十二月三十一日ニ於テハ其數七千五百八十七人其株數四萬株内内國人ニシテ株主タル者六千二百二十七

人其株數二萬九千五百五十四株又外國人ニシテ株主タル者千四百六十八人其株數一萬四百四十六株アリシカ千八百八十四年十二月三十一日ニ於テハ株數ハ依然四萬株ニシテ株主ハ七千六百二人内内國人六千四百四十人其株數二萬九千六百七株又外國人千四百六十二人其株數一萬三千九十三株トナレリ即チ内國人株主ニ於テ十三名外國人株主ニ於テ二人ノ増加ニシテ外國人ヨリ内國人ノ手ニ歸シタル株數ハ五十三株ナリトス

(四) 又無利息預リ金額ハ千八百八十四年一月一日ニ於テハ一万四千四百一磅ニシテ同年中ニ預込マレタル金額ハ八萬三千三百四十一磅、合計九萬三千七百四十二磅ナリシカ同年中ニ引出サレタル金額八萬三千二百三十二磅ヲ引去レハ差引キ十二月三十一日ニ於ケル預リ金現在額ハ一萬七百四十磅ニテ同年々首ニ比較スレハ三百三十九磅ノ増加ナリ

(五) 又同年中銀行紙幣ノ流通高ハ三月十五日ニ於テ最低額即チ三千三百三十萬九千三百磅トナリ十二月三十一日ニ於テ最高額即チ四千二百七十萬六千八百五十磅ニ上リ其平均額ハ三千六百六十四萬五千三百磅ナリ今之ヲ前年度ニ



於ケル平均額三千六百八十六萬二千三百磅ニ比スレハ凡二十一萬七千磅ヲ減少セリ而シテ千八百八十四年十二月三十一日ニ於テ帝國銀行ハ準備正金ヲ要セサル紙幣發行制限高ヲ超過シテ百六十三萬三千九百三十五磅ヲ發行セシカ故ニ銀行條例第九條ニ據リ右超過發行額ニ對シ千七百二磅ノ税金ヲ政府ニ上納セリ

(六) 又正金準備ハ金貨金塊其他通常硬貨ヨリ成ルモノニシテ其金額ノ最少ナリシハ十二月三十一日ニテ二千五百八十九萬千四百磅又其最多額ニ上リシハ六月二十三日ニテ三千百八十四萬九千二百五十磅ニ達セリ即チ其平均現在額ハ二千九百五十八萬六千二百五十磅ニシテ之ヲ前年度ノ平均現在額三千九萬三千二百五十磅ニ比スレハ五十萬七千磅ヲ減少セリ又此正金準備額ト紙幣發行高トヲ比算スルニ銀行紙幣ノ八割七厘四毛ハ準備正金ヲ有スル割合ナリ

(七) 權利即チ貸方ニ屬セル計算ハ千八百八十四年一月一日ニ現存セル前年度ノ持越金額七百二十萬八千三百三十五磅其八十四年中ニ新ニ生シタルモノ十三億千六百七十四萬八千六十三磅(八十三年度ノ新規出來高ハ十億九千五百十

五萬三千五百磅)ニシテ合計十三億二千三百九十五萬七千三百九十八磅ナリ又其義務即チ借方ニ屬セル計算ハ現金支拂高四億九千二百八十七萬九千九百二十八磅權利移讓ニ由リ八億二千二百二十六萬五千二百九十九磅ニシテ合計十二億千五百十四萬四千五百七十七磅(前年度ニ於テハ十億九千四百五十二萬三千九百六十四磅)ナリ故ニ千八百八十四年十二月三十一日ニ於テ權利金額ノ義務金額ヨリ多キコト八百八十一萬六千九百四十一磅ナリ

(八) 獨逸帝國政府及ヒ聯邦ノ權利金ニ屬スル金額ハ千八百八十四年一月一日ニ於ケル前年度ヨリノ持越金額百一十一萬七千四百四十二磅又八十四年中ニ拂込マレタルモノ五千七百二十一萬六千六百六十三磅ニテ合計五千八百三十三萬三千八百五磅ナリ而シテ同年中ニ此金額ヨリ五千五百五十九萬三千四百六磅ヲ引出セシヲ以テ差引八十四年十二月三十一日ニ於ケル帝國及ヒ聯邦ノ權利金ハ二百七十四萬三百九十九磅ナリキ

(九) 千八百八十四年中獨逸帝國銀行ノ取引勘定所(九箇所アリ)ノ取引高ハ六億六百五十萬九千八百五磅ナリ又同年三月一日ヲ以テプレスラウニ又四月一日



ヲ以テブレームニ執レモ新ニ勘定所ヲ開設セリ

(十) 準備金額ハ千八百八十四年四月一日ノ現在額百一萬五千四百十七磅ナリ之ニ銀行條例第二十四條第二項ニ定ムル所ニ據リ同年中ノ純利益ノ二割即チ五萬二千四百八磅ヲ加ヘテ十二月三十一日ニ於テハ百六萬七千八百二十五磅トナレリ

(十一) 帝國銀行所有ノ不動産價額ハ千八百八十四年一月一日ニ於テ九十六萬四千九百二十五磅ニテ之ニ同年中ノ増加額九千七百五十磅ヲ加ヘテ合計九十七萬四千六百七十五磅トナレリ此等ノ不動産ハ銀行ノ所用ヲ充ツスノ外ニ同年ニ於テ借地料トシテ千七百八十五磅ヲ生ズルモノニシテ此取得金ハ利益ノ内ニ算入セラレタリ

(十二) 千八百八十四年一月一日ニ於ケル帝國銀行所有ノ割引手形ノ現収入八萬二千九百九十六通此金額九百五十七萬三千九百三十八磅ナリ又同年中ニ割引セル手形ノ數ハ四十九萬二千九百十九通此金額五千九百七十四萬六千三百三十五磅前年度ニ於ケル割引金額五千九百九萬五千三百五磅ナリニシテ合計手形

ノ數五十七萬三千三百十五通此金額六千九百三十二萬二千六百六十三磅ナリ而シテ此内同年中ニ満期仕拂濟トナリタルモノハ四十八萬九百三十八通此金額五千八百三十二萬千六十一磅千八百八十三年ニハ五千四百八十七萬八千二百二十八磅ナリシヲ以テ差引千八百八十四年十二月三十一日ニ於テ帝國銀行カ所持セル割引手形ハ九萬二千三百七十七通此金額千九百九十九萬九千二百二磅(此内本店ノ有セルモノ九十八萬五千七百十五磅支店ノ有セルモノ千一萬三千四百八十七磅ナリ)ナリ又此割引業ニ對スル利益ハ三十萬六千三百四磅ニシテ之ヲ前年度ニ於ケル二十九萬九千九百九十二磅ニ比スレハ七千百十二磅ヲ増加セリ又割引手形ノ最多額ニ達セシハ十二月三十一日ニテ千九百九十九萬八千九百磅又其最少額ナリシハ二月二十三日ニテ六百七十二萬千磅ニ降レリ又割引手形ノ平均一通ノ價額ハ百二十二磅ニシテ其支拂期限ハ短キハ十三日長キハ七十五日ニテ平均五十日ナリ

(十三) 内國爲替手形ノ數ハ千八百八十四年一月一日ニ於テ十六萬六千二百二十三通此金額千三百三十萬八千五百七十七磅ナリシカ同年中ニ新ニ出來タル手



形ノ數百九十一萬千九百六十通此金額一億四千二百六十萬六千二百九十三磅  
 (千八百八十三年ニハ一億三千五百三萬五千三百三十磅)ニシテ又同年中ニ滿期  
 仕拂濟トナリタルモノ百七十三萬百十二通此金額一億二千八百三十七萬七千  
 四百六十八磅(八十三年ニハ一億三千五百八十七萬五千九百四十五磅)ナリシテ  
 以テ千八百八十四年十二月三十一日ニ現存セルモノハ十七萬一千八百四十八  
 通此金額一千四百二十二萬八千八百二十五磅(內百九十四萬六千七百七十八磅ハ  
 本店ニ屬シ一千二百二十八萬二千六百四十七磅ハ本店ニ屬ス)而シテ右爲換手  
 形ニ由リテ得タル利益ハ本店ニテ四萬百四十四磅本店ニテ三十四萬四千二百  
 一磅合計三十八萬四千三百四十五磅ナリ今之ヲ八十三年ノ利益四十一萬百二  
 十四磅(內本店三萬九千四百六十磅支店三十七萬六千六百六十四磅)ニ比スレハ二萬  
 五千七百八十磅ヲ減シタリ又八十四年中ニ於ケル手形ノ平均金額ハ一千三十  
 一萬八百磅(八十三年ニハ一千四十一萬九千八百磅)ニシテ其最高額ハ十二月三  
 十日ニ一千四百二十二萬四千九百磅又最低額ハ三月十五日ニ七百六十九磅五  
 千八百五十磅ナリ又此手形ノ平均一通ノ金額ハ七十五磅ニシテ仕拂日限ハ短



キハ十一日ヨリ長キハ六十六日ニシテ平均二十九日トス

(十四) 千八百八十四年十二月三十一日ニ現存セル手形ノ流通期限ハ左ノ如シ

十五日以内ノモノ	九、九一四、〇四五磅
十六日乃至三十日ノモノ	四、八五〇、六一五磅
三十一日乃至六十日ノモノ	六、五五〇、三一五磅
六十日以上ノモノ	三、九一三、〇五〇磅
合計	二五、二二八、〇二五磅

右二千五百二十二萬八千二十五磅ハ前ヲ掲ケタル割引手形一千九十九萬九千磅ト内國爲換手形千四百二十二萬八千八百二十五磅ヲ合計シタルモノナリ

(十五) 外國爲換手形ハ千八百八十四年一月一日ヲ於テ其數八百九十五通此爲換相場ハ四十九萬七千二百八十一磅ナリシカ同年中出入セルモノヲ加扣シ十二月三十一日ニハ七百六通此金額三十五萬三千四百四磅ニテ其爲換相場ハ三十六萬五千六十九磅ナリ此價格ノ差一萬一千六百六十五磅ハ利益ニ屬スルモノニシテ先年ニ比スレハ一千六百八十四磅ヲ增加セリ又外國爲換手形ハ周年



平均高ハ二十三萬一千五百五十磅ニシテ其最高額ニ達セシハ一月三十一日ニテ其金額六十萬二千七百五十磅又其最低額ニ下リシハ九月二十三日ニテ其正金額一萬九千五百磅ナリ

(十六) 帝國銀行カ自己ノ勘定ナ有セサル人ノ手形ヲ取扱ヒタルモノ八千二百六十七通此金額三十萬八千二百二十二磅(千八百八十三年ハ三十二萬九千六百六十七磅)ニシテ此取引ニ對スル手數料ハ五百二十八磅(先年ニハ六百十五磅)ナリ而シテ此等手形平均一通ノ價格ハ三十六磅ナリ

(十七) 以上列舉シ來リタル所ノ各種手形ノ數及ヒ其價額ノ總計ハ左ノ如シ

割引手形	四九〇、三一七	五九、七四六、三二五
内國爲換手形	一、七三三、八四七	一二九、二四八、四八一
外國爲換手形	六、四一八	二、一八一、五四五
自己ノ勘定ナキ人ニ對スル手形	八、二六七	三〇〇、八二二
合計	二、二三八、八五一	一九一、四七七、一七三

今此合計ヲ以テ千八百八十三年ノ合計二百三十萬二千八百四十二通此金額一

億九千二百六十三萬八千三百三十三磅ニ比スレハ八十四年ニハ數ニ於テ六萬三千六百六十九通金額ニ於テ百十五萬三千十磅ヲ減シタリ

以上諸種手形類ノ取引ヨリシテ取得セル利益總額ハ七十萬二千八百四十二磅ニシテ八十三年ノ七十一萬九千九百九磅ニ比スレハ一萬七千六十七磅ヲ減少セリ

(十八) 倫敦ロムバードニ對スル立替金ハ千八百八十四年一月一日ニ於テ四千六百七十四口ニテ三百七十九萬二千八百五十磅ナリシカ同年中出來タル新口ハ五千二百二十四口此金額三千八百二十六萬七百七十五磅ニシテ合計九千八百九十八口此金額四千二百五萬三千二十五磅(前年ニハ三千五百二十一萬磅)トナル而シテ同年中ニ拂戻サレタル四千七百六十九口三千五百四萬六千九百十六磅(前年ハ三千五百六十五萬九千九百八十八磅)ヲ差引キ十二月三十一日ニ於ケル立替金ハ五千二百二十九口ニテ七百六十六萬九千九百九磅ナリ又右取引ニ由リ得タル所ノ利子ハ本店ニ於テ三萬一千三百六磅(前年ハ三萬四千五百五十四磅)支店ニ於テ八萬四千三百五十六磅(前年ハ八萬一千七百七十七磅)合計十一萬五千六百六十



二磅(前年ハ十一萬五千三百三十一磅)ニシテ前年ニ比スレハ三百三十一磅ヲ増加セリ又八十四年中ノ立替金ノ平均額ハ二百四十五萬九千四百磅(前年ハ二百二十九萬二千二百磅)ニテ其最高額ニ上リシハ十二月三十一日ニシテ七百萬六千二百五十磅又其最低額ニ下リシハ三月二十三日ニシテ百七十四萬九千二百五十磅ナリ

(十九) 本店及ヒ支店ヨリ出セル振出手形ノ數並ニ金額ハ無手数料ノモノ一千四百二十通此金額六十一萬五千九百九十九磅(前年ハ六十九萬二千五百三十三磅)手数料アルモノ三千五百九十三通此金額百二十一萬七千三百四十九磅(前年ハ百五十二萬四百五十三磅)合計五千十三通此金額百八十三萬二千五百四十八磅(前年ハ二百二十一萬七百六十六磅)ナリ又手数料ノ收入高ハ本店ニ於テ十八磅(前年ハ四十五磅)支店ニテ二百五十一磅(前年ハ二百九十六磅)ニシテ合計二百六十九磅(前年ハ三百四十一磅)ナリ即チ前年ヨリ減少スルコト七十三磅ナリ

(二十) 千八百八十四年一月一日ニ於テ帝國銀行カ所有セル金塊及ヒ外國金貨ハ五百七十六萬四千二百八十二磅ナリシカ同年中ニ買入レタルモノ六十七萬



四千二百四十五磅ト賣出シ又ハ鑄造セラレタル二百八十四萬七千八百十三磅ヲ加扣スルキハ年末ニ於ケル現在額ハ三百五十九萬七百十四磅ナリ而ルニ之ヲ金ノ市價ニ引直セハ三百五十九萬七百五十五磅トナルカ故ニ四十一磅ヲ生シタルモノナリ

(二十一) 人民ノ保管預金ノ口數ハ千八百八十四年一月一日ニ於テ四千八十七口ナリシカ同年中ニ新ニ預入レラレタルモノ三千九百十五口又引出サレタルモノ三千六百六十三口ヲ加扣スレハ同年末ニ於テハ其數四千三百二十九口トナレリ而シテ此保管料ハ本店ニ收入セル分二千二百一十一磅(前年ハ二千三十一磅)本店ニ收入セル分三千八百九十九磅(前年ハ三千五百五十五磅)ニシテ合計六千百十磅(前年ハ五千五百八十六磅)ナリ即チ前年ニ比シテ五百二十五磅ヲ増加セリ

(二十二) 普通預金ハ同一月一日ニ於テ十一萬四千五百四十四口此金額六千八百八十四萬六千五百七十七磅ナリシカ同年中新ニ預入レラレタル分四萬一千九百八十五口ノ金額三千八十萬四千二百三十三磅ト同年中ニ引出サレタル分二萬



八千九百六十一口ノ金額二千三百四十一萬六千七百五十三磅ヲ扣増スレハ則チ十二月三十一日ニ於ケルモノハ十二萬七千五百六十八口ニシテ金額ハ六千九百二十三萬三千六百三十七磅(前年ハ六千八百八十四萬六千五百五十七磅)ナリ又同年ニ於テ預入レラレタル各種證券類ノ數ハ三千二十六(前年ニハ二千七百二十九)ナリ又之ニ對スル利子及ヒ配當金ハ二百七十二萬九千九百九十七磅(前年ハ二百四十三萬四千百十磅)ニ上レリ

又右預金及ヒ證券類ノ取引ニ關スル手数料ハ四萬一千三百十七磅(前年ハ三萬四千三百二十三磅)ニ上レリ  
(二十三) 千八百八十四年ノ帝國銀行ノ事務費ハ中央事務費六萬五千四百八十二磅又各別事務費本店ハ四萬一千百十九磅支店ハ十八萬九千二百六十二磅ニテ事務費總額ハ二十九萬五千八百六十三磅ナリ但シ此内ヨリ引去ルヘキモノ百九十八磅アルヲ以テ差引純費額ハ二十九萬五千六百六十五磅ナリ  
(二十四) 諸取引ヨリシテ得タル利益總額ハ九十一萬七千二百二十二磅ナリ又之ニ不確實ト認メタル證書ニ對シ準備金中ヨリ別途豫備シ置キタル金額一萬

七百四十七磅ヲ加ヘテ總額九十二萬七千九百六十九磅ト成ル而シテ此金額ヨリ事務費二十九萬五千八百六十三磅銀行券製造費五千七十五磅千八百五十五年五月十七十八日ノ條例第六條ヲ以テ制定スル所ニ據リ李國政府ニ納ムル金高九萬三千二百八十七磅及ヒ銀行條例第九十ノ兩章ニ據リ銀行紙幣ニ對スル税金一千七百二磅以上合計三十九萬五千九百二十七磅ヲ差引スルキハ純利益五十三萬二千四十二磅ト成ルヘシ

## 第六節 北米合衆國ノ銀行業

從來合衆國ノ銀行制度ハ最モ離心的ニ傾ケルモノニシテ苟モ法律所定ノ手續ヲ履行スル銀行ハ各自紙幣ヲ發行スルヲ得ルモノナリキ斯ノ如ク紙幣發行ノ自由ニシテ且ツ容易ナルヤ自ラ濫發ノ弊ニ陥リ易ク隨テ破産者ノ數他國ニ比シテ常ニ多キヲ見ル即チ千八百十一年乃至千八百二十年ノ間ニ於テ銀行ノ破産スルモノ百九十五ニシテ千八百二十年五月十二日附ノ同國大藏卿ノ報告書ニ當時ノ如キ市場ノ困難ハ未ダ曾テ見サル所ナリト云ヘリ然リト雖モ此貨幣



市場ノ擾亂ハ之ヲ其後千八百三十四年前後ノ景況ニ比スレハ更ニ言フニ足ラサルモノナリ左ニ示ス所ノ數ヲ覽テ以テ其紙幣濫發ノ甚大ニシテ金融上ノ困難ノ非常ナリシヲ推知スヘシ

年次

紙幣發行高

年次

紙幣發行高

一八三〇

六六、六二八、九八〇

一八三六

一四〇、三一〇、六三九

一八三四

九四、八三九、五七〇

一八三七

一四九、一八五、八九〇

一八三五

一〇三、六九二、四九五

斯ノ如ク僅ニ數年ニシテ紙幣發行高ノ二倍以上ニ上ルヤ其貨幣市場ニ激變ヲ與ヘ信用取引ヲ危殆ノ地ニ陥ラシムルコトハ決シテ智者ヲ俟テテ之ヲ知ルヲ要セサルナリ即チ其結果ハ終ニ千八百三十七年ヲ以テ到リ合衆國內ノ銀行ニシテ爲ニ其正金仕拂ヲ停止セサリシハ一トシテ之ナカリシト云ヘリ(千八百三十七年ニ於ケル合衆國銀行ノ數ハ七百八十八行ニシテ其資本金額ハ二億七千七百十七萬二千弗ナリ又當時ノ驚慌ハ世ニ之ヲ野猫驚慌ト稱ス)然リ而シテ此等ノ驚慌ノ影響ハ必ス先キノ濫發暴張ノ反動トシテ急激ナル紙幣即チ通貨ノ減縮

チ來タシ爲メニ又非常ノ困難ヲ金融上ニ致スモノナリ即チ千八百三十七年ニ於テ一億四千九百十八萬五千八百九十弗ノ巨額ニ達シタリシ所ノ銀行紙幣ハ千八百四十二年ニ至リテハ八千三百七十三萬四千弗ニ減シ翌四十三年ニ於テハ更ニ急ニ減シテ五千八百五十六萬三千弗トナレリ是ニ於テカ再ヒ驚慌ヲ來タシ爲メニ倒産セシ銀行ノ數百八十(合衆國銀行モ亦其内ニ在リ)ニ及ヘリ其後千八百五十七年ニ至リテ更ニ一層慘怛タル所ノ驚慌ヲ金融世界ニ發生セシメ金融必迫ノ爲メニ倒産セルモノ七千二百戸ノ多キニ上レリ(委シキコトハ尙ホ後章ニ於テ言フヘシ)

銀行業ノ景況正ニ斯ノ如クナルヤ政府人民共ニ大ニ悟ル所アリ是ヲ以テ國會ハ千八百六十三年二月十三日ヲ以テ國立銀行條例ヲ可決シ大ニ從來ノ弊ヲ矯正セリ即チ此條例ヲ以テ始メテ通貨監督官ヲ置キ其任期ヲ五箇年トシ大統領及元老院ノ認諾ヲ得テ之ヲ任命スルモノトス而シテ此新置官衙ノ直接ノ目的ハ綠背紙幣(即チ政府紙幣)ノ流通及償還ヲ整理スルニ在リテ其間接ノ目的ハ從來ノ州立銀行ヲ沮滅シ之ニ代フルニ國立銀行ヲ以テセントスルニ在リタリ



此國立銀行條例發布ノ當年即チ千八百六十三年一月一日ノ調査ニ據レハ當時  
 現存ノ州立銀行ノ數ハ合計千四百六十六行ニシテ其内五百七行ハ東部諸州ニ  
 屬シ四百九十一行ハ中央諸州百四十七行ハ東南部諸州百十四行ハ西南部諸州  
 二百七行ハ西北部諸州ニ屬セリ又此千四百六十六行ノ資本金總高ハ四億五百  
 萬弗銀行紙幣流通額二億三千八百萬弗預金三億九千三百萬弗正金一億百萬弗  
 ナ有セリ又千八百五十一年乃至千八百六十二年ノ毎年一月一日ノ調査ニ係ル  
 州立銀行ノ現在數ハ左ノ如シ

年次	銀行ノ數	年次	銀行ノ數
一八五一	八七九	一八五八	一四二二
一八五四	一二九八	一八五九	一四七六
一八五五	一二九八	一八六〇	一五〇二
一八五六	一三九八	一八六一	一六〇一
一八五七	一四一六	一八六二	一四九六

國立銀行條例ニ據リ千八百六十三年六月三日ヲ以テ第一國立銀行設立セラレ

ナヨリ僅ニ數年ニシテ國立銀行ノ數既ニ千以上ニ上レリ即チ千八百六十七年  
 十月ノ調査ニ據レハ國立銀行ノ數ハ千六百三十九行ニシテ其資本金額四億二  
 千四百三十九萬四千八百六十一弗銀行紙幣發行高二億九千九百十萬三千九百  
 九十六弗ニ達セリ而シテ當時既ニ夥多ノ困弊ヲ經驗セシト新條例實施ノ効驗  
 トニ依リ銀行倒産ノ事極メテ僅少トナレリ即チ千八百六十三年六月二十日ヨ  
 リ千八百六十七年十月一日ニ至ル間ニ於テ倒産セルモノ僅ニ九行ニシテ其負  
 債額ハ四百五十六萬弗ニシテ結局人民ノ蒙リシ所ノ損失額ハ大約百萬弗ニ過  
 キカリキ

爾來國立銀行州立銀行共ニ大ニ増加シ千八百八十二年ニ於テハ國立銀行二千  
 百三十二行州立銀行四千六百八十一行ニ増加セリ今マルホル氏ノ統計字典  
 ニ據レハ千八百三十年以降合衆國ニ於ケル銀行ノ數拂込資本金額及紙幣發行  
 高ハ左ノ如シ

年次	銀行ノ數	拂込資本金額	紙幣發行高
一八三〇—三九	八三五	五三	二二



一八四〇—四九	七六〇	四三	六六
一八五〇 六〇	一四七五	七九	二二
一八六一 七八	三一〇〇	一〇一	四〇
一八七九 八〇	六三六〇	一三一	七〇
一八八二	六八一三	一四五	七一

又千八百八十年十二月ニ於テハ合衆國各地方ノ銀行業ノ景況左ノ如シ

地方	銀行ノ數	資本及預金額	一人ニ對スル金額
新英蘭	一〇八〇	一四四 <small>百万</small>	三六
中央諸州	一九二〇	二四四	二一
南部諸州	六七〇	三一	二
西部諸州	二六九〇	一一二	六
合計	六三六〇	五三一	一〇

又合衆國ニ於ケル國立銀行ノ株主ハ二十萬八千人ニシテ株主一人ニ付キ平均大約七百磅ヲ所有スル割合ナリ(大不列顛ニ於テハ株主一人ノ所有高ハ平均八

百磅ナリ今千八百八十一年十月ニ於ケル國立銀行ノ景況ト其八年前即チ千八百七十三年十月ニ於ケルモノトチ比較スレハ左ノ如シ

	一八七三年十月	一八八一年十月	增加百分比
資本金高	九〇 <small>百万</small>	九七 <small>百万</small>	八
準備金高	三二	三八	一八
紙幣發行高	六二	六七	八
預リ金高	一一八	二二五	九〇
割引高	一七四	二四五	四〇

又千八百八十年ニ於テ合衆國內ニ存在セル富財ノ總額ト銀行業ニ投入セラレタル金額トチ比較スレハ則チ左ノ如シ

地方	銀行業資本金	富財	銀行業資本金	富財
新英蘭	一四四 <small>百万</small>	九九〇 <small>百万</small>	三六	二四八
中央諸州	二四四	三二八〇	二一	二八三
金融論			六七	

總

人口分

頭額



南部諸州	三一	八八四	二	五八
西部諸州	一二二	三一八二	六	一七〇
合計	五三一	八、三三六	一〇	二六〇

合衆國ニ於ケル銀行業ノ景況ハ前陳スル所ヲ以テ畧之ヲ窺知スルヲ得ヘシ而シテ其貨幣市場即チ金融上ニ及ホス所ノ利害得失ハ後章更ニ詳論スル所アラントス

以上舉示シタル所ヲ以テ歐米諸要國ニ於ケル金融上作力ノ中心タル銀行業ノ實況ヲ畧述シタレハ余ハ次章ヨリシテ彼ノ久シク倫敦經濟雜誌ノ主筆タリシ故ハセオット氏ノ有名ナル著書「ロンドン・ストリート」ニ據リ主トシテ英國金融事情ノ要點ヲ講究セントス而シテ今余カ茲ニ主トシテ英國ニ就キテ論究スル所以ノモノハ他ナシ英國ハ金融業ニ關シテ最重要ナル邦國ニシテ同國ノ金融事情ヲ了知セハ以テ能ク諸外國ノ金融事情ヲ推知スルコト蓋シ難カラサルヘキヲ信スレハナリ

### 第三章 英國金融市場ノ概況

英國ノ金融ハ其作力ノ中心實ニ倫敦ニ在ルモノナリ而シテ倫敦ニ於ケル該事務ハ英蘭銀行、私立銀行、合本銀行及手形仲買人ノ手ニ存ス今右四者ノ業務ヲ各別ニ論スルノ前ニ於テ先ツ各種共通ノ事務ト其相互ノ關係トヲ研究セサルヘカラス

リカード氏嘗テ曰ク銀行者ノ本職ハ他人ノ資金ヲ使用スルニ在リト凡ソ自己所有ノ資金ヲ使用スルハ是レ唯尋常資本家ノ所業タルノミ未タ以テ銀行家タラサルナリ是ヲ以テ彼ノ英國金融業ノ中央集權地タルロンドン・ストリート街ノ諸銀行(手形仲買人モ亦一種ノ銀行家タリ)ノ如キモ皆概シテ他人ノ資金ヲ運轉利用スルモノニ過キス而シテ其取引ハ主トシテ信用取引ナリトス  
信用取引トハ一定期仕拂ノ約束ナリ而シテ信用ノ良否ハ實ニ仕拂ノ確否如何ニ在ルモノニシテ殊ニ銀行業ニ於テハ其信用取引額ノ概シテ大ナルニモ拘ラズ其仕拂期限ハ短キヲ常トス斯ノ如ク信用取引額ノ大ニシテ仕拂期限ノ短キ



カ故ニ銀行業者ハ其信用取引ニ關シテハ須ク非常ノ注意ヲ要スヘキナリ  
 非常ノ注意ヲ要スルトハ果シテ如何ナル點ニ注意スヘキヤ他ナシ銀行業者ハ  
 合法通貨ヲ十分ニ準備シテ以テ權利者ヨリノ不時ノ要求ニ應スルコトヲ務メ  
 サルヘカラス抑合法通貨ニ關シテハ諸國其制度ヲ一ニセス然リト雖モ合法通  
 貨制度如何ノ如キハ銀行實業者ニ於テ必スシモ之ヲ論スルヲ要セサルナリ勿  
 論貨幣制度ニシテ善良ナルトキハ即チ其國ヲ利シ不良ナルトキハ即チ之ヲ害  
 スルハ是レ固ヨリ當然ノ理數ナルカ故ニ銀行業者ノ如キモ貨幣制度ノ良否ニ  
 因リテ間接ニ利害ヲ受クルモノナリト雖モ直接ニハ之カ利害ヲ感スルモノニ  
 アラス例ヘハ北米合衆國ニ於テハ綠背紙幣即チ政府紙幣ハ合法通貨ナリ而シ  
 テ此政府紙幣ノ發行高ハ政府力隨意ニ増減スルヲ得ルモノナルカ故ニ同紙幣  
 ノ價格ハ其發行高ノ多寡ニ依リテ時々高低アルヲ免レサルモ合衆國ノ銀行ハ  
 此貨幣制度ノ良否如何ニ注意スルヲ要セスシテ單ニ權利者ノ要求ニ對シ十分  
 ノ紙幣即チ合法通貨ノ準備如何ニ注意スルヲ以テ足レリトス苟モ此準備額ニ  
 シテ十分ナラハ其銀行ハ安全ニシテ毫モ倒産ノ憂ナキモノナリ

今英國ノ貨幣制度ニ據レハ合法通貨ハ金貨銀貨(銀貨ノ合法通貨タルノ資格ヲ  
 有スルハ一口四十志以下ニ限ラレタリ)及英國銀行紙幣ヨリ成ル然リ而シテ此  
 英國銀行紙幣ノ發行高ハ彼ノ合衆國ニ於ケルカ如ク政府ノ隨意ニ任スルモノ  
 ニアラスシテ現今英國銀行カ政府ノ公債證書類ニ對シ發行シ得ル所ノ銀行紙  
 幣額ハ一千五百七十五萬磅ニシテ其餘ハ必ス地金準備アルニアラサレハ一磅  
 タリトモ發行ヲ許サス(元來英國銀行ノ正金無準備ノ發行額ハ彼ノ有名ナル千  
 八百四十四年ノ銀行條例ヲ以テ千五百萬磅ニ制限セラレシカ英國銀行ハ千八  
 百八十一年四月ニ於テ彼ノ千八百四十四年ノ條例所定ノ條款ニ據リ地方銀行  
 カ放棄セル紙幣發行權ヲ収占シテ更ニ七十五萬磅ヲ増發スルノ權ヲ得タルニ  
 由リ現今ハ都合千五百七十五萬磅ヲ發行シ得ルニ至リタリ)  
 斯ノ如ク正金ノ準備ヲ要セサル紙幣發行高ニ嚴制ヲ設クル事ノ利害得失ニ關  
 シテハ固ヨリ論辯スル者多ク或ハ此制度ヲ以テ弊害アリトシ或ハ之ヲ以テ利  
 益アリトシ議論紛々未タ決スルニ至ラス然リト雖モ此等ノ論點ハ之ヲ銀行論  
 ニ讓リテ茲ニ之ヲ贅セス銀行實業者ニ於テハ英國銀行紙幣ハ右方法ニ據リテ



發行セラル、モノタル事ヲ知ルヲ以テ足レリトス是故ニ英國銀行業者カ其營業事務上當ニ務ムヘキハ權利者ヨリノ仕拂請求ニ對シ合法通貨即チ正貨及英蘭銀行紙幣ノ十分ナル準備額ヲ有スルニアリ然リ而シテ茲ニ豫メ注意シ置カサルヘカラサル一事アリ他ナシ銀行カ日常取引用ニ供スル現在所有金額ハ之ヲ不時ノ要求ニ應スルカ爲メニ備置シ所ノ所謂準備額ニ算入スヘカラサルノ一事即チ是レナリ

抑、英國銀行ノ準備金額ハ幾千ナリヤ其準備額ハ以テ能ク其巨大ナル信用取引ニ對シ十分ナルモノナリヤハセオツト氏曰ク此準備金額ノ多少如何ニ就キテハ實ニ非常ノ注意ヲ要スルモノニシテ又其眞況ヲ知ルハ實ニ英國金融事情ノ眞面目ヲ闡知スルノ管鑰ナリト今其實際ヲ概言センニ英國銀行ヲ除キテハ倫敦内外ノ諸銀行ハ殆ト皆單ニ其日常取引ノ現在金ヲ有スルニ止リテ不時ノ要求ニ對スル準備金額ノ如キハ之ヲ有セスト云フモ不可ナキノ有様ナリ而シテ英國銀行ノ準備金額ト雖モ是レ亦決シテ大ナリト謂フヲ得ス乃チ英國銀行ノ銀行部ノ勘定ニ據リテ其實況ヲ知ルヘキナリ

千八百六十九年十二月二十九日ニ於ケル銀行部ノ勘定書ハ左ノ如シ

借方		貸方	
株金	一四、五五三、〇〇〇	公債證書類	一三、八一、九五三
積立金	三、一〇三、三〇一	他ノ證書類	一九、七八一、九八八
政府預金	八、五八五、二一五	銀行紙幣	一〇、三八九、六九〇
他ノ預金	一八、二〇四、六〇七	金銀貨	九〇七、九八二
七日拂、其 他ノ手形	四四五、四九〇		
合計	四四、八九一、六一三	合計	四四、八九一、六一三

今右ノ勘定書ニ據レハ英國銀行カ仕拂フヘキ義務金額ハ株金ト積立金トヲ除キテ官廳預リ金八百五十八萬五千磅私民預リ金一千八百二十萬五千磅七日拂其他ノ手形類四十四萬五千磅ニシテ合計二千七百二十三萬五千磅ナリ而シテ同銀行カ右義務金額ニ對シ有スル所ノ現在金額即チ不時ノ仕拂要求ニ應スヘキ準備金額ハ銀行紙幣一千三十八萬九千六百九十磅、金銀貨九十萬七千九百八十二磅合計一千百二十九萬七千磅ナリ即チ仕拂フヘキ金額ニ對シ仕拂ヒ得ヘ



キ實存金額ハ大約三分ノ一ニ過キス勿論其所有タル公債證書及爾他ノ證券類ハ臨時必要アルトキハ之ヲ賣却シテ以テ通貨ニ換ヘ得ヘシト雖モ此手段ヲ以テハ概シテ十分ノ好結果ヲ收ムルコト難キモノナリ(證券類賣却ノ事ニ就キテハ後章ニ於テ之ヲ詳論スヘシ)而シテ右義務金額ト權利金額トノ割合ハ近時ニ至リテハ益隔離スルノ傾向ヲ呈セリ左ニ本年二月ノ倫敦銀行雜誌ニ據リ示ス所ノ千八百八十六年十二月二十九日ノ銀行部ノ勘定等ヲ見テ之ヲ知レ

借方

貸方

株金	一四、五五三、〇〇〇	公債證書類	一三、一三二、一五一
積立金	三、一三六、二二七	他ノ證書類	二三、〇六七、一〇九
政府預金	四、三六三、〇四九	銀行紙幣	八、九八五、三三〇
他ノ預金	二四、一三八、一六〇	金銀貨	一、一四八、〇八九
七日拂、其 他ノ手形	一四二、二四二		
合計	四六、三三二、六七九	合計	四六、三三二、六七九

即チ右ノ表ニ據レハ仕拂フヘキ金額ハ三千六十四萬三千四百五十二磅ニシテ

仕拂ヒ得ヘキ金額ハ一千十三萬四千四百二十九磅ナリ即チ權利金額ニ對シ義務金額ノ多キコト三倍以上ナリ

且ツ英蘭銀行ノ準備金額ノ不充分ナル實相ハ諸他銀行ノ有様ヲ考フルトキハ一層其甚シキヲ感スルモノナリ先ニモ述ヘタルカ如ク諸他ノ銀行ハ其日常用現在金ノ外ハ總テ其餘有リ金額ヲ英蘭銀行ニ預ケ入レテ自ラ平時ニ於テ準備金ヲ有セス是レ蓋シ諸銀行ノ爲メニハ簡便ニシテ且ツ安全ナル準備法ナレハナリ夫レ平常不要ノ金員ヲ手許ニ置クニハ多少注意ト費用トヲ要スルモノナリ是故ニ今日ニ於テハ一個人ト雖モ餘財アルトセハ之ヲ信用アル銀行ニ預ケ入レテ自ラ之ヲ保管スルノ勞費ヲ避クルヲ常トス之ト同一ノ理ニ由リテ諸銀行ハ英蘭銀行ヲ信用スルカ故ニ日常不要ノ金額ハ皆之ヲ英蘭銀行ニ預ケ置キ必要アルトキハ何時タリトモ之ヲ引キ出シテ任用シ得ルノ便法ヲ取レリ斯ノ如ク英蘭銀行ハ諸他銀行ノ準備金預リ所タルカ故ニ其仕拂請求ニ應スルノ義務益、重キヲ加フルヲ見ルヘシ

其外手形仲買人ノ如キモ英蘭銀行ニ對シテハ諸他銀行ト同様ノ關係ヲ有スル



モノナリ即チ手形仲買人ニシテ餘分ノ金圓ヲ有スル者ハ之ヲ其手許ニ置カス  
 シテ英蘭銀行若クハ倫敦諸他ノ銀行ニ預置キ必要アル毎ニ隨時之ヲ引出シ使  
 用スルノ例ナリ而シテ此等手形仲買人カ預ケ金ヲ爲ス所ノ諸銀行ハ日常用外  
 ノ金額ハ更ニ之ヲ英蘭銀行ニ預置クモノナルカ故ニ英蘭銀行ハ畢竟手形仲買  
 人ニ對シ直接若クハ間接ニ仕拂義務ヲ有スルモノナリ  
 夫レ斯ノ如ク多額ノ餘分金ヲ銀行ニ預置クハ便ハ即チ便ナリト雖モ而モ亦危  
 險ノ虞ナキコト能ハサルナリ若シ銀行ニシテ一朝破産ノ不幸ニ遇ハ、預ケ主  
 モ共ニ其權利金ヲ失フノ危険アリ是故ニ若シ英蘭銀行ニシテ破産セハ之ニ自  
 家ノ準備金ヲ預托セシ諸銀行モ亦共ニ破産スルノ不幸ヲ見ルヘキナリ夫レ商  
 海狂ヒ信用地ニ墜チントスルノ時ニ於テ英國諸銀行ノ安危如何ハ實ニ英蘭銀  
 行ノ措置宜シキヲ得ルト否ヲサルトニ依ル其危険決シテ尠少ニアラサルナリ  
 今英國ノ銀行史ヲ按スルニ英蘭銀行ノ銀行部ノ準備金非常ニ耗散シタルノ故  
 ナリ以テ彼ノピール氏ノ銀行條例ヲ中止セシコト實ニ三回ニ及ヘリ即チ千八百  
 四十七年ノ恐慌ノ時ニ際シテハ同銀行部ノ準備金百九十九萬四千磅ニ減少シ

千八百五十七年ニハ百四十六萬二千磅ニ降り千八百六十六年ニハ三百萬磅ニ  
 降レリ若シ當時ニ在リテ該條例ノ中止ヲ行フニアラサレハ英蘭銀行ハ決シテ  
 破産ヲ免ル、ヲ得サリシナラン然リト雖モ英蘭銀行カ時ニ斯ノ如キ困難ニ陷  
 ルヤ是レ必スシモ該條例ノ不完全ナルカ爲メニ起レルモノナリトノミ言フヘ  
 カラス何トナレハ實際是等ノ危険ハ彼ノ銀行條例制定前ヨリ早ク既ニ存在シ  
 タレハナリ例ヘハ千八百二十五年ニ於テハ合法通貨ハ專ラ正貨ニシテ英蘭銀  
 行ハ未ダ兩部ニ分別セラレサリシ時ナリシモ當時同銀行ノ準備金ハ實ニ百二  
 萬七千磅ノ小額ニ減少セリ  
 且ツ此英蘭銀行ノ備準金法ハ單ニ英蘭銀行ニ預ケ金ヲ爲ス所ノ諸銀行ニ對ス  
 ル危険ニ止マラスシテ英國全般ノ金融業上ニ大ナル關係ヲ有スルモノナリ凡  
 ソ倫敦諸銀行ノ準備金ハ英蘭銀行ニ預ケ入レラレ而シテ英蘭銀行ハ更ニ之ヲ  
 貸出シテ以テ其業ヲ營ムモノナリ今假ニ英蘭銀行ヲシテ義務金額ノ五分ノ三  
 ヲ貸シ出シ残り五分ノ二ヲ準備金トシテ保持セシメタリトセヨ然ルトキハ若  
 シ諸銀行ノ預ケ入金額ヲ五百萬磅ト見ルトキハ英蘭銀行ハ其三百萬磅ヲ貸出



シ残り二百萬磅ヲ準備ト爲ス割合ナリ而シテ此二百萬磅ノ準備金ハ實ニ諸銀行ニ對シ仕拂義務ヲ果スヘキノ唯存金額ナリ一旦恐慌起リ倫敦金融市場爲メニ紊乱スルノ日ニ於テ英蘭銀行カ諸銀行ノ要求ニ應シ仕拂ヒ得ヘキノハ僅ニ唯此二百萬磅アルノミニシテ而モ此二百萬磅タル是レ亦此等諸銀行カ依リテ以テ其個々ノ預ケ主ノ要求ニ應スヘキノナリ其數額ノ豈ニ彼カ安心能ク依頼スルニ足ルモノナランヤ

加之倫敦ハ英國全體ノ爲メ金融業ノ中心ナルカ故ニ地方銀行ニシテ苟モ餘有アルトキハ之ヲ倫敦ニ致シ其一分ハ之ヲ證券類ニ投入シ殘分ハ盡ク之ヲ倫敦銀行及手形仲買人ニ依托スルノ慣習ニシテ英蘭蘇格蘭愛蘭共ニ皆然リトス是ヲ以テ英蘭銀行部力有スル所ノ準備金ハ實ニ英蘭銀行自家ノ準備金タルノミナラスシテ倫敦全體ノ準備金ナリ否ト單ニ倫敦ノ準備金タルノミニ止マラスシテ實ニ英蘭蘇格蘭及愛蘭ニ對スル準備金ナリ其關係真ニ重且ツ大ナリト謂フヘキナリ

英國内地ニ於ケル事情正ニ斯ノ如シ而シテ今一步ヲ進メテ英國カ世界ニ對ス

ル金融上ノ形勢ヲ察スルニ恰モ其霸王タリ盟主タルカ如キ關係アルヲ見ル即チ英國ハ其世界各地ニ蔓延セル植民地所領地ニ關シ甚大ナル取引ヲ有スルト同時ニ直接ニ間接ニ世界貿易ノ大部分ニ關シテ廣大ナル商業取引ヲ有スルヲ以テ倫敦ハ實ニ世界ノ取引交換所タルノ觀アリ而シテ諸外國ニシテ倫敦ニ對シ巨大ナル取引アルモノハ必スヤ自然應分ノ金額ヲ倫敦ニ於テ有セサルヘカラス彼ノ李佛戰爭ノ時ノ如キハ非常ノ金額倫敦ニ集リ爲メニ倫敦ハ歐洲全体ノ準備金預リ所ノ如キ景狀ヲ呈セリ勿論此等ノ政治的變動ハ一時ノ事ニ過キスト雖モ而モ平和的即チ通商的關係ノ増大スルニ隨ヒテ倫敦ニ預ケ置ク所ノ金額モ亦増加セサルヲ得サルナリ縱令諸外國カ盡ク自分ノ預ケ金ヲ倫敦ニ有セサルモ少クモ在倫敦銀行ト「コレレスポンス」ヲ結ヒ以テ爲換取組ヲ爲サ、ルヘカラス而シテ此等在倫敦ノ諸銀行ハ皆英蘭銀行ニ依頼スルモノナルカ故ニ英蘭銀行ハ直接間接ニ世界各國ノ中央銀行タリ又其準備金預リ所タルノ實アルモノナリスノ如ク英蘭銀行ハ實ニ英國全体ノ中央銀行タリ準備金預リ所タルノミナラス亦世界各貿易國ノ中央銀行タリ準備金預リ所タルヤ其世界



金融上ニ有スル權力ノ巨大ニシテ其從ヒテ生スル責任ノ重大ナルハ言ヲ俟タズシテ明ナルモノナリ是レ世人ノ金融ノ事ヲ論スル者常ニ倫敦ヲ推シ余輩モ亦諸君ト共ニ主トシテ同地金融事情ヲ研究スル所以ナリ

是ニ由リテ之ヲ觀レハ英蘭銀行ハ内國ニ對シテハ勿論外國ニ對シテモ常ニ甚大ナル仕拂義務ヲ有スルモノナリ然リ而シテ外國ヨリノ預リ金ニ對シテハ特ニ注意ヲ要スルモノアリ何トナレハ外國人カ英國銀行ヲ信用スルノ度ハ決シテ英國人民カ英國銀行ヲ信用スルカ如ク厚ク且ツ固キモノニアラサルナリ是ヲ以テ商海波平ニ金融圓滑ナル平日ニ於テハ彼此ノ間別ニ差異アルヲ見サルニ似タルモ若シ一朝政治的若クハ通商的ノ嫌疑變動ノ爲メニ英蘭銀行ニシテ外人ノ信用ヲ失フコトアラシカ外國人ハ毫モ猶豫勘辨スル所ナク急性ニ仕拂ノ要求ヲ爲スヘシ彼ノ千八百六十六年ノ恐慌ノ時ノ如キ即チ其適例ナリ若シ英國殊ニ倫敦諸銀行ニ對シ外國預リ金ノ仕拂要求ノ不時急劇ニ起ルコトアラシカ到底諸銀行ハ之ニ應スルノ正金地金ヲ準備セサルカ故ニ其正金地金ハ概シテ皆之ヲ英蘭銀行ヨリ取り出サ、ルヲ得ス何トナレハ英蘭銀行ヲ外ニシテ

ハ如何ナル所ニ於テカ能ク右等ノ要求ニ應スルニ足ルノ多額ヲ準備スルモノアラシヤ彼ノ重立チタル相場取引人等ノ如キモ自分使用ノ金額ハ之ヲ有スル者アリト雖モ其金額タル決シテ外國ノ要求ニ對シ得ヘキモノニアラス幸ニ外國人ニシテ時期ヲ寛假スルノ好情アラシメハ該外國人ハ身自ラモ十分ノ仕拂ヲ受ケ以テ英蘭銀行ヲモ困窘セシムルコトナク又金融市場ヲモ攪擾セシムルコトナカルヘシ然リト雖モ斯ノ如キ好情ハ概シテ望ムヘカラス不安心ヲ抱ク所ノ外國人ハ毫モ猶豫スルコトナク相疑ヒテ英蘭銀行ニ向ヒ仕拂ヲ要求スルヲ常トス見ルヘシ外國預リ金ノ増加ト共ニ英國殊ニ英蘭銀行ノ金融市場ニ對スル責任及危險ノ増加スルハ實ニ止ムヲ得サルノ數ナルコトナリ

以上述フルカ如キ事情ナルヲ以テ英國信用取引ノ安否ハ實ニ英蘭銀行ノ措置如何ニ依ルモノナリ英蘭銀行理事者ノ見識ハ以テ英國全體ノ信用ノ安危ヲ所定スルモノナリト謂フモ決シテ過言ニアラサルヘシ是ヲ以テ英蘭銀行理事者タル者ハ縱令其名義ニ於テハ英國公衆ノ信用取引上ノ保證人ヲラサルモ其實ニ於テハ正ニ然ルモノナレハ苟モ英蘭銀行ニ入り事務ヲ擔理スル者ハ明ニ其



義務ノ在ル所ヲ辨知シ一舉一動謹慎ヲ旨トシ錯誤失計ナキヲ期セサルヘカラス然ルコト今其實際ヲ觀察スルニ事能ク是ニ適セサルアリテ余輩ヲシテ寒心措ク能ハサラシムルアリ請フ試ニ之ヲ言ハン

抑、英蘭銀行ハ政府ノ勘定ヲ一手ニ引キ受クル所ノ中央銀行ナルカ故ニ其世人一般ニ對シ信用ノ厚キコトハ決シテ尋常一般ノ合本銀行ノ比ニアラサルナリ而シテ英蘭銀行モ亦自ラ政府ノ常ニ保護スルアルヲ思フカ故ニ平素十分心ヲ其位地如何ニ用フルノ勞ヲ執ラサルモノ、如シ即チ英蘭銀行ハ千八百四十四年來既ニ三回モ危險ナル場合ニ立チ到リタルコトアルモ其都度政府ノ助力ヲ得テ其地位ヲ保持スルヲ得タリ若シ此等ノ場合ニ於テ政府來リテ其力ヲ假スユアラサリセハ同銀行ハ必スヤ破産ヲ免レサリシナルヘシ勿論此等ノ場合ト雖モ若シ仕拂要求ヲシテ靜穩不急ナラシメハ當時英蘭銀行銀行部カ有セル準備金額ヲ以テ或ハ能ク其仕拂ニ堪フルヲ得タリシナルヘシト雖モ如何セシスノ如キ場合ニ於テハ仕拂要求急劇ニシテ即座ニ仕拂ハサルヲ得サルカ故ニ當時人民ニシテ英蘭銀行ヲ信用スルコト薄ク尋常一般ノ銀行ト同様ニ續々猶豫

セシテ其銀行部ニ取附ケタリシナラハ同銀行ハ必スヤ其仕拂義務ヲ果ステ得スシテ遂ニ閉店スルノ不幸ニ陥リシナルヘシ然ルニ人民カ英蘭銀行ヲ信用スルノ厚キ毫モ英蘭銀行ノ義務濟充力ノ如何ヲ疑ハス英蘭銀行自ラモ亦泰然トシテ少シモ恐懼危險ノ色ヲ示サス彼ノ千七百九十七年ノ恐慌ニ際シ同銀行ノ準備金殆ト蕩盡セントセシ時ニ際シ政府ハ啻ニ英蘭銀行ヲシテ其殘餘準備金ヲ仕拂要求ニ對シ拂出スヲ要セシメサリシノミナラス斷然之カ拂出シヲ禁シタルカ如キ又爾後緊急ノ場合アル毎ニ被ノ「ピール」條例ヲ破ルコトヲ得セシメタル實例ノ如キ普ク世人ヲシテ政府ハ常ニ英蘭銀行ノ後援者トナリテ萬一英蘭銀行ニシテ自ラ仕拂義務ヲ果スノ資力ナキトキハ政府必ス之ヲ救援スヘキコトヲ確信セシメタリ蓋シ人皆爲以テ英蘭銀行ニシテ若シ實際其仕拂義務ヲ果ステ得サルカ如キコトアラハ是レ即チ英國全体ノ破産ヲ招クモノナリト認メテ可ナルモノナリ斯ノ如キハ全ク無用ノ杞憂ニ屬スヘキノミト其英蘭銀行ヲ信スルノ厚キ見ルヘキナリ事情正ニ斯ノ如クナルヲ以テ英蘭銀行モ亦自ラ其位地ノ確乎不動ナルヲ感シ自然ト十分其信用ノ厚薄如何ヲ反省スルノ



勞ヲ執ラサルモノ、如シ即チ英蘭銀行ハ全ク特典ナル信用ヲ有スルカ故ニ其準備金額ノ多寡ニ關シテハ尋常一般ノ銀行ノ如ク小心翼翼々以テ之カ減退ヲ防止スルノ必要ヲ感セサルヨリシテ或ハ時ニ知ラス測ラス過度ニ其準備金ヲ流出セシムルノ傾向否ヲ實例ヲ顯スニ至レリ豈ニ危カラヌヤ

又右ノ外ニ英蘭銀行ノ準備金ヲシテ常ニ減少セシメントスル一勢力アリ何ソヤ即チ同銀行株主カ利益配當金ノ多カラフコトヲ希望シテ止マサルノ一事是ナリ抑英國人民ハ從來數回ノ恐慌ニ遭遇スル毎ニ大ニ金融必迫ノ弊ヲ蒙リタルカ故ニ頻ニ英蘭銀行ノ準備金ノ豊大ナランコトヲ欲望シ新聞紙ノ如キモ亦之ヲ勸告シテ止マサルニ今英蘭銀行部内ニ於テハ全ク之ニ反對スルノ意見行ハル、アリ夫レ何ノ銀行ニ於テモ庫裡ニ徒蓄スル金額多キトキハ則チ利益配當額少ク徒蓄スル所少キトキハ則チ利益配當額多キハ自然ノ勢ナリ是ヲ以テ英蘭銀行ノ株主集會ノ都度株主等ハ大抵同銀行ノ徒蓄金多キニ過キ從ヒテ利益配當金ノ少シトノ點ニ於テ苦情アリ今英蘭銀行ヲ以テ假ニ尋常一般ノ合本銀行ト同一ノ資格ニ置キテ考察ヲ下サハ此株主等ノ不平ハ固ヨリ其理由ナキ

ニアラサルナリ夫レ英蘭銀行ハ倫敦ニ於テ最モ古キモノナリ然ルニ其營業ニ伴フ所ノ利益ハ進歩増加甚ク僅微緩慢ニシテ諸他銀行ノ利益ノ能ク速ニ増進スルニ若カサルナリ即チ千八百四十四年ニ於テハ英蘭銀行ノ株式ニ對スル利益配當ハ七分ニテ其市價ハ二百十二磅ナリシカ千八百七十二三年ノ交ニ至リテハ利益配當ハ九分其株式ノ市價ハ二百三十二磅ニ増加セリ然レトモ同年間ニ於ケル諸他銀行ノ營業進歩ハ甚ク大ニシテ決シテ同日ノ談ニアラサルナリ例ヘハ彼ノ「ロンドン、ウエストミンスター」銀行ノ如キハ其資本金額ニ於テ殆ト十倍ノ増加ヲ致セシニモ拘ラス其利益配當額ハ六分ヨリ二割ニ増加シ其株式ノ市價ハ二十七磅ヨリ六十六磅ニ増加セリ

斯ノ如ク英蘭銀行ハ利益配當額ノ他ノ銀行ニ比シテ割合ニ少ク隨ヒテ其株式ノ低價ナルハ幾分カハ其資本金額ノ巨大ナルニ因ルヘント雖モ而モ其多分ハ其徒蓄スル所ノ準備金額ノ割合ニ多キニ因ラサルヲ得サルナリ今試ニ英蘭銀行ト「ロンドン、ウエストミンスター」銀行トノ營業ノ有様ヲ比較スルニ「ロンドン、ウエストミンスター」銀行ハ諸他ノ合本銀行中英蘭銀行ニ亞キテ



人民ノ信用最モ厚ク且ツ其營業最モ周到確實ナリト稱セラル、モノナルカ其平時貯藏スル所ノ準備金額ハ僅ニ其義務金額ノ一割三分ニ過キス然ルニ今翻テ英蘭銀行ノ銀行部カ所藏スル準備金額ヲ見レハ實ニ其義務金高ノ四割以上ナルヲ常トス兩者ノ間資金運轉法ニ於テ斯ノ如キ大差アリ何ソ其利益配當額ニ大差アルヲ怪シマンヤ夫レ株金ニ對スル利益配當ノ多キヲ欲スルハ人情ノ常ナリ英蘭銀行ノ株主タル者誰カ彼我利益配當額ニ斯ノ如ク大差アルヲ喜ハシ由是觀之英蘭銀行ノ株主等カ同行ノ役員ニ迫リ準備金額ヲ減シ十分ノ運轉ヲ爲シテ以テ多分ノ利益配當ヲ得ンコトヲ謀ルハ其事情ニ於テ強チニ不條理ナリト謂フヘカラサルモノナリ

以上說キタルカ如ク英蘭銀行ノ準備金ハ實ニ倫敦諸銀行ノ準備金タルノミナラスシテ英國全體ノ準備金ナリ否ナ實ニ英國全體ノ準備金タルノミナラス世界全般ノ金融市場ノ爲メノ準備金ナルカ故ニ之ニ對シテハ常ニ十分ノ注意ヲ加ヘ以テ之カ保持ヲ謀ラサルヘカラス然ルニ英蘭銀行ノ内情ヲ察スレハ自ラ其信用ノ厚固ナルニ安シク準備金額ノ減少ヨリシテ其地位ノ危險ニ陥ルノ虞

アルヲ思ハサルト株主等ノ要求ニ由リテ動モスレハ貸附過多ナラントスルノ傾向アルヲ考察スルトキハ余輩愈々英蘭銀行ノ地位ヲ危マサルヲ得サルナリ是ノ故ニ苟モ英蘭銀行ヲシテ正實安泰ノ地位ニ置カシムルハ役員タル者能ク其責任ノ在ル所ヲ知リ常ニ十分注意シテ以テ漫然其準備金額ヲ減少セシムルカ如キコトナキヲ務メサルヘカラス然ルニ今其實際如何ヲ察スルニ其役員タル者ハ概シテ皆未タ其責任ノ本體ヲ辨知セサルモノ、如シ否ナ實ニ之ヲ辨知セサルノミナラス其中多クノ人々ハ却テ之ヲ非議スルヲ見ルハ豈ニ嘆スヘク又怪シムヘキノ至ナラスヤ英蘭銀行取締役役員中最モ沈着ニシテ最モ經驗ニ富メリトノ評アリシハンケ―氏ノ如キモ其著ニ係ル所ノ英蘭銀行ト題スル書ニ於テ左ノ如ク論シタリ曰ク

余ハ英蘭銀行ノ一般事務ニ關シテハ茲ニ之ヲ詳説スルヲ要セス何トナレハ其營業事務ノ要領ニ至リテハ整頓セル諸他銀行ニ於ケルモノト相異ナル所ヲケレハナリ

ト嗚呼ハンケ―氏其人ニシテ何ソ其說ノ誤レルノ甚シキヤ夫レ尋常諸他銀行



ハ個々人民ノ預ケ金ヲ取扱ヒ其業務ノ性質ハ全ク一私人ノ關係ニ過キス且  
 其取引高ノ如キモ割合ニ少ク其準備金ノ如キモ概シテ之ヲ中央銀行ニ預ケ置  
 クカ故ニ若シ必要ノ場合ニハ何時タリトモ之ヲ引出スヲ得ルモノニシテ縱令  
 其業務ニ失計アルモ其弊害ノ及フ所割合ニ狹少ナルヲ常トス然ルニ英蘭銀行  
 ノ如キ中央銀行ノ業務責任ニ至リテハ全ク之ト異ナリ即チ其預ル所ハ國庫金  
 及一私人ノ預ケ金ヨリ成ルモノニシテ其關係單一私人ノ間ニ止マラスシテ  
 常ニ國家ト親密ノ關係ヲ有スルモノナリ是ヲ以テ其責任甚ク重ク常ニ能ク國  
 家ノ財政ト公共ノ利益トニ注意シ單ニ私利ヲ營ム所ノ尋常一般ノ銀行ト同日  
 ニ論スヘキモノニアラサルナリ之ニ加フルニ英蘭銀行ハ之ヲ明言セサレトモ  
 一私人ノ預ケ金ノミヲ取扱フ所ノ銀行ニ向ヒテ其準備金ヲ保管スルノ義務ヲ  
 負ヘルモノナレハ一方ニ於テハ國家政府ニ對シ又一方ニ於テハ直接若クハ間  
 接ニ一私人ニ對シ大ナル責任ヲ有スルモノナリ其關係スル所斯ノ如ク同シカ  
 ラス其責任ノ大小斯ノ如ク異ナリ英蘭銀行ノ業務何ソ尋常銀行ト同様ナルヲ  
 得ヤハセオウト氏モ亦此ハハンケイ氏ノ言ヲ評シテ曰ク

七七一

八十一

夫レ英蘭銀行ノ銀行部ハ其義務金額ニ對シ通常三割乃至五割ノ準備金額ヲ  
 有スルモ諸他尋常ノ銀行ノ如キハ僅ニ其日常所要ノ最小額ヲ有スルニ過キ  
 タルノ事實ハ世ニ公ニセラル、數計ニ據リテ世人カ普ク熟知スル所ナリ荷  
 モ準備金ノ如キ項目ニ於テ兩者ノ間常ニ斯ノ如キ差異アル以上ハ英蘭銀行  
 諸他銀行ト必スヤ同一ノ方法ヲ以テ營業スルモノニアラサルコトヲ了  
 知スヘキナリ  
 是ニ由リテ之ヲ觀レハハンケイ氏ノ言ノ誤レル見ルヘキノミ抑ハンケイ氏  
 ハ英蘭銀行ノ取締役中録々ノ聞アル者ナリ此録々ノ聞アルハンケイ氏ニシテ  
 英蘭銀行ト諸他銀行トノ間ニハ其業務上ニ著シキ差別アルヲ知ラスシテ斯ノ  
 如キ言ヲ爲スハ是レ自ラ其責任ノ在ル所ヲ辨知セサルモノト言ハサルヲ得ス  
 氏ノ言ハ既ニ斯ノ如シ他ノ尋常ノ取締役員ノ如キハ推シテ知ルヘキノミ  
 斯ノ如ク取締役員カ英蘭銀行業務ノ本色ヲ知ラス其責任ノ本領ヲ知ラサル外  
 ニ尙ヤ一層吾人ナラバ危懼セザルヲ得サラシムルモノアリ何ソヤ即チ取締役  
 員カ銀行事務ニ不熱心ナル一事是ナリ元來英蘭銀行ノ取締役ハ大抵皆家資ニ



富ミ自ラ別ニ商業ニ從事シ廣ク取引ヲ爲シ居ルノ人ナルカ故ニ專ラ英蘭銀行ノ爲メニ盡力スルノ暇ナク縱令之カ暇アルモ自然之ニ向ヒテ爲ス所冷澹ナルヲ常トス何トナレハ彼等ハ英蘭銀行ノ爲メコ其全力ヲ盡クスモ之ヨリ生スル所ノ収益ハ獨リ自ラ之ヲ占得スルコト能ハス然ルニ況ンヤ自家本業ノ利益ノ大ナル決シテ銀行業務ヨリ得ヘキ所ノ利益ノ比コアラサルナヤ是以テ英國ノ如キ商業盛ナル國ニ於テハ此等ノ人々自然自家ノ利益ヲ計ルニ汲々トシテ他ヲ顧ルニ遑アラサルハ勢免ガルベコト能ハサル所ナリ勿論別ニ營業ヲ有スレハトテ銀行業務ニ從事スルヲ不可ナリト爲スヘキニハアラスシテ若シ彼等ニシテ内外ノ區別ヲ爲シ銀行ニ在ル間ハ熱心ニ其業務ヲ處理シ家ニ歸リテ能ク其家業ヲ營ムハ兩者ニ取リテ大ニ可ナルヘキモ斯ノ如キハ極テ稀ニ望ムヘキモノニシテ通例ハ各自其家業ノ爲メニ英蘭銀行ノ業務ヲ忽ニスルノ傾アリ斯ノ如ク責任ノ重大ナルヲ辨知セス且ツ其業務ニ不熟ナル人々ヲシテ彼ノ至重ナル準備金取締方ヲ掌ラシム世人ニシテ心ヲ配ル者ハ英蘭銀行ノ業務ニ關シ常ニ不安心ヲ抱クハ決シテ理ナキ事ニアラサルナリ

又以上陳述セルカ如ク英蘭銀行ノ銀行部カ世間金融上重大ナル責任ヲ有スルモノナルカ故ニ英國政治家タル者ハ宜シク常ニ之ニ注意シ該銀行部ヲシテ能ク其準備金ヲ保全シ以テ世間信用取引ノ根據ヲシテ牢固ナラシムルヲ力圖セサルヘカラス然ルニ英國錚々ノ政治家ニシテ且ツ財政ノ事ニ通セル人々ノ中一人トシテ右英蘭銀行ノ特異殊大ナル責任ヲ認メ得タル者ナシ即チロバート・ビール氏ヨリロー氏ニ至ルマテ皆盡ク英蘭銀行ノ銀行部ヲ以テ尋常ノ銀行ト同一ナル組織及活動ヲ有スルモノト爲シ其信用取引上ノ責任ノ如キモ亦毫モ他ノ銀行ニ異ナラサルモノ、如ク思ヘ是故ニ今若シ英國政治家ニ向ヒ英蘭銀行ノ銀行部ノ管理法ハ如何ニ爲スヘキヤト問ハ、諸氏ハ即チ英蘭銀行ノ銀行部ノ事務ハ是レ同銀行主理者ノ自ラ獨リ與リ知ル所ナリ余輩ノ關スル所ニアラサルナリト答ヘンノミ事情正ニ斯ノ如クナルヲ以テ英蘭銀行ノ信用取引即チ英國全體ノ信用取引ノ根本ハ彼ノ業務ノ責任ヲ知ラス營業ニ不熱心ニシテ事務ニ不熟練ナル英蘭銀行銀行部ノ役員ノ專占獨裁スル所タリ是レ實ニバセオット氏ヲ始メ同國金融ノ事ニ注意スル者ノ英蘭銀行ノ措置ニ對シ危懼不



安心ヲ抱キ以テ其準備金ノ保管法如何ヲ痛論シテ世人ノ注意ヲ喚起セントスル所以ナリ余輩ハ是レヨリシテ銀行ノ準備金ニ對シ起ル所ノ仕拂要求ノ事ニ關シ少シク講述スル所アラントス

凡ソ銀行カ蓄有スル所ノ準備金ハ不時急劇ナル仕拂要求ニ應ゼンカ爲メニ備ヘ置クモノナリ而シテ其不時非常ノ要求ハ如何ナル場合ニ起ルモノナリヤト云フニ大抵二ノ場合ニ於テ起ルモノナリ即チ其一ハ外國ヨリシテ巨大ニシテ且ツ不時ノ仕拂要求ヲ受クルノ場合ニテ他ノ一ハ內國ニ於テ恐慌發生ノ爲メニ不時ノ仕拂要求ヲ受クルノ場合是レナリ

今英國ノ現狀ヲ察スルニ其外國ニ對スル負債額ノ巨大ナルノミナラス其外國貿易ノ盛大ナル事ハ實ニ世界萬國ニ冠絶スルモノニシテ隨ヒテ英國カ外國ニ對シ負フ所ノ仕拂義務ノ如キモ亦實ニ非常ノ巨額ニ達スルモノナリ勿論尋常平時ノ外國貿易ハ大抵其輸出高チ以テ其輸入高ニ對等平均セシムヘキモノナレハ別ニ現金仕拂ヲ要セス又縱令國際貿易ハ內國貿易ノ如ク彼我ノ事情能ク相通スルチ得サルヨリシテ時トシテハ國內ノ需要高チ超エテ餘計ノ貨物ヲ輸

入スルニ方リ外國ハ此輸入價額ニ相當スル丈クノ內國物品ヲ買入レサル場合ニ於テハ必ス多少輸出入ノ不平均チ生シ此不平均ヲ補充スル爲メ現金仕拂ヲ要スルコトアルモ斯ノ如キ通常輸出入ノ不平均チ補足スル仕拂ノ如キハ其性質平穩ナルカ故ニ急劇不時ノ要求起ラス隨ヒテ急衝チ銀行ノ準備金ニ與フルモノアラサレトモ若シ內國ノ農産凶歉ナルカ爲メニ臨時外國ヨリシテ其食用必需ノ穀物ノ輸入ヲ仰カサルチ得サルノ場合ニ於テハ其輸出入價額チ平均セシムルコトハ非常ニ多量ノ內國品ヲ輸出セサルヘカラス然レトモ斯ノ如ク一時ニ多額ノ輸出品ヲ生産スルハ決シテ得テ望ムヘキニアラス良シヤ之チ生産シ得ルトスルモ外國ニ於テ之ニ應スルノ需要増加ノ如キハ未ダ必スシモ期スルチ得サルナリ果シテ然ラハ斯ノ如キ場合ニ於テハ如何ニシテ之チ濟充スルカト云フニ必スヤ現金ヲ以テ其代價チ仕拂ハサルチ得サルナリ然リ而シテ其仕拂金額ニシテ少額ナラハ各自ノ懷ヨリ支出スルチ得ヘシト雖モ數百萬圓ノ巨額ニ至リテハ到底一個人若クハ一商社ノ手許ノ資力ノ及フ所ニアラサルチ以テ通例銀行ヨリ此ニ應スル金額チ引出シテ以テ之チ仕拂ハサルチ得ズ是ニ於



テヤ預ケ金アル者ハ預ケ金ヲ引出シ預ケ金ナキ者ハ之ヲ借リ入ル、ヲ以テ各地方ヨリ銀行ニ向ヒテ現金ノ請求續々起ルモノナリ而シテ此場合ニ於テ銀行ハ其貸出金ニ對シテハ利子ノ歩合ヲ高クシテ自然ニ其請求ヲ拒絕スルヲ得ルノ道アリト雖モ其預リ金ノ引出ニ向ヒテハ銀行ハ之ヲ拒ムノ力ナキモノナリ然ラハ銀行ハ何時タリトモ其請求ニ應シ預リ金ノ全額ヲ仕拂フヲ得ルカト云フコ前段ニモ論シタルカ如ク尋常銀行ハ常ニ手許ニ十分ノ準備金ヲ置カスニテ其多分ハ之ヲ中央銀行ニ預置クノ慣習ナルカ故ニ斯ノ如キ場合ニ於テハ此等銀行ニ對スル要求ハ毎ニ更ニ中央銀行ニ向ヒテ仕拂請求ヲ緊張スルモノナリ

抑中央銀行カ準備スル所ノ現金ハ如何ナルモノナリヤ一國內ニ在リテハ政府ノ權力能ク其通貨ノ制度ヲ定メ又能ク其數量ヲ定メテ以テ其價格即チ購買力ノ大小ヲ所定スルヲ得ヘシト雖モ外國ニ向ヒテハ未タ此權力ヲ用フルニ所ナキナリ即チ今日ニ於テ能ク萬國ノ間ニ於テ取引通用セラル、モノハ實ニ地金銀(金銀貨幣)ノ如キモ國際貿易ニテハ全ク地金銀ト見做スモノナリニシテ彼ノ

紙幣ノ如キハ毫モ外國ニ對シ効力ナキモノナリ是故ニ若シ一國ノ合法通貨ニシテ全ク正貨即チ金銀貨幣ヨリ成ルトキハ外國ヨリノ請求ノ衝ニ當ル所ノ中央銀行ハ是等正貨ヲ十分ニ準備スルヲ以テ事足ルヘキモ若シ其合法通貨ノ一部ヲ紙幣ヨリ成ルノ場合ニ於テハ中央銀行ハ此紙幣ヲ地金銀ニ引換フルコアラサレハ以テ外國取引ニ充用スルヲ得サルナリ夫レ英蘭銀行カ貯藏スル所ノ準備金ノ如キハ單ニ内地用ノ爲メニスルモノニアラスシテ又能ク外國ニ對スル仕拂ニ充用セサルヘカサラルモノナリ是故ニ其準備金中ノ銀行紙幣ノ如キハ直ニ以テ之ヲ外國仕拂ニ充ウルヲ得スシテ必要時ニ在リテハ之ヲ以テ正金銀ニ引換ヘ得ルノ手段ナカルヘカラス然リ而シテ外國ニ對スル仕拂ハ時ニ或ハ非常ノ巨額ニ上ルコトアルノミナラス又時ニ屢火急ニ起ルコトアリ例ヘハ彼ノ北米合衆國ノ南北戰爭時ニ際シ非常ニ市價ノ騰貴セル印度ノ綿花ヲ購入スルタメ歐洲殊ニ英國ヨリシテ東洋ニ向ヒ流出セル金額ハ實ニ巨大ナリシモノニシテ當時數年間數百萬金ヲ英國ヨリ引出シ去レリ又戰爭ノ起ルニ方リテヤ其中中央銀行ニ對スル正金仕拂ノ要求ハ毎ニ急劇ナルモノナルカ故ニ戰爭多



ク又ハ外國交渉頻繁ナル國ニ於テハ中央銀行ハ殊ニ多クノ準備金ヲ有セサル  
 ハカラス尤モ彼ノ飢饉ノ如キハ俄然起ルモノニアラスシテ必スヤ其兆候ノア  
 ルヲ以テ豫メ其將ニ到ラントスルヲ前知スヘキモノナルカ故ニ常ニ能ク注意  
 シテ怠ラサレハ未タ其到ラサルニ方リテ徐々ニ其準備金ヲ増加シ他日ノ請求  
 ニ應スルノ用意ヲ爲シ置クヲ得ヘキモノナリト雖モ實際銀行ハ通常其引出ノ  
 請求ノ起レル後ニアラサレハ能ク準備金ノ額如何ニ注意スルコト甚タ稀ニシ  
 テ往々非常ノ場合ニ際シテ狼狽ヲ免レサルモノナリ殊ニ外國ニ對シテノ仕拂  
 ハ内地ニ於ケルカ如クナルヲ得ス苟モ其仕拂期限ニ至レハ暫時モ之ヲ猶豫セ  
 サルナリ此故ニ外國ニ向ヒテノ仕拂ハ些少ニテモ之ヲ躊躇スルトキハ當ニ外  
 國ニ對シテ信用ヲ失フノミナラス其影響ハ内國ニ及ホシ實際現金ヲ要セサル  
 モノモ此有様ヲ見テ何トナク疑念ヲ生シ續々銀行ニ向ヒテ引出ヲ爲スニ至ル  
 是故ニ外國仕拂ニ對シテハ殊ニ注意ヲ加ヘ何時引出ノ請求アルモ仕拂ニ差支  
 ナキ様準備ヲ十分ニ爲シ置カサルヘカラス  
 今英國ニ在リテ此等外國ニ對スル臨時要求ノ集ル所ハ英蘭銀行ノ銀行部ナル

カ故ニ該銀行部ハ時ニ之ニ應スルノ手段アラサルヘカラス而シテ其手段ハ唯  
 利息ノ割合ヲ騰貴スルニ在ルノミ今理論上ヨリ之ヲ考フルモ一地方ノ金利ニ  
 シテ騰貴スレハ通貨該地ニ向ヒテ來集スヘキモノニシテ實地經驗スル所ニ據  
 ルモ正ニ其然ルヲ見ル勿論此等ノ眞理ヲ詳明スルニトハ余輩之ヲ外國爲換論  
 ニ讓ラサルヘカラスト雖モ今茲ニ其大要ヲ述ヘンコ凡ソ貸附クヘキ資金ハ他  
 ノ貨物ト同シク最モ利益多キ處ニ輻輳スルモノナルカ故ニ若シ英國ニ於テ金  
 利騰貴スレハ外國ノ資金速ニ英國ニ流入スヘシ英國ノ信用ニシテ能ク確固善  
 厚ナラハ金利騰貴法ヲ以テ資金ヲ蒐集スルコト決シテ難事ニアラサルナリ且  
 ツ金利騰貴スルノ場合ニ於テハ其間割引ノ歩合モ亦自ラ昂上スルモノニシテ  
 此割引歩合ノ昂上タル直ニ貿易上ニ効驗ヲ生ス即チ割引ノ歩合騰貴スレハ市  
 場ノ貨幣減少シ減少セル貨幣ニ對シテ物價下落ス物價下落スレハ輸入減退シ  
 テ輸出増加スルカ故ニ輸出ノ超過額ニ對シ自ラ金銀ノ輸入ヲ増加スルモノナ  
 リ是ヲ以テ凡ソ一國ノ銀行業準備金ヲ保管スル所ノ者ハ若シ外國爲換相場カ  
 自國ニ逆フノ事アルトキハ須ラフ其初期ニ於テ速ニ其金利ヲ騰貴シテ以テ一



現存準備金ノ一層減少セントスルヲ防止シ一ハ外國ヨリ地金銀ノ輸入ヲ促  
 進スルヲ務ムルニキナリ而シテ英蘭銀行ハ千八百六十年前ニ在リテハ米々此手  
 段ニ據リテ以テ自國ノ金融市場ヲ保護スルノ務ヲ辨知セサリシガ爲ニ屢言フ  
 カラサルノ慘狀ヲ英國ノ金融上ニ來セシコトアリキ(外國爲換ノ事ニ就キテ  
 ハ宜シク長崎君ノ講義ニ係ル外國爲換論ヲ見ルヘシ)夫レ英國ノ經濟史上彼ノ  
 千八百十九年ヨリ千八百五十七年ニ至ル間ニ於ケル英蘭銀行ノ舉措ノ如ク拙  
 愚ナルモノハ未ダ嘗テ之アラサルナリ今當時英蘭銀行カ汲々謹嚴トシテ努メ  
 タル所ヲ見ルニ專ラ仕拂要求ヲ拒絕シテ以テ金銀ノ流出ヲ防カンコトヲ欲メ  
 爲ニ却テ大ニ金融市場ノ紊亂ヲ養成セリ其所見ノ過誤ニ出テ而シテ其方法ノ  
 拙劣ナル實ニ憐ムルニキ極ナリトス然ルニ千八百五十七年ノ恐慌起ルヤ英蘭銀  
 行ハ漸ク始メテ從來舉措ノ非ナルヲ悟リ遂ニ之ニ應スルノ正法ヲ了得スルニ  
 至レ是ヲ以テ今千八百五十七年後ノ英蘭銀行ヲ以テ同年前ノ英蘭銀行ニ比  
 スレハ兩者ノ懸隔實ニ甚シキモノアリ夫レ然リ然ト雖モ今ノ主義措置タル  
 固ヨリ未ダ善美ヲ極メタリト謂フヘカラスシテ尙ホ多クノ論辯ヲ要シ改良ヲ

加ハサルヘカラサル所アリ余輩後章ニ於テ試ニ論述スル所アルヘシ  
 内國ニ於ケル不時ノ仕拂要求ハ其性質全ク外國ニ對スルモノト異ナリ即チ内  
 國不時ノ要求ハ尋常國內ニ於ケル信用ノ紊亂シテ恐慌發生スルヨリシテ來ル  
 モノナリトス抑銀行家ヲ始メトシ金融市場全般ニ關シ最モ怖ルヘキハ恐慌ナ  
 リトス夫レ恐慌ノ遠因ニハ種々アリト雖モ其近因ノ重ナルモノハ投機的商業  
 ニ在リ即チ當時投機心ニ煽動セラレ無産ノ者一時ニ巨萬ノ富ヲ得ントスルノ  
 希望ヲ企テ力ノ及ハサル程ノ商業ヲ爲スモノニシテ其手段ヲ以テ世人ヲ瞞着  
 スル間ハ差問ナキモ若シ一朝其投機意ノ如ク行ハレス世人ニシテ漸ク其内幕  
 實相ヲ知ルニ至ルトキハ此等商賈ノ信用忽チ崩壊シ之ニ關係スル者ノ倒産ス  
 ルニ至ルハ勿論實着正業ニ從事スル商賈ノ如キモ亦同シク其影響ヲ蒙ルモノ  
 ナリ加之恐慌ノ起ルヤ單ニ一地方ノミニ限ラス又直ニ各地方ニ波及スルニ至  
 ルモノナリ其故ハ恐慌ヲ起ス程ノ商業ナレハ管ニ一地方ニ限ラス必ス廣ク  
 各地方ニ通シテ取引ノ關係ヲ有スルモノナルヘケレハナリ而シテ一朝信用破  
 壞ニ恐慌起ルトキハ全ク投機ヲ目的トセシ者ハ直ニ倒レテ止ムモ其半ハ投機



的業ヲ帯ヒ半ハ正業ヲ執ルカ如キ者ハ一時ノ急ヲ救ハシカテ銀行ヨリ金ヲ借リ入レテ之ヲ以テ其仕拂義務ヲ果スヲ務ムヘキニ由リ銀行ニ向ヒ資金ノ需  
要増加スルト同時ニ預ケ金アル者ハ之ヲ銀行ニ取り附ケ急金融ヲ緊張シ遂ニ  
其市場ヲ紊亂スルニ至ルモノナリ但シ内地商業社會ノ狀況正ニ斯ノ如クナレ  
ヤ必スヤ外國ニ關スル關係ヲ呼起スモノニシテ金融市場ノ困難ヲ益増大  
ナラシムルモノナリ是ヲ以テ斯ノ如キ場合ニ於テ金融ヲ處理シ其困難ヲ救治  
スルハ單ニ外國ヨリスル不時ノ要求ニ對スルヨリモ一屢難キモノナリ  
夫レ内外國緊急ナル仕拂要求同時ニ襲來スルノ場合ニ於テハ如何シテカ能ク  
之ニ應ジ得ヘキヤ漫然之ヲ考フレハ増昂セル仕拂要求ニ應スルカ爲メ成ルヘ  
ク貸出ヲ縮少シ以テ準備金額ノ減少ヲ防クニ利アルカ如シト雖モ是レ全ク近  
視的ノ拙策ニシテ今能ク其實相ヲ察セハ之ニ處スルノ上策ハ善良ナル信用  
對シ成ルヘク自由ニ準備金ヲ貸出スニ在リ夫レ金融稍ク急迫シ信用將ニ墮  
シトスルニ際シ銀行業者ノ懼ル所ハ自家ノ信用ヲ損シ仕拂要求ノ過急一時  
ニ到ル事ニ在リ然ルニ若シ準備金ノ減少ヲシテ恐レテ貸出ヲ拒絕スルニ於テ

ハ是レ即チ世人ヲシテ自家ノ不如意ナルコトヲ疑ハシメ益信用ヲ損シ益仕拂  
ノ要求ヲ急張セシムルモノナリ斯ノ如キ場合ニ於テハ銀行家タル者ハ務メテ  
正直ナル信用取引ヲ自由ニシテ以テ自家準備ノ豊裕堅固ナル様ヲ示スニ若カ  
サルナリ裕ナル準備ヲ保有スルノ計ハ平穩ノ日ニ在リ金融既ニ必迫テ告ケ信  
用將ニ紊レントスルノ時ニ臨ミ強ヒテ其準備ヲ固守センコトヲ力ムルハ策ノ  
最モ拙キモノニシテ當ニ自家ノ信用ヲ害シ倒弊ヲ招クノミナラス之カ爲メ大  
ニ市場ヲ紛亂シ却テ恐慌ヲ増進スルノ具タルヲ免レス豈ニ慎マサルヘケンヤ  
夫レ金融上ノ不信用タル通常ノ場合ニ於テハ決シテ最初ヨリシテ一銀行ニ就  
キ起ルモノニアラス況ンヤ國內ニテ重ナル準備保有ノ銀行ニ於テチヤ今恐慌  
ノ發生順序ヲ察スルニ最初ハ漠然タル疑惑ノ商賈ノ間ニ行ハルニ過キス即  
チ甲乙ハ依然トシテ手許暖ナリヤ丙丁ハ損失ヲ蒙ラスヤト我人ヲ疑ヒ人我ヲ  
疑ヒ恐慌漸ク成長シテ信用遂ニ紊レテ金融必迫ス是故ニ經驗アル者ハ皆恐慌  
發生ノ初期ニ方リテ早ク自家ヲ強クセンコトヲ力メ其信用ヲ利用シテ以テ金  
員ヲ借出スコトヲ謀リ銀行ニ到リテ割引ヲ要求ス而シテ若シ其商人ニシテ銀



行ノ常華主タラシメシカ銀行ハ必スヤ之カ要求ヲ拒絶セサルヘシ何トナレハ  
 若シ之ヲ拒絶セハ或ハ該銀行ハ資力既ニ匱乏ナリト世評ヲ受ケ自ラ恐慌ヲ招  
 來スルノ恐アレハナリ斯ノ如ク苟モ金融市場ニ入り信用取引ニ從事スル者ハ  
 相競ヒテ自家ヲ強クセシコトヲ務ムルカ中ニ殊ニ貨幣ハ商人ニ於テ最モ然リ  
 トス夫レ此種ノ小取引人ハ孰レノ銀行制度ノ下ニ在リテモ必ス附在スルモノ  
 ニシテ巨大ナル銀行カ取引ヲ好望セサル小額ナル融通取引ニ從事スルモノナ  
 リ而シテ平時ニ在リテハ此等小取引人ハ手輕ニ取引ヲ爲スカ故ニ相應ナル取  
 引アルモノ一朝恐慌起ルヤ爲ニ大ナル影響ヲ蒙ルモノナリ何トナレハ彼等ノ信  
 用ハ通常狹シ且ツ弱キモノナルカ故ニ大ナル銀行ニ向ヒテ前貸ヲ要請シ以テ  
 自家ノ信用ヲ保持セシコトヲ謀ルノ必要ヲ感スレハナリ事茲ニ至リテヤ大ナ  
 ル銀行モ亦自ラ守ルノ策ヲ廻ラサハルヲ得ス夫レ輕卒ニ小取引人ニ對シテ貸附  
 ヲ爲スハ實ニ不安心ナルモノナリ然リト雖モ若シ之カ貸附ヲ拒絶セハ時ニ或  
 ハ一層ノ危險ヲ招來スルノ虞ナキカ恐慌ハ其襲撃スル所廣キニ從ヒテ勢力愈  
 増加スルモノナルヲ以テ若シニ等取引人ニシテ恐慌ノ襲倒スル所トナラハ一

等取引人ハ能ク其位地ヲ保維スルヲ得ヘキカ是レ眞ニ深ク思慮セサルヘカヲ  
 サル所ナリ之ヲ要スルニ恐慌ハ金融必迫ノ爲メニ增長スルモノナレハ事ヲ醫  
 治スルニハ金融ノ道ヲ圓滑ナラシメサルヘカラス即チ苟モ資金アル者ハ單ニ  
 自家ニ對スル義務辨償用トシテ之ヲ固保セス亦能ク之ヲ他人ニ分貸シテ以テ  
 他人ヲシテ其信用ヲ維持スルヲ得セシメサルヘカラス一人一家倒産スルトキ  
 ハ直ニ延キテ數人數家ニ及ホシ遂ニ防止スル所ヲ知ラサルニ至ルモノナレハ  
 事ニ此ニ從フ者宜シク勢未タ微弱ナルノ時ニ於テ迅速ニ之カ救濟ヲ謀ラサル  
 ヘカラス彼ノ千八百二十五年ノ恐慌ニ際シ英蘭銀行カ措置ノ如キ實ニ能ク其  
 所ヲ得タルモノナリハルマン氏嘗テ當時ノ實況ヲ述ヘテ曰ク余輩ハ各種ノ手  
 段ニ依リ又未ダ曾テ取ラサリシ所ノ方法ヲ用ヒタリ即チ株式ヲ抵當ニ取り大  
 蔵省證券ヲ買取リ又ハ之ヲ抵當ニシテ前貸ヲ爲シ或ハ爲替手形類ヲ盛ニ割引  
 スル等銀行ノ安全ヲ害セサル限リハ力ヲ盡シテ以テ市場ノ融通ヲ助ケタリト  
 當時英蘭銀行カ斯ノ如キ取引ヲ爲スヤ僅ニ兩三日ニシテ恐慌全ク鎮マリ市上  
 平常ニ復スルヲ得タリ夫レ各商人ハ一トシテ仕拂義務ヲ負ハサル者ハアラス



而シテ自家ニ對スル手形ヲ仕拂ハンニハ必スヤ他人ニ對スル手形ヲ割引セサルヘカラス即チ言ヲ換ヘテ之ヲ述フレハ商人ハ皆借出資金ヲ以テ營業シ商業愈大ニシテ負債愈多キモノナリ是ヲ以テ恐慌ノ兆市場ニ顯出スルヤ商賈等多ク資金ヲ引出シテ自ラ固クセンコトヲ務ム而シテ此時ニ際シ若シ之カ要求ニ應ジテ貸附ヲ自由ニ爲サハ小額ノ資金ヲ以テ能ク恐慌ヲ未タ微弱ナルノ間ニ鎮抑スヘキモ若シ策竝ニ出テス銀行家ニシテ其初期ニ於テ徒ラニ自ラ強固ナラシコトナレバ是レ謀リ自由ニ貸出スコトヲ嫌ハシメハ恐慌ハ爲メニ却テ益勢力ヲ張昂シ遂ニ全市場ヲ攪亂スルニ至ルヘキナリ全市場既ニ攪亂シ事急ナルニ及ヒテ如何ニ貸出ヲ爲スモ大渴ノ際ノ漏滴ノ水ノ如ク又傑瓦上ノ散水ノ如ク毫モ効用ナキモノナリ

今皮相的ニ之ヲ思ヘハ斯ノ如キ方策タル恰モ不條理ナルモノ、如シ乃チ元來其銀行ナシテ國家ノ準備金保存所タラシムルハ是レ國家ノ資金ヲシテ全ク散逸セシメザルカ爲メナリ然ルニ信用漸ク紊レントシ各人入ルコトヲノミ計リテ出タスコトヲ拒絕スルノ時ニ際シ此等銀行ナシテ國家專賴ノ準備金ヲ散セ

シメヨト云フカ如キハ是レ準備金ヲ保存スヘシ而シテ之ヲ保存スヘカラスト云フモノナリ實ニ矛盾ノ論ト謂フヘシト此非難タル漫然之ヲ見レハ一理アルニ似タリト雖モ今能ク思ヘハ決シテ然ラサルナリ夫レ銀行保存ノ準備金ハ決シテ徒著虛飾ノ爲メニアラスシテ確乎重要ナル目的ヲ濟充センカ爲メナリ而シテ彼ノ恐慌國內ニ起リ市場ノ融通壅塞シ信用將ニ頽壞セントスルノ時ニ際シ貸借ヲ利シ融通ヲ滑カニスルハ實ニ準備金ヲ保存スルノ一大目的タリ是ニ由リテ之ヲ觀レハ格段ナル場合ニ於テ此國家專賴ノ準備金ヲ散出スルハ決シテ不條理ノ處置ニアラスシテ却テ是レ準備ノ準備タル所以ノ目的ヲ遂成スルモノナリ

加之右最後ノ準備金保持者タル銀行ニシテ信用堅固ナルニ於テハ他人ノ信用取引ヲ援助スルカ爲メ必スシモ自家ノ準備金ヲ減殺スルヲ要セサルナリ凡ソ恐慌ハ其初期ニ於テ尋常ノ信用取引者ヲ襲撃スト雖モ斯ノ如キ國家專賴ノ準備金ヲ保持スル大銀行ニハ其毒焰ヲ及ホサルヲ常トス例ヘハ商賈ニシテ英蘭銀行ヨリ前借ヲ爲ス者ハ其金員ヲ引出シ去ラスシテ單ニ帳簿上ノ勘定ニテ



自家ノ預金ト爲シ置クニ止マリテ實際之ニ對シ振出手形ヲ振出ス者甚々稀ナリ假令之ヲ振出スコトアルモ其振出手形ヲ請取リタル者更ニ之ヲ以テ銀行ニ對シ預ケ金中ニ繰込ムヲ常トス是故ニ斯ノ如キ場合ニ於テハ銀行ノ貸出増加ハ概チ銀行ノ義務金額ノ増加ト爲ルモノナリ右ト同一ナル理由ニ依リ彼ノ千八百二十五年並ニ千八百四十四年ニ於テ英蘭銀行ガ恐慌ヲ鎮止セシカ爲メニ銀行紙幣ヲ發行セシ時ノ如キモ紙幣ハ續々出ツルモ公衆ハ之ヲ銀行ニ持來テ正貨ト交換ヲ要求スル者ナカリシヲ以テ銀行ハ其準備金額ヲ減少スルニ至ラザリキ

然リト雖モ準備保持ノ責任アル銀行ハ濫ニ其信用アルニ乘シテ仕拂義務ヲ過大ナラシメサルコトヲ慎マサルヘカラスリカド氏曰ク非常ノ場合ニ於テハ恐慌全國ニ蔓延シ各人相競ヒテ正貨ヲ保有セシコトヲ務ム蓋シ正貨ハ最モ蓄藏ズルニ便利ナル財産ナレハナリ而シテ斯ノ如キ場合ニ於テハ制度ノ如何ニ論ナク銀行ハ決シテ自ラ安全ナル能ハサルナリト元來信用ヲ利用シテ以テ公衆ノ必用ヲ助クルハ即チ公衆ニ正貨ノ仕拂ヲ約スルモノナリ是故ニ若シ信用

ヲ貸シタル各人カ盡ク銀行ニ來リテ正貨ノ仕拂ヲ要求スルコトアラハ銀行ハ必スヤ之ニ應スルコト能ハサルヘシ果シテ然ラハ此等ノ銀行ハ唯信用ヲ利用スルマアラスシテ當ニ常ニ適宜充分ナル準備金ヲ保持シテ以テ急需ノ日ニ應スルノ備アラサルヘカラサルハ理ノ最モ親易キモノナリトス且ツ又内國ノ恐慌ト外國ノ要求トハ大抵同時ニ到ルモノナルカ故ニ金融ヲ調理スルコト實ニ困難ナルモノナリ夫レ外國ノ要求ニ應シテ資金ヲ拂出サンカ銀行ノ金庫爲メニ空盡セン銀行ノ準備ニシテ漸ク減少セハ勢ヒ割引歩合ヲ騰貴セサルヲ得ス割引歩合騰貴セハ更ニ一層ノ不穩ヲ金融市場ニ生スヘキナリ是ヲ以テ準備金保持ノ責務ヲ有スル者ハ此際性質全ク相反スル所ノ兩種ノ救治法ヲ實行セサルヘカラス即チ一方ニ於テハ利息ヲ騰貴シテ以テ資金ノ出ツルヲ防キテ入ルヲ促シ又一方ニ於テハ抵當信用ノ堅固ナル者ニハ成ルヘキ丈ケ自由ニ貸附ヲ爲シテ以テ市場ノ金融ヲ利シ恐慌ヲ鎮止スルノ兩方法はナリ此兩種ノ救治法ヲ同時ニ利用スルコトアラサレハ決シテ彼ノ内外ヨリ迫ル所ノ金融上ノ大患ヲ醫スルヲ得サルナリ然リト雖モ此時ニ際シ此法ヲ施スハ固ヨ



容易ノ業ニアラスシテ臨機ノ才明斷ノ智ニ加フルニ緻密ノ用意ヲ要スル者ナリ就中英國ニ於テ最モ然リトス凡ソ恐慌カ最後ノ銀行準備ニ對シ引起ス所ノ逼迫ノ度ハ其國ノ商業取引高ノ多少ト該準備ニ依頼スル諸他銀行ノ大小ニ從ヒテ強弱ノ差アリ今右兩者ノ關係上英國ノ現狀ヲ察スルニ實ニ其度ノ強大ナルコトヲ想見スルニ足ルモノアリ即チ英國ノ商業取引高ハ世界萬國ニ冠絶スル所ニシテ而シテ英蘭銀行ノ準備金ニ依頼スル所ノ諸他ノ銀行ノ如キモ其數多ク且ツ其營業高モ亦大ナルモノナリ加之英國ニ於テハ銀行業者ノ外ニ仕拂義務ヲ有スル巨大ナル商賈甚々多ク恐慌將ニ起ラントスルトキハ此等ノ商賈モ亦多額ノ現金ヲ要シ益々貨幣市場ヲシテ融通ノ逼迫ヲ感セシムルモノナリ倫敦諸銀行カ恐慌ニ際シ自ラ其地步ヲ堅クスルノ方法ニ種々アリ然レトモ概シテ之ヲ言ヘハ諸銀行ハ彼ノ手形商人ニ對シ割引ヲ爲スモ此等手形ニシテ仕拂ハレタルトキハ決シテ更ニ他人ニ向ヒテ割引ヲ爲サス例ヘハ彼ノ千八百五十七年ノ恐慌ニ方リ「ロンドン、エンド、ウエスト」銀行ハ手形商人ノ爲メニ數百萬ヲ割引シ而テ以爲ラシ若シ此等手形ニシテ仕拂ハル、ヲ得ハ該

銀行ハ十分能ク要求ニ應スルノ現金額ヲ有スヘシト是レ蓋シ謬想ノミ何トナレハ此等ノ手形ノ仕拂ハル、ハ能ク他ニ貸金ヲ爲ス者アルニ依リテ然ルナリ若シ恐慌ノ時ニ際シ各人皆爭ヒテ資金ヲ集メノコトヲ欲スルノ場合ニ於テ突然之カ仕拂ヲ要求スルモ何ソ能ク之カ仕拂ヲ得ンヤ實ニ思ハサルノ極ト謂フヘシ例ヘハ「マンセスター」ノ問屋ヨリ荷主ニ渡シタル手形カ仕拂期日ニ至ルモ直ニ現金ニテ仕拂フコトハ尋常爲シ得サル事トス此等問屋ハ皆信用ヲ以テ荷主ヨリ買ヒ更ニ信用ヲ以テ小賣商ニ賣捌クコトナレハ右小賣商ヨリ受取リタル手形ヲ割引スルニアラサレハ荷主ニ渡シタル手形ヲ仕拂フコト能ハス然ルニ一旦金融市場必迫シテ割引ヲ得ルノ道壅塞スルトキハ即チ融通困窮シ遂ニ手形ノ仕拂ヲ爲シ得サルニ至ルヘキナリ是ヲ以テ金融市場ニ新ニ資金ヲ注入スル者アルニアラサレハ彼ノ「ロンドン、エンド、ウエスト」銀行ハ假令幾多ノ手形ヲ所持スルモ斯ノ如キ場合ニ於テハ決シテ其仕拂ヲ得テ其金庫ヲ饒ニスルコト能ハサルナリ

斯ノ如キ場合ニ於テ金融市場ハ何ノ處ヨリシテ新資金ノ供給ヲ得ルヤ彼ノ手



形仲買人ノ如キハ決シテ其供給者ニアラサルナリ否ナ供給者タラサルノミナ  
 ラス却テ需要者タルモノナリ其故ハ彼等ハ常ニ「ロンドン、エンドン、ウエストミン  
 スタ」銀行等ニ就キテ自家カ割引シタル手形ヲ以テ更ニ割引ヲ請求シ資金ノ  
 融通ヲ爲シテ以テ營業スル者ナレハ若シ此等銀行ニ於テ再割引ヲ爲サ、ルト  
 キハ彼等自ラ其地步ヲ固メンカ爲メニ他ニ向ヒテ容易ニ割引ヲ爲サ、ルヘシ  
 且ツ自家カ割引セル手形ハ金融必迫ノ爲メニ仕拂ヲ得サルモノ多キニ再割引  
 ヲ依頼セル銀行ヨリハ頻ニ仕拂ノ要求ヲ受ケ遂ニ英蘭銀行ヨリシテ資金ヲ借  
 リ出サル、ヲ得サルニ至ルハ必然ノ勢ナリ  
 今一層簡短ナル例ヲ舉ケンニ信用未タ堅大ナラサル銀行ニシテ其準備資金ヲ  
 増加センコトヲ欲スルモノハ手形仲買人ニ貨幣ヲ預ケ置キ入用ノ時引出ニ便  
 ニスルモノアリ而シテ恐慌漸ク起ルニ方リテ此等銀行ハ手形仲買ヨリ拂戻ヲ  
 請求シ以テ其準備ヲ多額ニセンコトヲ務ムヘシ然ルニ數多ノ銀行カ一時ニ拂  
 戻ヲ要求スルトキハ手形仲買等ハ他ヨリ借入ル、ニアラサレハ決シテ直ニ能  
 シ此等ノ要求ニ應スルコトヲ得サルナリ勿論此等ノ手形仲買人ハ優等堅固ノ

手形ヲ有スルモ約束期限カ尙ホ數日ノ後ニ在ルトキハ復タ奈何トモスヘカラ  
 ス然ルニ預ケ人ヨリノ仕拂要求ハ即時ニ用便セサルヘカラス茲ニ於テヤ仲買  
 人ハ英蘭銀行ニ就キテ一時ノ危急ヲ救済スルヨリ外ニ策アルヲ知ラサルナリ  
 又公債證書類ヲ抵當トシテ貸出シ置キタル資金ヲ恐慌ノ時ニ於テ回収セント  
 スルトキハ前段ト同様ノ困難ヲ感スルモノナリ元來此等公債證書ハ通常準備  
 ノ一部分トシテ保藏セラル、モノニシテ平時ニ在リテハ實ニ最屈強ノ準備物  
 ナリ商海波靜ニ信用堅全ノ日ハ勿論一二銀行ノ信用紊墜シ恐慌ノ變其間ニ起  
 ルコトアルモ公債證書ハ實ニ安全ナル準備ナリ夫レ然リ然リト雖モ一般恐慌  
 ノ變起リタル場合ニ於テハ公債證書ヲリトモ決シテ頼ムニ足ラサルナリ例ヘ  
 ハ茲ニ一銀行アリ五十萬磅ノ公債證書ヲ賣却シ或ハ之ヲ抵當トシテ金員ヲ借  
 入レントスルモ恐慌アルニ方リテハ必スヤ其志望ヲ達スルコトヲ得サルヘシ  
 其故ハ斯ノ如キ場合ニ於テハ尋常ノ銀行ハ皆競ヒテ之ヲ賣却セントシ或ハ機  
 ヲ見合ハシテ之ヲ賣拂ハントスルモノナレハ如何ナル買手アリテカ能ク之ヲ  
 引取ルコトヲ是レ爲サシヤ此時ニ際シ能ク公債證書ヲ買取り若クハ之ニ對シ



貸金ヲ爲シ得ル者ハ獨リ英蘭銀行アルニシテ若シ之ヲ拒辭スル  
 アラハ諸銀行ハ縱令幾多ノ公債證書ヲ所有スルモ之ヲ融通シテ現金ヲ市場ヨ  
 リ借入ル、コト能ハサルナリ能ク思ハサルヘカラス  
 恐慌ニシテ若シ要市府内ニ止マラス全國ヲ舉ケテ之カ勢焰中ニ覆没セシムル  
 ニ至リテハ其困難實ニ名狀スヘカラサルモノアリ凡ソ地方銀行ハ平生ニ於テ  
 ハ僅ニ日用必需ノ金員ヲ準備トシテ保有スルニ止マリテ多クハ皆其資金ヲ手  
 形仲買人若クハ利子ヲ拂フ所ノ銀行ニ預ケ入レ又ハ公債證書株式等ニ投入シ  
 置クヲ常トス然ルニ若シ一旦恐慌ノ地方ニ波及スルヤ此等地方銀行ハ皆倫敦  
 ニ來リ金員ヲ引出サントスル者ナリ然リト雖モ倫敦ニ於テハ銀行ヲ始トシ諸  
 商買皆盡ク現金ノ缺乏ヲ感シ相競ヒテ之カ收集ニ奔走スルノ際ナルヲ以テ誰  
 アリテカ能ク地方銀行ノ要求ニ應スルヲ得ンヤ茲ニ於テヤ此等ノ地方銀行モ  
 亦英蘭銀行ニ就キテ現金ノ供給ヲ仰カサルヲ得サルニ至ルモノナリトス  
 抑ロンバード街カ負擔スル仕拂義務金額ハ實ニ巨額ナルモノニシテ他ノ貨幣  
 市場ノ決メテ比肩シ得ルモノニアラス且ツ英國全般ノ仕拂義務金額ノ如キモ

亦世界ニ其比ヲ見サルモノナリ而シテ其金融ノ組織ヲ見レハ實ニ上來陳述  
 來リタルカ如クナルカ故ニ英國ニ於テ一朝不幸ニシテ恐慌ノ起レルトキハ其  
 金融市場ノ困難ノ甚大ナル隨テ英蘭銀行ノ危險ナル實ニ名狀スヘカラサルモ  
 ノアルナリ夫レ英蘭銀行ハ既ニ開陳シタルカ如ク獨リ英國全般ノ要求ニ對ス  
 ル準備金ヲ保藏スルモノナレハ恐慌起リ信用紊レタル日ニ在リテハ全國舉ケ  
 テ扶助チ一ノ英蘭銀行ニ仰クカ故ニ同行カ仕拂要求ヲ受クルノ切迫過激ナル  
 實ニ他銀行ノ比ニアラサルヲ見ルヘシ  
 夫レ英蘭銀行ノ責任正ニ斯ノ如ク大且ツ重ナリ果シテ然ラハ英蘭銀行ハ從來  
 如何ナル方法ヲ以テ其義務ヲ盡シタルヤ余輩今同銀行ノ史蹟ヲ考フルニ眞ニ  
 奇異ナル觀アリ無論英蘭銀行ハ恐慌アル毎ニ巨額ノ資金ヲ放散シテ以テ市場  
 ノ鎮制ヲ謀ルヲ見ル即チ千八百四十七年ノ恐慌ニ於テハ一個人ノ抵當ニ對シ  
 テ貸渡シタル金額ハ千八百九十六萬三千磅ヨリ二千四十萬九千磅ニ増加シ千  
 八百五十七年ニハ三千四十萬四千磅ヨリ三千百三十五萬磅ニ増加シ千八百六  
 十六年ニハ千八百五十萬七千磅ヨリ三千三百四十四萬七千磅ニ増加セリ斯ノ



如ク英蘭銀行ハ恐慌ノ時ニ於テハ毎ニ奮ヒテ貨幣ヲ貸出シ能ク金融ヲ調理スルヲ意ヲサルカ如シト雖モ此措置ヲ決シテ該銀行カ自ラ當ニ盡スヘキ所ノ義務ナリト信認シテ之ヲ爲スモノニアラス余輩カ屢聞シ所ニ據レハ前段ニモ述ヘタルカ如ク英蘭銀行ノ銀行部ハ自ラ其營業上ノ責任ニ於テ毫モ諸他銀行ト相異ナルモノナシ恐慌ニ際スルモ決シテ他ノ銀行ニ異ナル所ノ特殊ノ義務アルモノニアラスシテ此時ニ方リテハ同銀行ハ須ラク他ノ銀行ト同シク專ラ自己ノ安全ヲ謀ルヲ以テ事足レリト爲ス者アリ之ヲ要スルニ英國ニ於テハ紙幣制度ニ關シテ從來議論甚クタル割合ニハ彼ノ中央銀行ノ義務責任ニ至リテハ之ヲ講究スル者甚ク罕ニシテ會之ヲ論スル者アレハ皆其本旨ヲ誤レルヲ見ル豈ニ奇ナラスヤ豈ニ危カラヌヤ

説ヲ爲ス者アリ曰ク英蘭銀行カ發行スル紙幣ハ是レ英國ノ合法通貨ナリ故ニ英蘭銀行ハ金融上公衆ヲ扶助スルノ義務アリト是レ實ニ誤レルノ甚シキモノナリ夫レ銀行紙幣ハ英蘭銀行ノ紙幣發行部ヨリ出ツルモノニシテ銀行部ハ之カ爲メニ別ニ義務ヲ負フヘキ理ナキナリ發行部ト銀行部ト偶同一建物ノ内ニ

アルノ故ヲ以テ銀行部ハ恐慌ニ應スルノ扶助ヲ得ヘキモノニアラス若シ發行部ヲシテ或ル遠隔ナル所ニ在ラシムルモ銀行部カ今日ノ地歩ハ毫モ變更スル所ナカルヘキナリ且ツ昔時ハ英蘭銀行ハ自由自在ニ紙幣ヲ發行スルコトヲ得シモ今ヤ嚴法ヲ以テ之カ制限ヲ立テヌレハ大ニ金融上其所ヲ異ニセルアルヲヤ此紙幣發行ノ故ヲ以テ彼ノ金融上公衆ヲ扶助スルノ特務ヲ銀行部ニ負ハルムルハ決シテ可容スヘキノ説ニアラサルナリ

又論者アリ曰ク英蘭銀行ハ政府ノ勘定ヲ司ルモノニシテ實ニ政府ノ銀行ナリ又一ノ公衆ノ便ニ供スル衙府ナリ故ニ公衆ヲ助クルノ義務アリト是レ亦大ナル意見ノミ抑英蘭銀行カ政府徵收ノ租稅ヲ預リ政府ノ需要ニ應シテ之ヲ出納スルノ職掌ハ毫モ恐慌ノ事ニ關係ナキモノナリ且ツ夫レ政府ノ預リ金ハ其多寡常ニ同一ナル能ハス或ハ市場ニ資金餘裕アルトキニ多額ナルコトアルベシ或ハ金融必迫シ恐慌起ラントスルノ時ニ際シ却テ非常ニ僅少ノ額ヲ剩スノミナルコトアルベシ決シテ常ニ之ニ依頼シ得ヘキニアラス單ニ政府ノ預リ金ヲ爲ストノ故ヲ以テ銀行ヲシテ恐慌ニ際シ人民ヲ救助シ金融ヲ鎮制スルノ義務



夫レ英蘭銀行カ貨幣市場ニ對シテ盡スヘキノ義務アルハ世人既ニ之ヲ知ル然  
 リト雖モ今如何ナル理由ノ存スルアリテ英蘭銀行ハ此義務ヲ負ヌカト問ハ、  
 世人未ダ能ク之カ明解ヲ與フルコトヲ得ヌ今余輩ノ見ル所ヲ以テスレハ是レ  
 英國ノ金融制度ノ性用上ノ必要ヨリ來ルモノナリ即チ英蘭銀行ハ既ニ前段ニ  
 モ論セルカ如ク一國ノ準備ヲ保藏スル所ニシテ非常ノ時ニ際シテハ英蘭銀行  
 ニ就キテ之ヲ求ムルコトアラサレハ現金ノ供給ハ他ニ之ヲ求ムヘキ所ナキナリ  
 英蘭銀行ニシテ果シテ一國ノ準備保藏所タル以上ハ其金融世界ニ對シ其義務  
 ナ負フノ理由亦自ラ知了スヘキナリ抑準備ハ徒ニ之ヲ保藏スルモノニアラス  
 非常ノ時ニ際シ其急需ニ應センカ爲メナリ故ニ若シ一大銀行ニシテ一國ノ最  
 終準備ヲ保藏スルトキハ恐慌起ル毎ニ機ヲ計リ力ヲ盡クシテ其準備ヲ貸出シ  
 以テ恐慌ノ鎮制ヲ謀ラサルヘカラス何トナレハ恐慌ニ際シ貸出ヲ爲スハ是レ  
 即チ平常無事ノ日ニ於テ準備ヲ保藏スル所以ノ本旨ヲ實行スルモノナレハホ  
 ヲ夫レ英蘭銀行ハ英國全體ニ對シ最終ノ準備ヲ保藏スルモノナリ是ヲ以テ恐

備ニ方々十分ノ貸出ヲ爲スハ實ニ該銀行ノ組織上當ニ果行セサルヘカラス  
 所ノ義務ナリトス  
 前段ニモ述ヘタルカ如ク英蘭銀行ハ恐慌ニ際シ隨分多額ノ資金ヲ貸出シテ  
 コトアリト雖モ是レ未ダ一定ノ主義ニ據リ眞實其當ニ斯ク爲セ、ルヘカラス  
 ルモノナリトノ義務ヲ認了シテ然ルニアラス是故ニ其貸出方タル大抵皆姑息  
 ニ出テ躊躇機ニ後レ孤疑信ヲ傷クルコト往々ニシテ之アリ即チ彼ノ千八百四  
 十七年及千八百六十六年ノ恐慌(但シ此千八百六十六年ノ恐慌ニ際シテ英蘭銀  
 行カ爲シタル措置ハ同銀行ノ所業トシテハ最善最優ノモノナリキ)ニ於テハ英  
 蘭銀行ハ公債證書類ヲ抵當ニスルモ貸金ヲ爲サ、ルヘシ縱令貸出スモ甚シク  
 之ヲ嫌惡スルモノナリトノ世評アリ此評一度全市ニ聞キ尋キテ全國ニ傳播ス  
 ルニ至レハ恐慌益煽起セラレ其結果實ニ言フヘカラスルモノアルナリ蓋シ孤  
 疑躊躇ノ情狀ヲ見セテ以テ貸出スカ如キハ其金額ハ可ナリ巨大ノ額ニ達スル  
 コトアルモ決シテ能ク恐慌ヲ鎮靜スルモノニアラスシテ却テ爲メニ信用ヲ傷  
 損シ不安心ヲ増張スルノ虞アルモノナリ要スルニ恐慌ヲ鎮靜スルノ秘訣ハ世



人ヲシテ金利ハ縦令騰貴スルニモセヨ確實正法ノ者ハ何時ヲリトモ資金ヲ借  
 出スニ難キコトナカルヘツトノ安心ヲ保有セシムルニ在リ世人若シ一兩日待  
 タハ必ス金ヲ得ヘクシテ終ニ破産ノ恐ナキコトヲ確信セハ則チ狂奔急迫ノ要  
 求ノ如キハ自然ト消散シ市場ノ景況日ナラス平常ニ復歸スヘシ然ルニ英國銀  
 行ハ此策ニ出ツルヲ知ラス毎ニ因循姑息法ヲ採リテ恐慌ノ急需ニ應スルノ道  
 ニ通セス豈ニ嘆息ノ至リナラスヤ是レ我カ日本ノ金融ヲ論スル者ノ須ラシ熟  
 考スヘキ所ナリトス

抑英國銀行ノ英國全體ノ金融市場ニ對スル責任斯ノ如ク重大ニシテ而シテ之  
 チ處理經營スル所ノ主義方法ノ十分固定セサルコト實ニ斯ノ如クナルヲ見テ  
 ハセオウト氏ハ大ニ一大中央銀行ヲ設ケテ以テ全國金融市場ノ主宰權ヲ有セ  
 シムルノ制度ヲ非難シ是レ自然ニ反戻スルノ組織ナリト論シ若シ改ムヘクシ  
 ハ之ヲ廢シテ準備分有ノ自然法ニ適ヘル組織ヲ以テセンコトヲ欲スルモ如何  
 セン英國銀行ノ成立既ニ業ニ固定シ英國金融市場ノ慣習全ク移スヘカラサル  
 カ故ニ實際ニ於テハ專ラ之ヲ補正スルヨリ外ニ策ナキ旨ヲ説クリ嗚呼此トセ

オウト氏ノ説タル固ヨリ英國金融上ノ通弊ヲ觀テ自ラ禁スル能ハス遂ニ斯ノ  
 如キ言ヲ爲セルナルヘキモ余輩退キテ之ヲ思ヘハ氏カ説タル未ダ英國舊學派  
 ノ思想ヲ脱セサル所アリ余輩ノ如キハ此中央銀行設置ノ可否ニ關シテ氏ノ説  
 ニ與ミスルヲ得サル者ナリ請フ後章ニ於テ十分余輩ノ卑見ヲ開陳セン



#### 第四章 英蘭銀行ノ起元及發達

世ニ所謂推斷史家アリ能ク事物ノ實跡ヲ探究セス專ラ現在ノ景狀ニ據リ既往ノ事蹟ヲ推測想定スルヲ以テ足レリトス若シ此種ノ史學者ヲシテ銀行業ノ起元發達ヲ説カシメハ必スヤ人民餘裕ノ資金ヲ預ケ入ル、ノ必要ヨリシテ自ラ銀行ナルモノ起リシナルヘシトノ想定ヲ提出スヘシ此ノ如キ説タル若シ之ヲ現今ノ新開殖民地等ノ銀行起業ノ事ニ適用スレハ實ニ其然ルヲ見ルモノナリ例ヘハ英領殖民地ノ人民カ漸ク資財ヲ貯フルニ及フトキハ人民ハ之ヲ自家ニ保藏スルノ不安心ナルヲ感シ且ツ徒ニ資財ヲ死守シテ利息ヲ失フノ愚ヲ悟リ茲ニ於テカ銀行ヲ起シ金融ヲ助ケ以テ彼我ヲ益スルノ舉ニ出ツヘキナリ世間推斷以テ事物ノ起元ヲ論スル者此等現今ノ情狀ヲ見ルヤ即チ以テ爲ラシ銀行業ノ起元モ亦當ニ斯ノ如クナルヘシト是レ蓋シ今ヲ以テ直ニ古ヲ推スノ過ナリ夫レ物整モ事定レル今日ニ於テ容易ニ爲スヘキ事業モ經驗ナシ智識足ラサル往時ニ在リテハ實ニ至難ナリシモノナリ彼ノ預金銀行業ノ如キ即チ其一ナリ

抑預金銀行業ニ於テ要スル所ハ一大多數ノ人民カ一人乃至數人ヲ擧ケテ厚ク之ヲ信用スルニアリ若シ銀行業者ノ數多キニ比シテ預ケ金人ノ數少キトキハ銀行業ハ利益ヲ収ムルコト能ハサルヘシ而シテ巨多ノ人民ヲシテ少數ノ人士ニ信用ヲ置カシメ千辛万苦シテ得タル所ノ資財ヲ管理セシムルカ如キハ決シテ一朝一夕ニ生スヘキノ結果コアラサルナリ見ヨ佛國ハ歐洲大陸中ノ一大重要ナル商業國ナリ然ルニ地方ノ市府ニ住スル人民ノ如キハ今日ト雖モ尙ホ十分ニ預金銀行業ノ利ヲ認メス個々自ラ資財ヲ保藏スルヲ喜ヒテ利子ヲ失フヲ思ハス是ヲ以テ銀行ヘ預ケ金ヲ取扱ハシムル事ノ容易ニ成立ツヘキモノニアラサルコトヲ知ルヘシ

凡ソ社會ニ事物起ルヤ先ツ最大必要ヲ濟充スルニ始マリ漸ク以テ之ヲ便宜ノ事柄ニ適應セシムルモノナリ試ニ新開地ニ於テ商業ノ發達スル順序ヲ見ヨ最初ハ其社會ニ必要欠クヘカラサル所ノ商業ノミ專ラ其間ニ行ハル、モノナリシモ漸々急需ナラサル娛樂的商業モ亦其間ニ出テ來ルモノトス夫レ預金銀行業タル今日發達セル思想ヲ以テ之ヲ見レハ最モ重要ナルモノニシテ實ニ銀行



業ノ本色タルノ觀アリ然リト雖トモ熟往時ノ實情ヲ察スレハ當時ニ在リテハ預金ノ事ハ未タ以テ社會ノ必要事柄タラサリシナリ請フ左ニ實例ヲ舉ケテ之ヲ證セン

伊太利國セノア府ノセントジョーシ銀行其他之ニ模倣シテ起リタル諸銀行ハ孰モ皆其市邑政府ニ貨幣ヲ貸附スルヲ以テ營業ト爲セルノミ何國ノ政府ト雖モ貨幣ヲ要スルノ急ナルハ其通情ナルニ彼ノ中世ニ於ケル伊太利共和國ノ如キハ擾亂絶エサリシカ故ニ特ニ其政府ニ於テ貨幣ヲ要スルコト緊急ナリシナリ是ヲ以テ此等銀行ハ久シキ間政府ニ對スル給財會社ノ如キ成立チ存シ今日所謂銀行業ヲ營ムニ至リシハ實ニ夥多ノ星霜ヲ經タル後ナリトス

又歐洲北方ニ於ケル古代ノ大銀行ノ起元ハ尙ホ一層奇ナルモノナリ即チ此等諸要銀行ノ設立本旨ハ專ラ善良ナル通貨ヲ給出スルニ在リキアダムスミス氏富國論ニ於テ此等銀行ノ事ヲ論スル甚タ丁寧ナリ故ニ余輩ハ左ニ之ヲ舉ケテ以テ事實ノ存スル所ヲ示スヘシ

佛國又ハ英國ノ如キ大國ニ於テハ其國內ニ流通スル所ノ通貨ハ大抵皆自國

鑄造ニ係ルモノナルカ故ニ其通貨ニシテ磨損輕惡トナラハ政府能ク之ヲ改鑄シテ其本位價格ニ復セシムルヲ得ヘシ然ルニセノア漢堡等ノ小邦ニ於テハ其用フル所ノ通貨獨リ自邦鑄造ノモノ、外ニ其國民カ交通往來スル所ノ隣國ノ貨幣多ク混淆シ品位一定セス縱令改鑄ノ事ヲ行フモ決シテ好果ヲ得ルコト能ハス何トナレハ隨テ改鑄スレハ隨テ混淆スレハナリ然ルニ當時此等不整一ノ通貨ヲ以テ外國ノ爲換手形ヲ仕拂フトキハ夫々打歩ヲ取ラル、ヲ以テ商人ハ毎ニ大ナル損害ヲ蒙リタリ是ニ於テカ政府ハ此等ノ不便弊害ヲ濟治スルカ爲メ屢法令ヲ出シテ價額若干以上ノ外國爲換手形ノ仕拂ハ尋常ノ通貨ヲ以テセス必ス信用ニ據リテ設立シ且ツ政府ノ保護ヲ受クル所ノ銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシメ銀行ハ自國本位ニ適合セル善良ナル貨幣ヲ以テ之ヲ仕拂フノ義務アルモノトセリ彼ノヴェニスセノアマステルダム漢堡及ニコーレムブルク等ノ銀行ハ後年ニ至リテハ或ハ他ノ目的ヲ満足セシムルモノトナリタルアレトモ最初ハ孰モ皆右ノ本旨ニ據リ設立セラレタルモノ、如シ



第十七世紀ノ終ニ於テアマステルダムノ外國貿易非常ニ盛大ナリシカ故ニ自然ト諸外國ノ惡劣貨幣國內ニ流入シ國內通用ノ貨幣ハ品位善良ノ貨幣ニ比スレハ大約九分ノ割引ヲ生シ政府ヨリ新貨出ツレハ或ハ輸出セラレ或ハ溶解セラレ善貨去リテ惡幣獨リ残り爲ニ外國貿易ニ從事スル者ハ爲換手形仕拂上毎ニ惡幣ノ相場違ヨリシテ大ナル損失ヲ蒙ルヲ以テ政府ハ種々方法ヲ設ケテ之ヲ矯正セシコトヲ謀リシモ毫モ其効ナカリキ是ニ於テ政府ハ遂ニ千八百九年ヲ以テ一ノ銀行ヲアマステルダム府ニ設立シ外國貨幣ト内國貨幣トニ論ナク磨損剝削ニ係レルモノハ總テ本位良貨ノ實價ニ準シテ之ヲ受取リ改鑄費其他雜費トシテ些少ノ費額ヲ引去リ餘分ノ價額磨損價額ト本位實價ヨリ右費額ヲ引去リタル價額トノ差ナリハ之ヲ銀行ノ預リト爲サシメ之ヲ稱シテ銀行金ト云フ蓋シ本位貨幣ヲ代表スルモノナレハナリ且ツ法令ヲ發シテ凡ソアマステルダムニ於テ仕拂フヘキ手形又ハ同地ニ於テ取引セラレタル手形ニシテ金額六百ギルダ以上ノモノハ總テ銀行金ニ以テ仕拂フヘキモノトセリ斯ノ如キ組織出テ來リテヨリ手形ノ價格全ク一定シテ

取引上ノ困難頓ニ消散シ商人ハ各取引ヲ右銀行ト開キ大ニ銀行金ノ需要ヲ増加セリ云々

又昔時銀行ノ職務中甚ク重要ナリシハ送金ノ事務トス(此送金事務タル今日ニ在リテモ銀行業務ノ一部分ナリト雖モ全ク昔日ノ觀ヲ存セスシテ唯僅ニ其附屬事務ト成レリ)即チ遠隔ナル地方ニ對シ仕拂フヘキ義務ヲ有スル者ハ貨幣ヲ銀行ニ入レ先方ニ送達スルコトヲ依頼ス而シテ銀行ハ他ノ銀行ト相互ニ通信取引スルカ故ニ其依頼ニ應ジテ望ミノ地方ニ送金ス此事務タル爲換取引ノ漸ク盛ニ行ハル、ニ至リテハ益必要ノ事務トナレリ

以上陳述シタルカ如ク昔時ニ於ケル銀行ノ本職ハ或ハ政府ニ金ヲ貸與シ或ハ惡劣通貨ヲ交換シ或ハ貨幣ヲ送達スルニ在リテ今日ニ於テ要務タル預リ金ノ如キハ全ク營業外ノ事ナリキ而ルニ年月ヲ經ルニ從ヒ此等ノ事務ヲ取扱フノ間自ラ世間ノ信用ヲ収メ遂ニハ預リ金ヲ取扱ヒテ以テ營業ノ利益ヲ得ル事ト成レルモノナリ然リト雖モ元來盛ニ預リ金ヲ取扱ヒ以テ營業本務トスルニハ廣ク且ツ大ナル信用ヲ世間ニ得サレハ能ハサルナリ而シテ信用ヲ世間ニ廣ク



ルニハ貸借取引ヲ盛ニシ金融ヲ補助シ以テ普ク世人ヲシテ銀行ノ要用ヲ知ラシムルニ在リ果シテ然ラハ銀行業ハ如何ナル事ヲ爲シテカ以テ能ク今日ノ地位ニ達スルコトヲ得シカ曰ク紙幣發行ノ一事是レナリ

夫レ紙幣發行ノ事タル之カ方法ノ良否ニ依リテ大ニ利害アルモノナリ然リト雖モ其發行方法ノ利害得失ヲ論スルハ貨幣論ニ屬スルモノナルヲ以テ余輩ハ茲ニ之ヲ論スルコトヲ要セス唯實際ノ史蹟ニ就キテ之ヲ見ルニ社會ニ銀行業ヲ普及スルノ最良手段ハ小價額ノ銀行紙幣ヲ發行スルコトヲ許可スルニアリ蓋シ銀行ニ紙幣ヲ發行スルコトヲ許スハ猶ホ之ニ補助金ヲ與フルト同一ノ効果アルモノトス何トナレハ銀行ニシテ紙幣ヲ發行シ得ハ假令預ケ金ヲ爲ス者アラサルモ能ク其紙幣ヲ貸出シテ以テ營業シ應分ノ利益ヲ收ムルヲ得ヘケレハナリ例ヘハ彼ノ今日預金銀行業ノ最モ盛大ニ行ハル、蘇格蘭ノ如キモ其最初ハ皆紙幣發行ニ依リテ營業利益ヲ得タルモノニ外ナラサルナリ即チ現今ニ於テハ發行紙幣額ハ蘇格蘭諸銀行ノ借方部ニ於テ僅ニ一小部分タルニ過キサレトモ往時ニ溯リテ之ヲ見レハ同國銀行ノ利源概シテ皆之ヨリ出テサルハナ

シ彼ノ「蘇格蘭ロヤル銀行」ニ合併セシ「ダンザー銀行」ハ千七百六十三年ノ創立ニ係ルモノナルカ其合併スル八九年前ヨリシテ頗ル預リ金ノ多キヲ致シ當時蘇國ニ於テ屈指ノ預金銀行タルヲ得タリト雖モ是レ亦其創立後二十五年間ハ全ク預ケ金ヲ爲ス者ナク其營業利益ハ大抵發行紙幣ノ貸附ヨリ來リ傍ラ送金事務ヲ以テ之ヲ補助シタルニ過キサリキ而シテ同銀行力稍多ク預金事務ヲ執ルニ至リシハ實ニ創立後三十年即チ千七百八十四年頃ヨリ以降ナリトス

今英蘭諸銀行ノ發達ヲ考察スルニ是レ亦蘇國ト同一轍ニ出テタルヲ見ル即チ千八百三十年頃マテハ銀行業ノ利益ハ重ニ紙幣發行ニ由レルモノニシテ同年後久シキ間ト雖モ預金事務ノ如キハ實ニ輕事ト見做シ銀行業ノ利害得失ヲ論スル者ハ皆是レ專ラ紙幣發行ニ關スル議論タルニ外ナラサリキ當ニ當時ニ於テ然ルノミナラス今日ト雖モ尙ホ銀行業ノ本色ヲ洞知スル者少ク論者多クハ紙幣發行ノ事及之ヲ規制スル所ノ千八百四十四年ノ銀行條例トチ喋々スルニ過キス

又顧テ佛國ノ景狀ヲ察スルニ全ク同一ノ事跡アルヲ認ム即チ彼ノ千八百六十



五年佛國ニ於テ大ニ銀行業務ニ就キ調査セシ時ノ如キモ今日認メテ以テ銀行ノ本職ト爲ス所ノ預金取扱ノ事ハ全ク之ヲ第二着ニ置キ其主トシテ研究セシ所ハ紙幣流通ノ事ニテアリキ而シテ佛國ニ取リテ紙幣流通ノ事ノ重大ナル關係ヲ有セル事實ハ彼ノ普佛戰爭前後ニ於ケル佛蘭西銀行ノ勘定書ヲ見テ以テ之ヲ知ルヘキナリ即チ普國ト開戦ズル前一週日ノ佛蘭西銀行ノ報告書ヲ見ルニ同銀行紙幣發行高ハ五千九百二十四萬四千磅ナリシモ其人民ヨリノ預リ金額ハ僅ニ千百十二萬七千磅ニ過キサリキ而シテ右發行紙幣高ト預リ金額トノ關係ハ戰爭後即チ千八百七十二三年頃ニ於テハ益大ナル差違ヲ致シタルヲ見ル即チ預リ金高ハ大約依然タルニモ拘ハラズ其紙幣發行高ノ如キハ一億一千二百萬磅ノ巨額ニ上リタリ是レ固ヨリ戰亂ノ餘弊ヲ承ケ財政困難ニテ民力亦疲弊セルヨリシテ生シタル止ムヲ得サル結果ノ爲メニ幾分カ然ルモノナルヘケレトモ而モ同國全般ノ情況ノ如キハ依然戰爭前ニ異ナラザリシナリ是ニ由リテ之ヲ觀レハ佛國ノ如キ強大ナル邦國ト雖モ其預金取扱ヲ主務トスル銀行業ノ組織十分發達シテ彼ノ英國今日ノ如キ宏大堅固ノ基礎ヲ爲スニハ決シテ

容易ノ事ニアラサルヲ知了スヘキナリ  
 今又試ニ獨逸ニ於ケル狀況ヲ察スルニ亦同一ノ事實ノ存スルヲ見ル即チ佛國ト開戦前ノ調査ニ係ル所ノ北獨逸諸銀行ノ勘定書ヲ閱スルニ紙幣發行高ハ三千九百三十七萬五千磅ノ巨額ニ上レルモ其預リ金高ノ如キハ僅ニ六百四十七萬二千磅ニ過キス而シテ千八百七十二三年頃ニ於テモ其關係依然變更スル所ナキヲ見ル即チ預リ金ハ僅ニ八百萬磅ニ増加セシノミナリシモ其紙幣發行高ハ増加シテ六千萬磅ト爲レリ  
 斯ノ如ク何レノ國何レノ銀行ニ於テモ紙幣發行業カ常ニ預金業ニ先立チテ起ルノ理由ハ決シテ靚難キモノニアラサルナリ夫レ紙幣發行ノ事タル之ヲ預金取扱ノ事ニ比スレハ甚タ容易ナルモノナリ紙幣ヲ發行スルヤ銀行者ハ人民ニ對シ致動的ノ地位ニ立ツモノニシテ紙幣ヲ以テ能ク貸金ヲ爲シ又能ク之ヲ以テ負債ヲ償却シ得ルモノナリ而シテ預金取扱ニ於テハ銀行者ハ受動的ノ地位ニ在ルモノニシテ預金ノ有無多少ハ全ク人民ノ銀行ニ對スル意向如何ニ依ルモノナリ銀行カ如何ニ多額ノ預金ヲ取扱ハント欲スルモ公衆ニシテ之ヲ信用



セサレハ復タ之ヲ如何トモ爲ヌチ得サルノミ事已ニ他人ノ意向ニ属シテ我自  
 ラ之ヲ左右スルコト能ハス且ツ多數人民ノ信用ヲ博スルヲ要スルトセハ預金  
 營業ノ進歩ノ遅々タルコトハ毫モ怪ムニ足ラサルナリ之ニ反シ紙幣發行ノ場  
 合ニ於テハ世人カ銀行ヨリ受取リタル紙幣ヲ通用シテ之ヲ拒絕セサル限リハ  
 別ニ人民ノ意向ニ依頼セスシテ其營業ノ區域ヲ擴ムルヲ得ヘシ兩者ノ難易實  
 ニ斯ノ如ク異ナリ即チ紙幣發行ノ預金營業ニ先立チ起ルノ理知ルヘキナリ  
 然リ而シテ紙幣發行業ヨリシテ漸々預金營業ニ移ルノ序亦明ナルモノナリ夫  
 レ世人カ産業進歩シ漸々多額ノ財貨ヲ貯フルニ至ルヤ自ラ之ヲ保藏スルニハ  
 盜難等ノ危険アルヲ恐レ且ツ徒ニ之ヲ死守シテ利子ヲ失スルヲ惜ミ當時ニ至  
 リテハ銀行業モ既ニ多數ノ年序ヲ經テ營業取引漸ク根基ヲ固クシ信用モ亦能  
 ク確成スルヲ見ルヤ此等人民ハ漸ク其目下不要ノ資財ヲ銀行ニ預ケ入レテ以  
 テ自ラ之ヲ保管スルノ勞ヲ避ケルト同時ニ幾分カノ利子ヲ得ンコトヲ欲シテ  
 各自信用ヲ置ク所ノ銀行ニ預ケ入ル、ニ至リ銀行ハ此等ノ資財ヲ集メテ更ニ  
 之ヲ貸出シテ以テ營業シ得ルニ至ルモノナリハセオット氏ハ紙幣發行業ヨリ

預金營業ニ至ルハ重ニ人民カ銀行紙幣ニ對シ不安心ヲ抱クニ及ンテ之ヲ銀行  
 ニ返シ預クル様ニナレルモノト爲スニ似タリ即チ同氏は曰ク  
 蓋シ銀行者カ紙幣ヲ發行シ世人多ク其紙幣ヲ貯蓄スル者出來ルトキハ此等  
 ノ人々必ス以爲ラシ己レ銀行ヲ甚ク厚ク信用スルモ銀行ハ別ニ己ニ加フル  
 者ナシ且ツ之ヲ貯藏スルヤ紛失盜難ノ虞アルコト毫モ正貨ヲ保藏スルノ危  
 險ナルニ異ナルナキノミナラス銀行不幸ニシテ破産スルトキハ此等紙幣ハ  
 全ク古紙ト一般ニシテ其苦心ニ報ユヘキモノナシ而ルニ若シ之ヲ銀行ニ預  
 ケ入ル、トキハ保管ニ關スル苦心ヲ除クヘク萬一銀行破産スルコトアルモ  
 自家ノ損失ハ之ヲ預クルニ由リテ決シテ多キチ加ヘサルヘシト是レ人情ノ  
 必然ニシテ理ノ最モ親易キモノナリ云々但シ理最モ親易クシテ人情ノ赴ク  
 所ナルヲ以テ最初ニハ之ヲ銀行ニ預クル者寥寥ナリシモ其數其額次第ニ増  
 加シ預金ノ業遂ニ盛大ヲ致スモノナリ云々  
 抑此ハセオット氏ノ言タル固ヨリ幾分カ實況ヲ示スヘキモノタルモ余輩ヲ以  
 テ之ヲ見レハ預ケ金ヲ促進セシメタルモノハ一ハ保管ノ勞ヲ避ケントシ一ハ



資財ニ對スル利息ヲ失ハサラントスル普通ノ人情ニ歸スヘキモノ、如シ而シテ其紙幣發行事業ヨリ預金營業ニ變移スルノ難易遲速ハ大ニ其國內外ノ事情ニ由リテ其度ヲ異ニス例ヘハ專ラ中央銀行ニ依リ地方銀行ノ振起セサル邦國ニ於テハ銀行業ノ普及甚ク容易ナラス隨テ預金取扱ノ進歩スルコト遲々タリ其故ハ中央銀行ハ高ク地位ヲ首府ニ構ヘ豪商大買ト取引ヲ爲シ自然巨額ノ貸借ニ從事スルモ地方ノ事業ニ至リテハ自然ト地方事情ニ暗ク商賈信用ノ確否ニ通セス其營業自ラ迂ニシテ十分ノ營業取引ヲ爲ス能ハス然ルニ地方銀行ノ如キハ居處其地方ニ在リ親シク其事情ニ通シ俗習ニ熟シ且ツ人物ノ確否等ニ明ナルヘキヲ以テ其地方中ニ於ケル營業取引ハ之ヲ中央銀行派出ノ銀行者ニ比スレハ甚ク都合好キ地位ニ在ルモノナリ地位已ニ好シ其信用ヲ博シ其事業ヲ普及シ以テ地方ノ預金ヲ受クルニ容易ナルコト得テ知ルヘキナリ且ツ又銀行業ノ進歩ノ遲速ハ大ニ其國情ノ如何ニ關スルモノナリ國ニシテ内亂絶ニス或ハ常ニ外寇ノ患アルトキハ其國ノ銀行業ハ決シテ容易ニ發達スルヲ得サルナリ何トナレハ人民ハ安心シテ貨幣ヲ銀行ニ委テ預クルヲ得スシテ

成ルヘシ手許ニ之ヲ貯藏スルヲ欲シ其銀行紙幣ノ如キニ至リテハ何時如何ナル事變起リテ銀行倒斃センモ測ラレサルヲ以テ之ヲ取扱フ者常ニ不安心ヲ抱キ隨テ其流通普及ナル能ハサルヘケレハナリ國情正ニ斯ノ如クナラハ信用ヲ以テ成リ立ツ所ノ銀行業何ソ能ク十分ナル發達ヲ爲スヲ得ン彼ノ歐洲大陸諸國ノ如キ一般銀行制度上ヨリシテ之ヲ見レハ當ニ英國ト同一ノ進歩アルヘキモノアルモ其實際尙ホ未ダ應分ニ發達セス是レ他ナシ此等ノ邦國ハ不斷政治上顧慮スヘキ所多クシテ人民安堵シテ貸財ヲ銀行ニ托スルコトヲ希ハス銀行モ亦奮發以テ巨大ナル貸借ニ從事スルヲ憚カルカ如キ傾向アルニ因ルナリ今英國銀行業ノ中央政府タル英蘭銀行ノ起元ヲ尋ヌルニ是レ亦全ク紙幣發行ノ目的ニ出テタルヲ見ル請フ少シク之ヲ研究セン第十七世紀中チャールズ二世ノ政府ハ詐僞不正ナル手段ヲ用ヒテ人民ノ資財ヲ消耗シ爲メニ英國ノ信用ヲシテ地ニ墜サシメタリ蓋シ當時英國ニ於テハ金匠ノ輩多クハ方今ノ銀行類似ノ營業ヲ爲シ人民ノ貯金ヲ預リシカ其準備金ハ之ヲ大藏省ニ預ケ入レ以テ保管ヲ政府ニ依頼スルノ習ナリキ是レ政府ハ他



ニ比マテ信用厚ク安心ナル預ケ場所ナレハナリ然ルニチヤールス第二世ハ私  
 ニ此金匠ノ預置キタル準備金ヲ濫費シ辨償ノ途ナキニ苦ミ無法ニモ突然令チ  
 下シテ國庫ヲ鎖閉シ毫モ之ヲ返却セス是ニ於テヤ金匠ノ輩爲メニ多ク倒産ス  
 斯ノ如キ無法ノ所爲アリタルカ爲メ「スチユアルト」家ノ政府ノ信用益々墜損シ財  
 政愈々困難ヲ極メタリ即チ千六百九十四年ニ於テウヰリヤム第三世ハ市民ニ對シ  
 毫モ信用ナク少シク大ナル金額ハ政府ノ力ヲ以テ之ヲ倫敦市場ヨリ借ルコト  
 能ハサルニ至レリ而ルニ當時佛國ト兵ヲ交ヘテ費途益々多ク爲メニ財政益々窘迫  
 ナ極メタリシカ幸ニシテ蘇格蘭人ウヰリヤム、バウターソント云フ者アリ年八  
 分ノ利子ヲ以テ百二十萬磅ノ公債ヲ募集スルノ奇策ヲ獻セリ即チ當時市場ノ  
 金利甚々高ク且ツ政府ノ信用甚々薄キヲ以テ年八分ノ如キ低價ニテハ尋常手  
 段ニテ應募者ヲ得ルノ難キコト明瞭ナルカ故ニ政府ヲシテ應募者ニ特典ヲ與  
 ヘ英蘭銀行ノ名ヲ以テ一ノ會社ヲ組織スルノ方法是ナリ是ニ於テヤ政府之ヲ  
 採用シ以テ漸ク其目的ヲ達スルヲ得タリ是レ實ニ英蘭銀行ノ起元ナリトス抑  
 英蘭銀行ハ右ノ事情ニ由リ千六百九十四年七月二十七日發布ノ法令ヲ以テ設

立セラレ資本百二十萬磅ニ對シテ政府ハ毎年八分ノ利子(九萬六千磅)及事務費  
 トシテ四千磅合計十萬磅ヲ銀行ニ附與スルコト、爲セリ今其組織ノ大要ヲ舉  
 ケンニ役員ハ頭取一人(若シハ副頭取)支配人二十四人ヨリ成リ毎年三月二十五  
 日ヨリ四月二十五日ニ至ル一箇月間ヲ以テ定規ニ據リ被撰舉權ヲ有スル者ノ  
 中ヨリ撰舉ス即チ是等ノ役員タルヲ得ル者ハ英蘭人民ニ限り頭取ハ自己ノ所  
 有權及使用權アル株少クモ四千磅ヲ有スルヲ要シ副頭取ハ同シク三千磅支配  
 人ハ同シク二千磅ヲ有スルヲ要ス而シテ此等役員ノ内ヨリ十三人以上頭取若  
 シハ副頭取ハ必ス其内ニ在ルヲ要ス)ヲ以テ事務委員ト爲シ行務ヲ處理セシメ  
 且ツ書記、小使等ノ雇人レ、給料ノ支拂等ヲ司ラシム)又撰舉權ヲ有スル者ハ五百  
 磅以上ノ株ヲ有スル者ニ限り一人ニ付キ一箇ノ投票權アルモノトス)又毎年九  
 月十二月四月及七月ヲ以テ四回ノ通常總會ヲ開ク但シ正當ナル撰舉權ヲ有ス  
 ル株主九名以上ノ請求アルトキハ臨時總會ヲ開クヲ得又總會ハ多數決法ヲ以  
 テ同行事務ニ關スル内規告知等ヲ定ムルコトヲ得ルモノナリ同行ハ爲換手形  
 金銀塊等ノ取引ノ外ハ一切ノ商業的取引ニ從事スルヲ得ス但シ貨物ヲ抵當ニ



取リテ貸金ヲ爲シ期限過キテ償還ヲ得サルトキハ右貨物ヲ公賣ニ處スルヲ得  
 又同行ノ利益配當金ハ必ス同行資金ノ運轉并ニ國會所定ノ事業上得タル利益  
 所得等ヲ以テスルニ限ルモノトス等ナリ(尙ホ詳細ニ知ラント欲スル者ハマク  
 ラツク氏ノ商業字典マクレオツド氏ノ銀行論ギルバルト氏ノ銀行論等ニ就キ  
 テ見ルヘシ)

斯ノ如ク合本會社法ニ據リテ英蘭銀行ヲ組織シテヨリ政府ハ屢之ニ頼リテ以  
 テ大ニ財政ノ困難ヲ免レタリ當時英蘭銀行ノ助ナケレハ公債得テ募ルヘカラ  
 ス公債募ルヲ得サレハ以テ勝テ佛國ニ制スル能ハス佛國ニ勝ツコト能ハサレ  
 ハ再ヒセイヤムス第二世ヲ戴キテ英國ニ王ヲラシメサルヘカラス是レ實ニ當時  
 人民ノ最モ屑シトセサル所ナリ且ツ一旦公債募集ニ應ジタル者ハ各自ノ利益  
 ナ謀リ愈心ヲ政府ニ致シテ以テ之ヲ維持ニ盡力セリ是レ蓋シ其公債ハセイヤ  
 スヲ拒拆シ佛國ニ抗スルノ用ニ募集セル所ナレハ萬一敗テ佛國ニ取リセイヤ  
 ス再ヒ英國ニ君臨スルニ至ラハ右公債ヲ無効ト爲シ其償還ノ責ヲ負擔セサル  
 ヤ疑ナケレハナリ是ヲ以テ英蘭銀行ハ久シキ間改進黨ノ集合點ト爲リ其資格

ヲ以テ大ニ政府ヲ輔翼セリ而シテ政府ハ之ニ報ユル爲メ遂ニ英蘭銀行ニ附與  
 スルニ左ノ三大特典ヲ以テセリ

第一ハ英蘭銀行ナシテ政府ノ出納ヲ一手ニ引受ケメタル事はナリ夫レ英蘭  
 銀行ハ最初政府ニ信用ヲ貸シタルモノナリシカ後ニハ政府ノ信用ヲ借リテ以  
 テ業務ノ盛大ヲ致スヲ得タリ抑政府ハ社會ノ最上地位ヲ占メ他ノ集合體ニ比  
 スレハ其勢權最モ大ニシテ仰望モ亦最モ重キモノナリ是故ニ凡ソ政府ノ爲ス  
 所ハ下民之ニ倣フハ古今ノ通情ニシテ非常ノ事情アルニアラサルヨリハ人民  
 ハ概シテ政府ノ措置ヲ是認シテ之ヲ疑ハス就中貨幣上ノ事ニ關シテ然リトス  
 乃チ人民以爲ヘラシク政府已ニ其巨大ナル出納ヲ英蘭銀行ニ委ヌルハ是レ同行  
 ノ信用ノ堅固ナルニ由レハナリ我等個々ノ餘資ヲ舉ケテ之ヲ同行ニ委ヌルニ  
 於テ何ノ危懼顧慮スル所アラント人民カ同行ヲ信用スルコト正ニ斯ノ如ク厚  
 シ其營業ノ自ラ増大ニ赴クハ決シテ異數ニアラサルナリ  
 第二ハ英蘭銀行ハ近年ニ至ル迄ハ有限責任法ニ據レル唯一銀行タリシ事はナ  
 リ元來英國ノ習慣法ニハ有限責任ノ會社法ナシ故ニ皇帝ノ特典若クハ國會ノ



制定法ヲ以テスルニアラサレハ此特典ヲ得ルコト能ハス而シテ此二十年前頃  
 マテハ英蘭銀行ノ外ニハ此特典ヲ有スルモノナカリキ即チ人民ノ多數ハ以爲  
 ヘラシク有限責任ノ法タル之ヲ英蘭銀行ニ許スハ可ナリ然レトモ之ヲ諸他尋常  
 ノ銀行ニ許スヘカラスト是レ蓋シ世人カ英蘭銀行ヲ以テ特別ノ地位ニ置キ特  
 別ノ事業ヲ可認セルニ由ルモノニシテ此特典カ英蘭銀行ノ事務上ニ致シタル  
 所ノ力ハ決シテ少小ニアラサルナリ何トナレハ有限責任ノ制ニ據リテハ能ク  
 實着ナル紳商ヲ其取締役ニ引入ル、コトヲ得ルト雖モ若シ一大銀行ニテ其責  
 任無限ナラシメハ一朝不幸ニシテ銀行倒産スルニ於テハ取締役タル者ハ家産  
 ナ舉ケテ負債辨償ヲ爲サ、ルヘカラサルヲ以テ遠慮アル富豪者ハ恐クハ其取  
 締役タルヲ肯セサルヘケレハナリ

第三ハ英蘭銀行ハ殆ト百年間紙幣發行權ヲ專有セル唯獨合本會社タリシ事是  
 ナリ英國ニ於テ倫敦ノ私立銀行ハ第八世紀ノ中頃マテハ紙幣ヲ發行セント雖  
 モ合本銀行ハ之ヲ發行スルヲ得サリキ即チ彼ノ千七百四十二年ノ條例ノ說明  
 條ニ左ノ如キ説明アリ

英蘭銀行ニ附與セラレタル銀行業專掌權ニ關シ及同銀行カ此特權ヲ有スル  
 間ハ國會ハ他ニ特許ノ銀行ヲ設立スルコトヲ許サストノ定メニ關シ世人ノ  
 疑ヲ存セシコトヲ恐レ茲ニ條例ノ本旨ヲ開示スヘシ即チ本條例ノ本旨ハ國  
 會ハ英蘭内ニ於テ他ニ銀行會社ヲ設立スルコトヲ許サス又英蘭内ニ於テ如  
 何ナル會社組合ト雖モ六人以上ヨリ成ルモノハ要求次第仕拂フヘキ手形若  
 シハ紙幣及振出シ日附ヨリ六箇月以内ニ仕拂フヘキ手形若クハ紙幣ヲ以テ  
 貨幣ノ貸借授受ヲ爲スコトヲ禁スルニ在リ

右説明ニ據レハ當時所謂銀行業ハ專ラ紙幣ヲ發行スル事業及要求次第仕拂ノ  
 手形ヲ以テ貨幣ノ貸借授受ヲ爲スノ業ヲ云フニ過キサルコト知ルヘシ故ニ今  
 日ニ於ケルカ如ク紙幣又ハ約束手形ヲ發行スルコトヲ主務トセスシテ專ラ預  
 金ヲ以テ營業スル銀行ハ甚ク罕ニシテ縱令之アルモ其規模極テ微々タルモノ  
 ナリシナリ然リ而シテ此條例タル英蘭銀行ニ附與スルニ倫敦ニ於テ紙幣ヲ發  
 行スル專權ヲ以テシタルカ故ニ其營業頓ニ發達シ其勢力遂ニ諸他銀行ヲ壓倒  
 スルニ至レリ乃チ當時英蘭銀行ハ未ダ其支店ヲ地方ニ設置セサリシヲ以テ地



方銀行ニシテ紙幣ヲ發行セシモノハ依然其業ヲ維持スルヲ得タリト雖モ彼ノ倫敦府内ノ私立銀行ノ如キハ法律上紙幣ヲ發行シ得ルモノナルモ實際ニ於テハ英蘭銀行ト競争スルコト能ハスシテ自ラ其權力ヲ放棄スルニ至レルナリ斯ノ如ク英蘭銀行カ爾來久シク紙幣發行ノ實權ヲ獨占スルヤ人民ハ遂ニ紙幣發行權ヲ以テ法律上英蘭銀行ノ專有スル所ナリト認信スルニ至レリ

加之右條例ノ効果ハ尙ホ一層同銀行ノ事務ヲ進張スルヲ得シメタリ元來同條例中ニ所謂銀行營業ハ唯手形紙幣ノ發行ニ止マリタルモノナリシニ時日ナ經ルノ間ニハ遂ニ今日所謂銀行營業即チ預金營業ヲモ實際之チ英蘭銀行ノ專有ノモノト考ラルニ及ヘリ是ヲ以テ彼ノ合本銀行ノ初メテ地方ニ設立スルヲ許サレタルヲ見ルヤ世人疑ヒテ以爲ヘラシク英蘭銀行ノ外他ノ銀行會社ヲ設立スルハ法律ノ許サハル所ニアラスヤト研究ノ上始メテ彼ノ千七百四十二年ノ條例ノ所謂銀行營業トハ唯手形紙幣ノ發行ヲ指シ他ノ銀行業務即チ預金營業貸借取引ノ如キハ同條例ノ禁スル限ニアラサルコトヲ認知シタリ是ニ於テヤ千八百三十四年ヲ以テ「ロンドン・エンド・ウエスト・ミノスター」銀行設立セラレテヨ

リ之ニ倣ヒテ數多ノ合本銀行起リ遂ニ今日ノ有様ヲ致セリ然リト雖モ此等合本銀行設立ノ前ニ於テハ英蘭銀行ハ嘗ニ紙幣發行權ヲ獨占スルモノタルノミナラス亦實ニ倫敦ノ會社中預金營業ヲ爲スノ專權ヲ有スルモノタリキ

英蘭銀行ハ此等ノ特典ニ賴リ能ク諸他ノ競争者ニ打勝チ遂ニ倫敦市場ニ全權ヲ占得ルニ至リタリ是ヲ以テ今日ニ於テハ前章ニ陳ヘタルカ如ク英蘭銀行ハ嘗ニ英蘭ノミナラス聯合王國ノ銀行業ノ中央政府タル有様ト成リ其金融市場ニ於ケル勢力ハ實ニ盛大ヲ極メタリ今ギルバート氏ノ銀行論ニ據リ英蘭銀行ノ資本額ノ増減ヲ擧クレハ左ノ如シ

千六百九十四年即チ創設ノ時ニ於テハ百二十萬磅ナリシカ千六百九十七年ニ於テ新株百萬一千七百七十一磅十志ヲ増加セシヲ以テ二百二十萬一千七百七十一磅十志ト成レリ然ルニ千七百七十七年ヲ以テ彼ノ千六百九十七年ニ募集セシ百萬一千七百七十一磅十志ヲ還償セシカ故ニ元ノ百二十萬磅ニ減シタリ

千七百九九年更ニ三百八十五萬八千五百四十七磅一志九片ヲ募集シタルカ故ニ其資本總額五百五萬八千五百四十七磅一志九片ト成レリ是レ蓋シ英蘭銀行カ



九十六年ニ於テ四十萬磅ヲ無利息ニテ政府ニ貸付ケ且ツ當時同行カ所有セシ  
 百五十萬磅ノ大藏省證券ヲ償却セシコトヲ約シタルニ因由スルモノナリ  
 千七百十年更ニ五十萬一千四百四十八磅十二志十一片ヲ増募シテ銀行資本總  
 額五百五十五萬九千九百九十五磅十四志八片ニ増加シ同二十二年ヲ以テ更ニ  
 三百四十萬磅ヲ増募シテ總額八百九十五萬九千九百九十五磅十四志八片ニ上  
 レリ

千七百四十二年無利息ニテ百六十萬磅ヲ政府ニ貸付クル事ト爲シ之カ爲メニ  
 株主中ヨリ更ニ八十四萬磅五志四片ヲ募集シタルヲ以テ資本總額ハ九百八十  
 萬磅ニ達セリ又千七百八十二年更ニ八十六萬二千四百磅ヲ増募シテ資本總額一  
 千六百四十四萬二千四百磅ト成レリ

千八百十八年株主ニ配賦スル利益金ヲ株金ニ繰込ムコトノ特許ヲ得テ其資本  
 總額一千四百五十五萬三千磅ニ上レリ是レ即チ現今ノ資本總額トス

今英蘭銀行ノ紙幣發行權ノ増進ノ有様ヲ略序センニ千八百四十四年ノ條例ヲ  
 以テ英蘭銀行ヲ銀行部ト紙幣發行部トノ兩部ニ分ツヤ公債抵當ニ對シ發行

得ヘキ紙幣高ヲ一千四百萬磅(其外倫敦私立銀行並ニ地方合本銀行ニ許可シタ  
 ル發行高八百萬磅アリ)トシ其餘ハ盡ク正貨準備ヲ要スル事ト爲セリ此條例出  
 テ、後地方銀行ノ倒産セルモノ多ク千八百五十五年ニ至リテハ此等銀行ノ倒  
 産セルカ爲メ發行セサル事トナリタル紙幣高七十一萬磅ニ達シ世間隨分紙幣  
 ノ缺乏ヲ感スルニ及ヒタルヲ以テ政府ハ英蘭銀行ヲシテ四十七萬五千磅ノ紙  
 幣ヲ發行セシメタリ然ルニ千八百五十五年ヨリ千八百六十一年ニ至ル間ニ於  
 テ更ニ二十六萬二千五百磅ノ空缺ヲ生シタルカ故ニ政府又英蘭銀行ニ令シテ  
 十七萬五千磅ノ紙幣ヲ發行セシメタリ是ニ於テヤ銀行紙幣ノ發行總額ハ都合  
 一千四百六十五萬磅ト成レリ其後五箇年ヲ經テ千八百六十六年ニ至リ更ニ七  
 十三萬九千九百六十五磅ノ缺額ヲ生シタルヲ以テ政府ハ英蘭銀行ヲシテ更ニ  
 三十五萬磅ヲ發行セシメ都合一千五百萬磅ト成レリ元來千八百四十四年ノ條  
 例ニ據レハ流通紙幣ノ缺乏額ノ三分ノ二ヲ發行シ得ルモノナレハ今回ノ缺乏  
 額七十三萬九千九百六十五磅ノ三分ノ二即チ四十九萬三千三百十磅ヲ發行ス  
 ヘキニ新發行額ヲ三十五萬磅ト爲セシハ是レ別ニ理由アルニアラスシテ單ニ



其總額ヲシテ一千五百萬ト云フ都合好キ整數ナラシメンカ爲メナリキ而シテ此紙幣發行制限高ハ千八百八十一年マテ毫モ變動ナクシテ一定シ居リシカ同年四月ニ於テ英蘭銀行ハ前例ノ如ク地方銀行ノ棄權セル紙幣發行權ヲ收取シ更ニ七十五萬磅ノ増發ヲ得タルニ由リ現今ニ於ケル英蘭銀行カ發行シ得ヘキ總額ハ一千五百七十五萬磅トナレリ

又千七百八十年ヨリ千八百八十二年ニ至ル毎十年目ニ於ケル英蘭銀行ノ紙幣流通高預リ金高抵當額及地金有高ハ左ノ如シ(マルホール氏ノ統計字典ニ據ル)但シ百磅ヲ以テ單位トス

年 曆	紙幣流通高	預リ金高	抵當額	地金有高
一七八〇	八・四	四・七	一〇・九	三・六
一七九〇	一〇・〇	六・二	一〇・三	八・六
一八〇〇	一六・八	七・一	二二・四	六・一
一八一〇	二一・〇	一二・五	三五・四	三・五
一八二〇	二三・五	四・一	四六・二	四・九

五十六

五十七

一八三〇	二〇・二	一〇・八	二四・二	九・二
一八四〇	一六・五	六・六	二二・六	四・三
一八五〇	二〇・四	一八・四	二六・〇	一六・〇
一八六〇	二二・五	一八・八	二九・四	一四・〇
一八七〇	二四・五	二四・二	二九・五	二二・三
一八八〇	二七・一	三三・一	三四・八	二七・九
一八八二	二五・七	二八・八	三七・一	二〇・四

以上述へ來リタル所ヲ以テ畧英蘭銀行ノ來歴發達ノ大要ヲ示シタリト考フルヲ以テ余輩ハ今日ヨリ次章ニ移リ英蘭銀行ト政府トノ關係ヲ說叙シ以テ中央銀行ノ利害得失ヲ考究セントス



## 第五章 英蘭銀行ト政府トノ關係

一四六

銀行業ハ一般經濟ノ學理ヲ以テ之ヲ論スルトキハ則チ一ノ商業タリ己ニ一ノ商業タル以上ハ一般ノ場合ニ於テハ銀行業者チシテ自謀自營ノ法ニ據ラシメ政府之ニ干渉セサルヲ善トス然リト雖モ若シ政府ニシテ其出納チ一大銀行ニ委託スルニ於テハ政府ハ之ニ干渉セサルヲ得サルハ理ノ最モ親易キモノナリ夫レ一國政府カ其國ノ貨幣市場ト全ク關係チ有セサルヲ致スニハ政府自ラ其出納チ管理シ自ラ諸仕拂ニ應スル貨幣チ保藏セサルヘカラス而シテ政府ノ出納タル事柄多ク用途至廣ナルカ故ニ一私人ノ如ク諸勘定ノ整理法容易ナラス徵稅期節ニ定リアリテ一時ニ多額ノ收入アルモ平時ハ收入ナキチ常トス之ニ反シテ仕拂費用ハ一定ノ期チ定ムルコトヲ得スシテ時ニ巨額ノ豫定外ノ出費アルコトアリ故ニ政府カ其巨大ナル勘定チ自ラスルニハ實ニ非常ノ用心ト智巧トヲ以テセサルヘカラス是故ニ政府ハ其出納勘定チ一大銀行ニ委スルニ至ルモノナリ若シ一旦其出納チ銀行ニ委スルニ及ヒテヤ政府ハ該銀行ノ所業ニ

五十八

八十九

就キ干渉スルノ必要ヲ見ルニ至ル何トナレハ若シ斯ノ如キ銀行ニ倒産セシカ其害直ニ政府全般ノ財産ニ及ヒ大ナル困難チ生スヘケレハナリ人或ハ言ハシ縱令政府カ勘定チ委シタル銀行ニシテ破産スルモ政府ノ信用能ク大ナラハ必スヤ他ノ銀行カ代リテ政府ノ所用チ辨スルヲ得一シト是レ未ダ思ハサルノ言ノミ凡ソ銀行ノ破産スルハ商海波靜ニ信用堅固ナル日ニ起ラス其起ルヤ概チ金融塞迫シ信用既ニ墜壞セルノ秋ニ在ルモノナリ斯ノ如キ秋ニ際シテハ如何ニ政府ノ信用大ナルモ其平生取引スル銀行チ外ニシテハ決シテ十分ナル貨幣チ轉ルコト能ハサルナリ故ニ政府一度其公金チ銀行ニ預ケ入レタル以上ハ其勢放任主義ニ據リテ該銀行ノ安危ニ關心スルナカラント欲スルモ得ヘカラス若シ尋常一般ノ法則チ墨守シテ專ラ干渉チ避ケハ必スヤ時ニ不測ノ困厄ニ陥リ遂ニ銀行ト共ニ亡フルニ至ラソシ

夫レ銀行業ノ尙ホ未ダ發達セサル間ハ政府自ラ其所得金チ保有處理スルニ利アルヘシ不完全ナル銀行ニ其出納チ委スルカ如キハ實ニ危險ナルヲミナラス時ニ大ニ世ノ金融市場ニ困難チ醸生スルノ虞アリ斯ノ如キ時代ニ在リテハ財



政家ノ務ムヘキ所ハ能ク出入ノ途ヲ計リ時ニ支辨ニ苦ムカ如キナキヲ要スル  
 モノニシテ一層其力ムヘキハ成ルヘク出入ヲ過不足ナカラシメ以テ不用  
 ノ財帑ヲ埋藏セサルニ在リ夫レ然リト雖モ金庫時ニ多少ノ死金ヲ埋藏ス  
 ルアモ平常出入ノ平均高ニ超ユルコト多カラサルトキハ則チ僅ニ少許ノ利  
 子ヲ失フニ過キスシテ社會カ之カ爲メニ蒙ル所ノ損失ノ如キモ亦實ニ些少  
 ノミ之ヲ以テ彼ノ未熟不堅固ノ銀行ニ出納ヲ委任シテ以テ國家必須ノ財用ヲ  
 糜耗スルニ比スルハ其利害安危ノ度決シテ同日ノ談ニアラサルナリ是故ニ銀  
 行業ノ尙ホ幼稚ニシテ十分信ヲ置クヘキモノナキ間ハ政府自ラ其出納ヲ處理  
 スヘシ若シ不完全ナル銀行ニ巨大ナル政府ノ財帑ヲ委託スルカ如キコトアリ  
 テハ遂ニ非常ノ患害ヲ社會ニ致スコトアルヘキナリ慎マサルヘカラス  
 銀行業漸ク發達シ其組織漸ク完備スルノ日ニ至リテハ政府ハ之ニ公金取扱  
 委託スルモ可ナリ殊ニ財務整頓シ出入平均ノ法具リタルモノト雖モ時ニ或  
 許多ノ財帑ノ國庫ニ聚入スルコトアルヲ免レズ斯ノ如キ場合ニ於テ政府ハ巨  
 額ノ財帑ヲ死藏スルコトヲセシメテ之ヲ信用厚キ善良ナル銀行ニ預ケ入ル、

ニ若カサルナリ徒ニ其巨額ナル財帑ヲ金庫ニ埋没シ置クカ如キハ實ニ政府ノ  
 爲メニ相應ノ利子ヲ失フノミナラス世間資金ノ流通運轉ヲ妨テ商業ノ振張ヲ  
 害スヘキナリ而シテ政府カ公金ヲ銀行ニ委ヌルヤ或ハ一大銀行ヲ定限シテ之  
 ニ委託スルヲ得ヘシ若シハ數多善良ナル銀行ヲ選出シテ便宜之ニ其財帑ヲ預  
 ケ入ル、コトヲ得ヘシ請フ先ツハセオツト氏ノ説ヲ舉ゲ而シテ後余輩カ評論  
 ナ附セントスハセオツト氏曰ク

抑自然銀行法ノ行ハル、所ニ於テハ政府銀行共ニ大ナル便宜ヲ得ルモノナ  
 リトス凡ソ銀行ニシテ自家自用ノ準備金ヲ保藏スルモノハ其準備ノ多寡ハ  
 以テ其銀行ニ對スル世ノ信用ノ厚薄ヲ致スモノナルカ故ニ此等銀行ハ各自  
 專ラ其準備ノ豊多ナランコトヲ務ムヘシ苟モ其準備ニシテ十分ナラシメハ  
 政府此等ノ銀行ニ公金ヲ預クルモ危險ノ虞最モ少キヲ得ヘシ且ツ其中ニ就  
 キテ至安至全ノモノヲ撰擇スルコトヲ得テ獨リ常ニ一銀行ニ限ルノ窮屈ナ  
 ルコトナシ試ニ看ヨ彼ノ倫敦工作局ノ如キハ府民ヨリ收入スル金額甚タ多  
 クシテ今日ニ於テハ之ヲ「ロンドン・バンク・オブ・イングランド」銀行ニ預ケ入レ



而シテ同銀行ハ其預リ金ニ對シ公債證書ヲ該局ニ預ケ置クヲ以テ少シモ危  
 險ナルコトナクシテ以テ兩者ノ便ヲ濟スルモノナリ然ルニ大藏大臣ニ於テ  
 ハ其勘定ヤ必ス之ヲ英蘭銀行ニ委託セサルヲ得サルナリ若シ我カ中央政府  
 ト銀行トノ關係ヲシテ自然ノ發達ニ由リタルモノナラシメハ大藏大臣モ亦  
 彼ノ倫敦政府工作局ノ如ク銀行ヲ擇出シテ之ニ預ケ又能ク之ニ對シテ適宜抵  
 當ヲ取リ得ヘシ其金額巨多ニシテ之ヲ一銀行ニ預クルヲ危シトセハ便宜之  
 ヲ分割シテ數多銀行ニ預ケ入ルヘク若シ其預ケ金非常ニ増加スルニ至ラハ  
 更ニ抵當ヲ増納セシムル等皆其心ノ欲スル所ニ如クナルヘシ而シテ銀行ノ  
 方ニ於テモ夥多ノ預リ金ヲ受クルヲ以テ之カ運轉ニ依リテ多クノ利益ヲ得  
 ヘキニ由リ喜ヒテ政府ノ意ニ隨ヒ敢テ其命ヲ奉セサル者ナカルヘシ是レ豈  
 ニ政府銀行兩者ノ爲メ便宜ニシテ且ク安全ナル組織ナラスヤ  
 又政府カ金ヲ借リ入レシトスル時ニ於テモ自然法ニ據ルヲ得ハ甚ク便宜ナ  
 ルモノナリ夫レ政府ノ信用ハ他ノ集合體ニ比シテ甚ク堅厚ナルモノニシテ  
 就中英蘭政府ハ諸外國政府ヨリモ世人ニ對シテ遙ク優等ノ信用ヲ有スルモノ

ナリ是ヲ以テ若シ負債ヲ起サントセハ甚ク容易ニ何處ヨリモテモ之ヲ得ヘ  
 シト雖モ現制ニ據ルトキハ國會ノ特許ヲ得ルニアラサレハ公然貨幣市場ヨ  
 リ金ヲ借リ入ルコト能ハス唯豫算不足補充案ノ議定ニ據リテ英蘭銀行ヨ  
 リ之ヲ借ルコトヲ得ルノミ若シ夫レ自然發達ノ財政法ニ依ラシメハ政府ハ  
 相競争スル許多ノ銀行中ヨリ最モ低利ノモノヲ擇ミ之ニ就キテ金ヲ借リ入  
 ルヲ得ヘキモ我英國ノ如キハ右自然法ニ依テ偶一箇ノ銀行ニ非常ノ特  
 典ヲ與ヘ政府諸勘定ヲ一手ニ取扱フノ權ヲ與ヘタルヲ以テ政府カ金ヲ預ケ  
 入レルニモ亦之ヲ借ルニモ總テ英蘭銀行ニ依ラサルヲ得ス爲メニ其借用金  
 大利子ノ如キモ毎ニ同銀行ノ欲スルマニシテ政府之ヲ左右スルコト能ハ  
 セルノ實相アリ  
 又自然法ニ依ラハ金融壅塞シテ世ノ信用潰亂スル時ニ方リ政府ハ其勘定委  
 托銀行ヨリ其預ケ金ヲ引出スコト猶ホ彼ノ合衆國政府カ其銀行ニ於ケルカ  
 如クスルヲ得ヘキナリ勿論其商業社會カ恐慌等ノ爲メニ一時危險ヲ感スル  
 コト甚クシキ場合ニ於テハ政府或ハ其銀行ノ潰破セシコトヲ慙ミ政府ノ信



用ヲ假シテ以テ之ヲ救助スルコトアルヘケレトモ其危険已ニ去ルトキハ復  
 タ之ニ餘計ノ干涉ヲ爲サズ銀行ヲシテ各自其所爲ノ結果ヲ受ケシメ他ノ銀  
 行ノ失敗セル前轍ニ鑑ミテ以テ能ク自ラ戒慎シ專ラ確實ニ業ヲ執ル所ノ銀  
 行ヲ擇出シテ之ニ政府ノ勘定ヲ委託セハ更ニ不便ナル事情アラサルヘシ夫  
 レ商業社會ノ事タル之ヲ自然ニ任セテ干涉ヲ加ヘサルトキハ自然淘汰優勝  
 劣敗ノ理ニ由リテ劣悪ナルモノハ亡ヒ善良ナルモノハ榮ユヘシ是故ニ銀行  
 業ノ如キモ自然法ニ任セテ強テ干涉スル所ナクハ其惡シキ銀行ハ廢滅ニ歸  
 シ其善キモノハ勃興シテ以テ優者自ラ政府ノ勘定ヲ引受クルニ至ルヘシ政  
 府安ソ唯一銀行ノミニ倚賴シテ他ニ就シヘキモノナキヲ憂ヘシヤ其銀行ニ  
 シテ營業確實ナルヲ保スヘカヲサラン乎政府強テ之ニ信用ヲ置クヲ要セザ  
 ルナリ其營業能ク確實ナルモノアルヲ待テ之ヲ擇ミ之ニ信用ヲ置キテ以  
 テ政府ノ勘定ヲ委ヌヘキナリ斯ノ如クモシテ其取捨ノ權ハ政府ニ在リテ銀  
 行ニアラス銀行ニシテ確實ナルモノハ我之ヲ取リテ信用ヲ置キ其確實ナラ  
 サルモノハ我之ヲ捨テ、信用ヲ置カサルトキハ則チ我カ取捨ハ自ラ銀行ニ

對スル賞罰ト爲リ其劣惡ナルモノハ懲責ヲ待タスシテ自ラ退却シ善良ナル  
 モノハ褒賞ヲ要セスシテ自ラ進達スヘシ事情正ニ斯ノ如ク銀行法及財政法  
 ノ善良確實ナラサルヲ欲スト雖モ得ヘケンヤ  
 且ツ又組織ノ善良確實ナル銀行ハ外患内亂等ノ非常ノ凶變アルニアラサレ  
 ハ容易ニ破産スルモノニアラス蓋シ其銀行ニシテ各自十分ノ準備金ヲ保有  
 セサレハ以テ能ク世ノ信用ヲ引クコトヲ得ス若シ其準備金忽ニスルモノア  
 レハ遂ニ世人ノ棄斥スル所ト爲リテ亡滅ニ歸スルノ止ムヲ得サルヲ知ルヤ  
 皆相爭ヒテ成ルヘシ充分ノ準備金ヲ貯フルコトヲ努ムヘキナリ而シテ已ニ  
 此充分ノ準備アルモ若シ彼ノ恐慌ノ時ニ際シテ之ヲ死守シ敢テ其資財ノ豐  
 厚ナルヲ示サ、レハ以テ世ノ暗疑ヲ招キ爲メニ平生ノ用意ヲ空泡ニ歸セシ  
 ヲヘキヲ覺ルヤ此等銀行ハ必ス相競ヒテ世ノ要求ニ應ジ宏然トシテ貨幣ヲ  
 貸シ出シテ以テ金融ヲ利スヘシ金融ニシテ能ク通暢ノ運ニ向ハ、恐慌ノ如  
 キモ速ニ鎮靜スルヲ得ヘキノミ是ニ由リテ之ヲ觀レハ政府ト銀行トノ關係  
 ノ能ク自然法ニ依リテ成立セル所ニ於テ兩者ノ安全且ツ便利ナル勝ヲ言フ



ヘカヲサカルモノアリ  
 今觀我カ英國ノ組織ヲ看レハ全ク右ニ相反スル事實ヲ存スルヲ見テ  
 何モ即チ政府ハ其貨幣市場ノ自ラ完全固定スルヲ待テ之ニ其出納ヲ委  
 托スルノ餘力ナク銀行業ノ信憑未ダ巩固シラサキ時ニ於テ早ク已ニ之ニ干  
 與シ負債ヲ起スノ便宜ヲ欲シテ一銀行會社ニ非常ノ特典ヲ附與シ以テ其巨  
 大ナル勘定ヲ委託シ同銀行ヲシテ其由リニ生スル所ノ利益ヲ獨占スルヲ得  
 シメタリ是故ニ政府ト同銀行ノ關係ハ自ラ常ニ安危ヲ與ニシ與廣チ同クス  
 ルノ實チ生シタリ即チ政府ノ信用ニ依ラサレハ銀行安全ヲ得ス銀行危クレ  
 ハ政府亦獨リ安キコトヲ得サルノ事情アルヲ以テ政府ハ貨幣市場ヲシテ全  
 ク其自爲ニ任セシムルコト能ハスシテ自ラ之ニ干涉スルノ必要ヲ感セリ  
 情勢正ニ斯ク如キヲ以テ縱令純乎タル理論家ノ如キハ或ハ英國銀行ヲ廢ス  
 ハキ旨ヲ主張スル者アルニモ拘ラズ英國ノ政治家ニシテ之カ廢止ヲ欲シタ  
 ル者ハ未ダ曾テ之アラサルナリ是レ蓋シ經濟學家於テ之カ善良ナルヲ認ムルニ  
 アラサルモ實際ニ於テ然ラサルヲ得サルカ爲メナリ即チ彼ノ千八百二十五

年ニ於テ英國銀行ノ金庫殆ト空ク準備ノ餘蓄ヲ遺棄スル事ノ如ク  
 又千八百三十八年ニ於テ佛蘭西銀行ノ扶助ヲ得テ僅ニ其倒産ヲ免レタルカ  
 如キ皆是レ英國銀行制度ノ不完全ナルヲ示スノ例ナリト雖モ當路者ニ於テ  
 ハ敢テ之カ爲メニ英國銀行制度ノ基礎ヲ非難スルコトハ至ラザリキ夫レ然リ  
 然リト雖モ今余カ見ル所ヲ以テスレハ我カ此制度ヲル政府ヲシテ必スモ常  
 ニ唯一銀行ニ其勘定ヲ委テサルヲ得スシテ復テ他ニ善良ナルモノヲ擇ムコ  
 ト能ハサランムルモノニシテ其弊害甚ク多シ而シテ其著大ナルモノヲ舉グ  
 レハ即チ左ノ如ク

- 第一 英國銀行ハ初メ政府ノ補助ニ依リ成立セルモノナルカ故ニ其政府ノ  
 補助ヲ要スル事自然法ニ由リテ發達セルモノニ比スレハ毎ニ多シ
- 第二 全國ノ準備金ヲ舉ケテ之ニ一銀行ニ湊合スルカ故ニ貨幣市場ニハ現  
 金ヲ保蓄スルコト甚ク僅少ニシテ隨テ危險ノ度大ナリ負債額多クシテ準  
 備額少ケレハ一度其準備管理法ニ於テ宜シキヲ失フトキハ其害ノ及フ所  
 甚ク且ツ大ナリ



第三、準備ヲ銀行ニ委ヌル組織ノ下ニ在リテハ此唯一準備ノ管理ハ專ラ同銀行ノ取締役員數名ノ手裡ニ在リ該準備ノ安危ハ全ク右役員ノ措置如何ニ賴リテ定マルカ故ニ彼ノ自然法ニ於ケルカ如ク競争者ノ間ニ於テ智愚巧拙相平均シテ全體ニ甚キ危害ヲ致サ、ヲシムルノ利ナシ

第四、此英蘭銀行ノ取締役ト雖モ亦尋常銀行ノ取締役ト同シタ其株主ヨリ利益配當ノ多キヲ要求セラル、カ故ニ公衆カ成ルヘク多額ノ準備ヲ有スルヲ欲スルニモ拘ハラス動モスレハ過分ノ貸出ヲ爲シ庫中爲メニ餘金少キヲ致スノ傾向アリ

右四弊害ハ實ニ英蘭銀行組織ニ附着シテ離レハカラサルモノナリ然ルニ此外ニ偶生附加ノ弊害アリ何ソヤ他ナシ英國政府ハ昔ニ此奇異ナル制度ヲ設ケタルノミナラス亦時ニ特命ヲ發シテ之カ精神ヲ腐朽セシメ之ニ關スル輿論ヲ鈍頭ナラシメ、抑英蘭銀行ハ其創立以來殆ト百年間ハ間微過アリ、雖モ概シテ之ヲ言フトモ、謹慎以テ事ヲ處シ正明能ク業ヲ執リタルヲ以テ營業未ダ盛衰カヲ覺ルモ失當過誤ヲ措置セキヲ得タ、彼ノ千六百九十六

年ニ於テ非常シ困難ニ遭遇シ已メテ得ズ、一時發行紙幣ヲ兌換ヲ謝絶セシコトアリヤ、世人再ヒ此不幸ニ陥ラシコトヲ恐レ毎ニ英蘭銀行ノ處置ヲ觀察シ輿論能ク之ヲ刺銜セシヲ以テ銀行モ亦專ク謹慎ヲ旨トシ世ノ信用ヲ失ハサラシコトヲ是レ勉メタリ然ルニ千七百九十七年ニ至リヒ、ト氏當時英蘭銀行ノ準備金ノ少クモテ爲メニ外國ニ仕拂フベキ貨幣ノ不足センコトヲ恐レ同銀行ニ命シテ正貨支拂ヲ中止セシム、是レ實ニ銀行ノ兌換義務ニ對スル戒心ヲ除却スルモノニシテ營業上保全ノ具ヲ捨テタルナリ是ヨリ後千八百十九年マテ銀行ハ其紙幣ヲ兌換セズ世人此時期ヲ稱シテ銀行束制ノ時期ト云フ今漫然銀行カ兌換義務ヲ有セス自由ニ紙幣ヲ發行スルヲ得ヘキノ點ヨリシテ之ヲ見レハ此時期ヲ稱シテ放縱時期ト爲ス方適當ナルカ如クナレトモ退キテ之ヲ考フレハ之ヲ稱シテ束制時期ト爲ス方却テ能ク適當セラルモノアルコトヲ知ル如何トナレハ當時政府カ銀行ニ令スル所ハ正貨兌換ヲ要セスト云フコトアラシテ正ニ是レ兌換ヲ禁シタルモノナレハナリ

斯ノ如クシテ千七百九十七年ヨリ千八百四十四年ニ至ルマテ銀行ハ右特



與ノ下ニアリテ自ラ謹慎事ヲ執ルノ要ヲ見テ即チ諸他銀行ノ如ク自戒自保  
 以テ其準備ヲ饒ニ兌換ノ義務ヲ缺カセラズコトヲ務ムルニ及ハス自家ノ  
 欲スル所ニ任シテ營業スルヲ得ヨリ是レ政府ト云フ後橋アリ若シ困難ヲ感  
 セシ政府來リテ之ヲ救助セシコトヲ確知スレハナリ亦公衆ニ於テモ亦毎ニ  
 望テ政府ニ屬シ細ニ銀行準備ノ景況ヲ觀察シテ之ヲ刺衝スルコトヲ爲サス  
 即チ彼ノ千八百四十七年同五十七年及同六十六年ニ於テ千八百四十四年ノ  
 條例ヲ中止スルヤ皆人民ヲシテ政府力毎ニ銀行ヲ救助スルアルヲ確認セシ  
 ヲカリ  
 是レ由リテ之ヲ觀レハ我方大藏大臣ハ莫大ナル金額ヲ貨幣市場ニ委託シ却  
 シ之ヲ腐敗セシメタルモノナリ故ニ我方大藏大臣ハ常ニ意ヲ貨幣市場ニ注  
 シ周密ニ其景況ヲ察シテ之ヲ救正スルノ責ヲ免レズ然リ而シテ大藏大臣ハ  
 貨幣市場ニ對シ能ク其責任ヲ盡スヲ得ルト否トハ其能ク輿論ノ向背ヲ察シ  
 英國銀行ヲシテ金融整理ノ職ヲ完カラザルコトヲ得ルト否トハ由ルモノ  
 カリ夫レ自然發達ノ銀行法ニ依レバ銀行自家ノ計自然ト能ク金融市場ヲ整

有

理スルニ足ルモ我ガ現法ニテハ全ク銀行自計ニ依頼スルヲ得ス輿論ノ刺衝  
 ヲ待テテ始メテ之ヲ能クスルモノナリ此輿論ヲ代表シ金融整理ノ責ヲ有ス  
 ル者ハ唯實ニ大藏大臣ナリ其責重ク其務難シト謂フヘシ  
 右長文ヲ茲ニ拔萃シテ讀者諸君ヨシ示ス所以ハ是レ實ニハセオクト氏ガ所論ノ  
 精神ヲ察見セシメシカ爲メナリ夫レハセオクト氏ハ財政家ヲ以テ英國ニ鳴ル  
 者ナリ其著金融事情ハ其所論ノ正確ヲ以テ世ニ有名ナルモノナリ余輩ハ得テ  
 是非スヘキ所ニアラサルナリ然リト雖モ余輩靜ニ其所論ヲ考察スルニ稍舊學  
 派ヲ奉スル所ノ放任自正ノ主義ニ偏シ尙ホ未ダ獨斷學派ノ臭氣ヲ脱セサル者  
 アルカ如シ請フ敢テ試ニ之ヲ論セシ  
 抑シセオクト氏所論ノ眼目精神ハ放任自正ノ主義ニ依リ銀行ヲシテ自計自治  
 ノ法ニ據ラシムルヲ可トシ政府ノ干涉ヲ擯斥スルモノナリ勿論同氏ハ現行ノ  
 英國銀行ノ事務組織ノ改ムヘカヲサカサ知リ且シ現組織ヲ保維スル限リハ政  
 府ノ干涉ノ必要ナシト是認スル者ナリト雖モ氏ハ喜ヒテ之ヲ説ク者ニアラス  
 シテ止ムヲ得スシテ之ヲ言フハ過キ又是レ余輩ト大ニ其見ル所ヲ異ナスル所



以テ夫レ放任自正ノ主義タル事物ノ性質ニ依リ時ト所トニ由リテ實ニ完全無缺ノ事ナリ然レトモ金融事業ノ如キ單ニ一個人ノ利害ニ關スルノミナラズ廣ク國家全般ニ得失ト親密ナル關係ヲ有スルモノニ於テハ專ラ此主義ニ依ルヲ得サルナリ

ハセオツト氏ハ自然發暢ノ法行ハル、所ニ於テハ銀行ハ政府ノ補助ヲ受ケスシテ自ラ營業ノ利ヲ計リ世ヲ信用ヲ厚クセンカ爲メ常ニ其準備ヲ多ク貯ヘ以テ危險ニ備フヘキカ故ニ政府ハ其中ニ就キ特ニ最良ナルモノヲ撰リテ之ニ其勘定ヲ委託スルヲ得テ銀行ノ爲メモ亦政府ノ爲メモ甚ク都合好キモノナリト論セリ抑此論旨タル漫然之ヲ見レハ毫モ非議スヘキ所ナキカ如キモ退キテ其情況ヲ察スレハ大ニ不安心ナル點アリ夫レ尋常ノ銀行ハ他ノ合本會社ト同シク皆自家ノ營利ニ汲々タルモノナリ既ニ自家ノ營利ニ汲々タル以上ハ其國家公共ノ利益ヲ謀ルニ疎ナラサルヲ得テ今尋常銀行ノ營業狀況ヲ實見スルニ十分準備金ヲ貯藏スル下キハ運轉資金ノ擴張ヲ減シテ爲メ好シキ營業利益ヲ得ル能ハス隨テ株主及諸花主ノ歡心ヲ買ラント能ハサルカ故ニ自ラ準備

金額ヲ減少シ運轉資金額ヲ増加セシムルハ傾向否ナ實況ヲ生セサルヲ得ザルナリハセオツト氏ハ政府ノ金ヲ預リテ銀行ハ自家信用ノ厚カラズテ欲シ常ニ多分ノ準備金ヲ保藏スヘシト説キタレトモ余輩ハ其必スルモ然ルヘキヤ否ヤヲ疑フ者ナリ如何トナレハ既ニ政府ノ預リ金ヲ爲メカ故ニ該銀行ハ自然ト世人ヨリ信用ヲ受クルコト厚ク隨テ預リ金ノ高モ増加スヘシ然ルハ該銀行ハ官民ノ信用ヲ得テ自ラ其位置ノ堅固ナルヲ認メ且ツ手許ニ夥多ノ保藏ヲ有スルヤ最初ハ鄭重ニ之ヲ保管シ假令之ヲ運轉セハ利益ヲ收ムルヲ得ヘキ目的アル場合ニ於テモ能ク謹ミ能ク慮リテ之ヲ貸出スコトヲ避クヘシト雖モ日月ヲ經ルニ從ヒ自ラ其信用ノ堅キニ安シ不知不識ノ間ニ自正自保ノ遠慮漸ク薄ラキ目前ノ利ニ迷フノ事生出シ始メテ不用意ニ後ハ故意ニ其準備金ヲ過度ニ運轉シテ利益ヲ收ムルコトニノミ汲々タルニ至ルヘシ豈ニ危カラスヤ而シテ此ノ如キ事況ハ營利ヲ旨トスル私立尋常ノ銀行ニ於テ屢見ル所ニシテ元ト理ニ於テハ決シテ許大ニカササルモノナルモ實際ニ於テハ營利ヲ旨トスル業務上勢自ラ此弊ニ陷ル易キヲ如何セン論者或ハ言ハシ銀行カ自ラ其信用ノ厚キ



準備金を減少スルニ至ルハ一定ノ政府關係ノ銀行ニ於テモ同  
 一ノ情況アルヘシト是レ蓋シ未ダ深ク思ハサルノ言ノミ夫レ一中央銀行ヲ  
 設ケ政府一切ノ勘定ヲ取扱ハシムルニ於テハ其業務自ラ純然タル營利的ナル  
 能ハスシテ深ク國家ノ利害ヲ察シ廣ク公衆ノ利益ヲ謀ラサルヘカラス其業務  
 ニシテ既ニ純然タル營利的ナラス國家一般ニ對シ尋常銀行ニ比シテ大ナル義  
 務ヲ有スル以上ハ理ニ於テモ又實ニ於テモ一層緻密ナル注意ヲ施シ以テ其準  
 備金ヲ保藏セサルヘカラス事情正ニ斯ノ如シ政府ノ勘定ヲ委託スルニ其兩者  
 ニ對シ安否ノ差果シテ如何シヤ余輩ハ飽迄モ尋常銀行ニ於テ準備過減ノ弊  
 アルヲ恐ル、モノナリ

論者又言ハシ若シ委託シタル銀行ニシテ危險ナリト思フコトアラハ早速其預  
 金ヲ引出シ更ニ他ノ堅固ト認ムル銀行ニ之ヲ移スニ於テ何ノ不可カ之アラ  
 シト是レ固ヨリ一理ナキニアラサルナリ然リト雖モ善ク思ヘハ決シテ肯認ス  
 ルヲ得サルモノナリ夫レ政府勘定ノ如キ大ナル勘定ナリ一旦委託セバ所ヨリ引  
 出シテ更ニ之ヲ他處ニ移スガ如キハ之ヲ言フニハ易キモ之ヲ行フニハ甚ク難

キモノニシテ政府ニ於テ帳簿ノ書換計算ノ取纏等種々ノ手數ヲ要スルノミナ  
 ラス委託ヲ解カレタル銀行ニ取リテハ其迷惑困難實ニ非常ナルヘシ其故ハ該  
 銀行ハ既ニ信用ノ傾ケル時ニ臨ミ政府ノ勘定引受ヲ止メラレテ益世間ニ對シ  
 信用ヲ失シ政府ニ對シテハ勘定ヲ濟サ、ルヲ得サルト同時ニ私民ヨリハ取付  
 ナ蒙リ進退維レ谷マリテ破産スルニ至ルモノアルヘシ政府委託ノ一大銀行ニ  
 シテ破産スルニ至ラハ其影響延キテ他ノ銀行ニ及ホシ其極途ニ市場一般ノ金  
 融ヲ傷害スルニ至ルヘキヤモ測リ知ルヘカラサルナリ之ヲ要スルニ政府會計  
 ノ如キ一大會計ハ容易ニ移轉スルコト能ハサルモノニシテ其變動ヨリ生スル  
 弊害ハ決シテ甚小ニアラサルナリ豈ニ思ハサルヘケンヤ豈ニ慎マサルヘケン  
 ヤ

論者或ハ言ハシ若シ善良ナル銀行數箇所ヲ撰ミテ之ニ委託セハ可ナラント是  
 レ亦當ヲ得タル言ニアラサルナリ凡ソ事物ヲ委託センニハ詳ニ其委託ヲ爲ス  
 ヘキモノノ性質ヲ知ルヲ要スルノミナラス委託セラル、者ニ於テモ亦其委託  
 事件ニ對シ專心以テ能ク其義務ヲ盡スノ用意ヲカスヘカラス今若シ政府カ其



國庫金ヲ銀行ニ委託スルニ方キ數銀行ヲシテ之ヲ保管セシメントスルトキハ十分能ク其各銀行ノ性質ヲ知悉シ常ニ彼此ノ狀況ヲ詳察セサルヘカラス而シテ之カ委託ヲ受クル所ノ銀行ニシテ皆能ク政府ノ意ヲ奉體シ終始倫ルコトナクシテ其責任ノ在ル所ヲ固守セハ幸ニシテ危險ナルコトナカルヘシト雖モ數銀行ヲシテ悉ク其執ルヘキ所ヲ守ラシムルハ營業ノ性質上必ス之ヲ期スルヲ得サルナリ或ハ始メノ程ハ專ラ謹慎ヲ旨トシ射利ノ念ヲ抑制シ以テ政府ニ對シ又國家ニ對シ其義務ヲ重シスヘキモ年月ヲ經ルノ間ニ此等銀行中利ニ迷ヒ事ヲ愆ルモノナキヲ保セス果シテ然ラハ政府ニ於テ數箇銀行ノ平素ノ業務ヲ監督シ一々其狀況ニ通ゼサルヘカラス其勢其煩決シテ少小ニアラサルナリ而シテ政府ニ於テ十分ノ注意ヲ施シ以テ監督ヲ嚴重ニ爲サントスル銀行數多アルカ爲メニ或ハ時ニ其事行届カス其國庫金ヲシテ危險ナル位置ニ陥ラシムルコトナキヲ期スヘカラス夫レ國庫金ハ其性質決シテ一箇人ノ私產資金ト同一視スヘキモノニアラサルナリ之ヲ監理シ之ヲ處分スルノ任ニ在ル者豈ニ尋常ノ注意普通ノ配慮ノミチ以テシテ可ナランヤ

以上ハ國庫金預ケ入ノ利害ニ關シテ畧論シタルマテナリ請フ是ヨリ政府カ必要アルニ際シ金員ヲ引出シ若クハ借入ル、時々得失ニ就キテ少シク論スル所ニアラントス

ハセオフト氏曰ク政府カ金ヲ借り入レントスル時ニ於テモ自然法ニ據ルヲ得ハ甚ク便宜ナルモノナリ夫レ政府ノ信用ハ他ノ集合體ニ比シテ甚ク堅厚ナルモノニシテ就中英國政府ハ諸外國政府ヨリモ世人ニ對シ遙ニ優等ナル信用ヲ有スルモノナリ是ヲ以テ若シ自然發達ノ財政法ニ依ラシメハ政府ハ相競争スル許多ノ銀行中ヨリ最モ低利ノモノヲ撰ミ之ニ就キテ金ヲ借り入ル、ヲ得ヘシ云々ト是レ實ニ然ラン然リト雖モ余輩ヲ以テ之ヲ見レハ氏ハ一ヲ知リテ未ダ其二ヲ知ラサル者ナリ成程ハセオフト氏ノ言ヘルカ如ク政府ノ信用ハ他ノ集合體ニ比シテ甚ク堅厚ナルモノナレハ政府ハ許多銀行ノ競争スル中ヨリ最モ低利ノモノヲ撰ミテ之ヨリ金ヲ借入ル、ヲ得ヘキハ固ヨリナリト雖モ余輩ハ利子ノ低廉ナルノ一利ノミチ以テ此方法ヲ主張スルヲ得サルナリ而シテ況ヤ市場金融ニ都合ニ由リテ未ダ必スシモ利子ノ低廉ナルヲ期スヘカラサルモ



ノナオチヤ抑政府カ金ヲ要スルノ場合ハ固ヨリ種々ニシテ豫メ定置スルヲ得  
 カルヘシト雖モ今大體上ヨリシテ重ナル場合ヲ言ヘハ通常國家ノ名譽安危等  
 ノ重大事件ニ關シテ急需アルノ場合ニアラサレハ成果効驗ヲ數年若シハ數十  
 年ノ後ニ期スル所ノ永久公益ノ事業ニ要スルノ場合ナリトス其永久公益ノ事  
 業ニ要スル資金ノ如キハ悠々市場ノ緩急ニ應シ低利供出ノ銀行ニ就キテ之ヲ  
 借入ル、モ或ハ妨ナカルヘシト雖モ彼ノ國家ノ大事ニ關スル急需金員ノ如キ  
 ハ決シテ斯ノ如キ手段ヲ以テ之ヲ借入ル、ヲ得サルナリ加フルニ政府カ要ス  
 ヘキ所ノ金額ハ巨大ナル高ナルヲ常トスルカ故ニ尋常銀行ノ資力ノ能ク之ニ  
 應スルヲ得ヘキニアラサルナリ假令數多銀行ガ聯合セハ政府所要ノ金額ヲ供  
 用スルヲ得ルトスルモ尋常營業ノ銀行ハ政府ニ對シ特別ノ義務アラサルカ故  
 ニ政府ノ信用如何ニ厚キモ此等銀行ハ其營利上不利ト見ルトキハ必ス之ニ  
 應セサルヘシ即チ此等尋常營業ノ銀行カ能ク巨大ノ金額ヲ政府ニ貸スコトヲ  
 爲スハ市場ノ金融緩慢ニシテ政府カ申出セル利子ノ民間營業利子ヨリモ割合  
 好キカ若クハ之ニ相應スルカ(政府信用ノ厚キニ由リ利子相應ナラハ或ハ之ニ

應スヘシ)ニアラサレハ何ノ望アリテカ故ラニ奔走聯合ノ勞ヲ執リテ政府ノ借  
 入ニ應スルコトヲ是レ爲サンヤ余輩ヲ以テ之ヲ見レハ政府ノ需要ニシテ若シ  
 緊急ナラハ民間尋常ノ銀行ハ必ス之ヲ彼ノ需要供給ノ原則ニ從ヒ時ニ割合ニ高  
 貴ナル利子ヲ請求スルナキヲ保セス果シテ斯ノ如キ場合ニ於テ政府ハ如何ナ  
 ル方法ニ由リテ低利ノ金ヲ借入ル、コトヲ得ヘキヤ此等銀行ノ眼中ニハ必ス  
 利ト云フ一主物アルヲ期スヘキモ政府ニ對シ國家ニ對スルナト、云フカ如キ  
 義俠愛國心ノ存在ヲ必スヘカラス今一步ヲ讓リ尋常營業銀行ニシテ能ク政府  
 國家ニ對スル義俠愛國心アラシメ割合ニ低利ヲ以テ政府ノ所要ヲ濟充スルア  
 リトスルモ余輩ハ斯ノ如ク數多尋常銀行ヨリ一時ニ巨額ノ金員ヲ吸收シ去ル  
 ノ甚タ得策ナラサルヲ信スル者ナリ否ナ其甚タ危險ナルヲ恐ル、者ナリ何ト  
 ナレハ尋常銀行ノ金ハ平素金融市場ニ入り商業社會ニ流通スルモノナルヲ以  
 テ若シ一時ニ巨額ノ金ヲ政府ニ貸スアラシメハ急ニ商業社會ノ流通額ヲ減縮  
 シ爲メニ金融市場ニ激變ヲ生スヘシ加フルニ斯ノ如キ貸借ノ政府ト人民トノ  
 間ニ起ラサル時ト雖モ凡ソ國家ニ事アリ若クハ政府ニ急需アルノ時ニ方リテ



ハ金融市場自ら逼迫シ商業爲メニ大ナル影響ヲ蒙ルノ傾向アルモノナルコ  
 此時期ニ際シテ巨額ノ金員ヲ急ニ尋常ノ市場ヨリ吸去スルアラハ之カ爲メニ  
 金融市場ニ一層逼迫ノ度ヲ強カラシムルヤ必セリ是レ豈ニ策ノ得タルモノナ  
 ランヤ金融市場ニ及ホス所ノ危険豈ニ少小ニ止マランヤ  
 之ニ反シテ若シ政府ト平生特別ノ取引アリ随テ特別ノ義務アル一大中央銀行  
 ヨリ借入レナハ其資力ノ大ナルト其取引ノ廣キトニ依リ非常ニ市場ヲ攪擾ス  
 ルコトナクシテ随分巨大ナル金額ヲ取出スヲ得ヘシ且ツ該銀行ハ政府ニ對シ  
 又國家ニ對シ尋常營利ノ銀行ニ比シテ特殊ナル義務ヲ盡スノ任ヲ認メ居ラサ  
 ルヘカラサレハ斯ノ如ク政府カ國家ノ大事ノ爲メニ急需アルノ場合ニ於テハ  
 理ニ於テ尋常市場ノ金利ヨリモ過分ノ割合ヲ請求スヘカラサルモノニシテ實  
 際ニ於テモ亦決シテ其然ラサルコトヲ保スヘキナリ又彼ノ永久公益ノ爲メニ  
 要スル資金ノ如キ政府カ直接ニ箇々民間尋常ノ銀行ニ就キテ之ヲ需ムルヨリ  
 ハ寧ロ政府銀行ノ手ニ委シテ募集セシムル方政府ニ取リテ便利ナルヘキハ是  
 亦余輩ノ深ク信マテ疑ハサル所ナリ其他小額ノ臨時所要アルコト方リテ箇々

銀行中ヨリシテ低利ノモノヲ撰ミテ借入ル、カ如キハ之ヲ爲シテ爲シ得ヘカ  
 ラサルモノナラサントモ一大政府カ小額ノ臨時所要金ヲ借入ル、ニ際シテ彼  
 是借口ヲ撰ミ求ムルカ如キハ其煩勞大ナルノ割合ニ比シテ其益甚ク小ナルモ  
 ノナルノミナラズ一國政府ノ品位ニモ大ナル關係アルモノナリ豈ニ思ハサル  
 ヘケンヤ  
 又政府カ其預ケ金ヲ引出スノ場合ニ於テモ余輩ハ政府ト特別ノ關係アル一大  
 中央銀行ニ由ルヲ以テ大ニ便利ナルモノト信ス夫レ政府ノ支出ハ其收入ニ比  
 シテ不定期ナルモノニシテ時々仕拂ヲ爲スノ必要アルモノナリ是ヲ以テ若シ  
 尋常營業ノ銀行ニ預ケ金ヲ爲シ置キ其必要アル毎ニ之ヲ引出サントスルニ其  
 預ケ金ニシテ數箇ノ銀行ニ分在セシメンカ政府ハ其時ハ必要金額ノ多少ト其  
 彼處此處ニ分在セル預ケ金高ノ多少トヲ比較シ此度ハ甲銀行ヨリ引出スヘシ  
 此度ハ乙銀行ヨリ引出スヘシナト時ニ從ヒ額ニ應シテ箇々ノ銀行ヨリ取出サ  
 サルヲ得サルヘシ是レ豈ニ煩ハシキノ至リナラヌヤ然リ而シテ若シ數箇銀行  
 ニ分預シナカラ其中ノ一定銀行ノミヨリシテ之ヲ引出サハ煩シキコトハナカ



ルヘキモ斯ノ如クニシテハ自他ノ銀行ニ對シ公平ノ所業ニアラサルヲ如何セ  
ン又一大銀行ニ預ケ置キ隨時之ヲ引出サハ別ニ仔細ナキカ如シト雖モ既ニ一  
大銀行ト取引ヲ爲スヲ許ス以上ハ余輩ハ尋常一般營利ヲ旨トスル一銀行ニ委  
チンヨリハ寧ロ之ヲ政府監督ノ一定銀行ニ委スル方預ケ入レニモ引出シニモ  
共ニ都合好キヲ信スル者ナリ

是ニ由リテ之ヲ觀レハ政府ノ勘定ハ之ヲ一大中央銀行ニ委託スルニ利ナルモ  
ノニシテ此中央銀行ニ頼リテ以テ政府ノ財政ヲ補助セシメ且ツ一般金融市場  
ノ總理者ヲラシムルヲ得ヘキナリバセオツト氏ハ放任自正ノ主義ニ依リ金融  
市場ヲ整理セシムルヲ欲スル者ナリ而シテ余輩ハ金融市場ヲ整理スルニハ全  
ク放任主義ニノミ依頼スルヲ得シテ政府直轄ノ中央銀行ヲシテ之ヲ總理監  
督セシムルノ必要アルヲ信スル者ナリバセオツト氏ハ英蘭銀行ノ必要ヲ説ク  
ヤ其今日ニ於テ實際廢止スヘカラサル事情アルカ爲メナリ而シテ余輩ハ十分  
學理上其必要ナルヲ認ムル者ナリ是レ余輩カ見ル所ノ大ニバセオツト氏ノ所  
見ト異ナルノ點ナリトス然リ然シテ一大中央銀行ニシテ既ニ政府ノ勘定ヲ引

受ケ併セテ國家全般ノ爲メ全國金融ノ主宰者タルノ任ヲ帶ヒタル以上ハ同銀  
行カ政府ニ對シ又一般人民ニ對シ負フ所ノ義務ハ實ニ重大ナルモノナリ其義  
務既ニ重大ナル以上ハ終始十分ノ謹慎ト十分ノ注意トヲ以テ其事ヲ處理セサ  
ルヘカラサルハ余輩カバセオツト氏ト共ニ切ニ希望シテ措カサル所ナリ而シ  
テ斯ノ如キ銀行ニシテ能ク其義務ヲ果タシ能ク其事ヲ愆ルナキヲ得ルニハ詳  
ニ金融市場ノ情勢ニ通曉シ明ニ其動作ノ利弊ヲ察知セサルヘカラス是ヲ以テ  
余輩ハ今ヨリ論歩ヲ進メテ以テ此等ノ事情ニ付キ研究スル所アラントス



第六章 金融市場ニ於ケル利子昇降ノ有様

今試ニ英國金融市場ニ於ケル利子ノ歩合ハ如何ニシテ定マルカヲ見ルニ大抵倫敦ロムバールド街ニ於ケル利子ニ準應シテ昇降スルモノナリ而シテ此ロムバールド街ノ利子歩合ハ更ニ如何ニシテ定マルカヲ見ルニ是レ皆英國銀行所定ノ割合ニ準スルモノナリ例ハ英國銀行ニ於テ其歩合ヲ増ストキハ倫敦諸銀行之ニ倣ヒテ其歩合ヲ増シ遂ニ全國市場ノ利子歩合ヲ騰貴セシムヘシ又之ニ反シ英國銀行其歩合ヲ減スレハ倫敦ヲ始トシ全國市場ノ歩合モ亦隨テ減スルコ至ルヘシ

斯ノ如ク英國金利カ英國銀行ノ定ムル所ニ據ルヲ見ルヤ世人或ハ以爲テク英國銀行ハ能ク全國ノ利子歩合ヲ所定スル特別ノ權力ヲ有スルモノナリト且ツ毎ニ怪ムラク貨幣モ亦一箇ノ貨物ニ外ナラストハ經濟學者ノ説ク所ナルニ今貨幣ノ價格ノミ他ノ貨物ノ價格ヲ定ムル方法ニ依ルニアラスシテ前述セルカ如ク一種特別ノ方法ニテ定マルハ如何ナル理由アリテ然ルカト是レ實ニ一應

ハ理會シ難キカ如シト雖モ能ク思ハ、其理由ヲ知ルコト甚ク容易ナルモノナリ夫レ貨幣市場ニ於ケル貨幣ノ價モ總テ他ノ貨物ト同ク需要供給ノ原則ニ從ヒテ所定セラレ、モノナリ而シテ其尋常一般ノ貨物ト相異ナルハ其實ニ在ラズシテ唯其形ニ在ルノミ夫レ一般貨物ノ市價ハ巨商大買ノ各自ノ定ムル所ニシテ若シ商買ニ於テ他ヨリモ低廉ニ貨物ヲ賣捌カゾコトヲ力ムルトキハ市價爲メニ下落シ之ニ反シ商買ニ於テ其貨物ニ對スル買手ノ需要大ナルニ乘シ高ク止マリテ動カサレハ市價爲メニ騰貴スヘシ是レ市場ニ於ケル貨物ノ價ノ上ニ就キテ最モ通例ニシテ且ク最モ自然ニ顯ハル、所ノ實相ニシテアダムスミス氏ノ所謂市場ノ競合ナリ然リト雖モ物價ノ定マル必スシモ此一法ニシテ依ルモノニアラス或場合ニ於テハ別法ニ依ルノ便ナルアリ即チ一大商買ニシテ或貨物ノ多分ヲ取引スル者ハ自然ト能ク時ニ其貨物ノ市價ヲ左右スルヲ得ルモノニシテ他ノ小買ハ右大買カ所定セル市價ニ準從セサルヲ得サルモノナリ夫レロムバールド街ニ於テ貨幣ノ價ノ定マルヤ毫モ右ノ大買ノ場合ニ異ナラサルナリ元來英國銀行ハ金融市場ノ主權者トモ謂フヘキ地位ヲ占ムルモノニ



シテ其實力ノ多少ヲ以テスルモ實ニ他銀行者ノ遠ク及ハセザル所ナリ是ヲ以テ  
 英蘭銀行ノ定ムル所ノ利子ノ歩合ニ自然ト諸他銀行ノ準從セサルヲ得サルモ  
 ノトナルナリ  
 抑倫敦金融市場ニ於テ割引ヲ要スヘキ手形ノ高ハ實ニ巨大ナルモノニシテ到  
 底英蘭銀行ノ力ヲ借ルニアラサレハ其必要ヲ濟充スルコト能ハス凡ソ英蘭銀  
 行ニ於テ其利子ヲ定ムルヤ人々ハ成ルヘシ低利ヲ欲スルカ故ニ彼此相謀リテ  
 借出口ヲ搜索シ割引ヲ求ムヘシト雖モ能ク十分其目的ヲ果スコトハ實際甚ダ  
 難カルヘシ何トナレハ諸他銀行ニシテ英蘭銀行カ所定セル歩合ヨリモ著シキ  
 低利ヲ以テ割引ヲ爲スアラシメハ人々英蘭銀行ト約束ヲ結ハス去リテ低利ノ  
 口ニ就キテ割引ヲ爲スヲ務ムヘキハ必然ナレトモ如何セシ事正ニ斯ノ如クナ  
 ルトキハ市場ニ於ケル貨幣ノ供給高決シテ手形割引ニ對スル需要ヲ満足セシ  
 ムルヲ得ス既ニ尋常市場之カ雪要ヲ満足セシムルヲ得サル以上ハ必ス之カ  
 供給ヲ英蘭銀行ニ仰カサルヲ得サレハナリ且シ又實際英蘭銀行ニ於テ其業務  
 ニ多ク他ニ移轉スルヲ見出サハ再ヒ其華主ヲ喚戻スカ爲メ利子ヲ低減シ以テ

空シク多分リ資金ヲ遊在セシムルコトナキナカムヘシ斯ノ如クニシテ英蘭銀  
 行ハ常ニ金利ヲ制定スルノ實力ヲ有スルモノナリ夫レ然リト雖モ此實力  
 タル決シテ無限自在ニ働クモノニアラスシテ退キテ其實相ヲ察スレハ全ク市  
 場一時ノ景況ヲ左右スルニ過キサルノミ  
 英蘭銀行ハ貨幣市場ヲ制御シ自由ニ利子ノ高低ヲ所定スルノ力アリトノ説ハ  
 千八百四十四年前即チ英蘭銀行カ自由ニ紙幣ヲ發行スルノ特權ヲ有セシ間ニ  
 於テ專ラ行ハレタルモノ、尙ホ今日ニ存セルモノナリ而シテ此説タル今日ニ  
 於テ其正當ナラサルハ勿論五十年前ノ昔ニ於テスルモ決シテ其本體真相ヲ知  
 リ得タル言ニアラサルナリ若シ一大銀行ニシテ獨リ紙幣ヲ發行スルノ特權ヲ  
 有スルトキハ時ニ多額ノ紙幣ヲ發行シ爲メニ金融市場ニ大ナル變動ヲ生スル  
 コトアリト雖モ此ノ如キハ其勢力全ク一時ニ止マリ決シテ永久ナルコト能ハ  
 ス其力能ク一時利子ノ高低ヲ左右スルヲ得ト雖モ決シテ其平均ノ割合ヲ定ム  
 ルヲ得サルナリ其故ハ假令此銀行カ多額ノ紙幣ヲ發行セシカ爲メニ一時金融  
 市場ニ於テ貨幣ノ價格即チ利子ノ歩合ヲ減スルコトアリトスルモ此利子ノ低



落ハ直ニ反動力ヲ生シテ之ヲ上騰セシムルノ陰勢アレハナリ請フ一例ヲ舉ケテ之ヲ示サン

茲ニ一大銀行ノ紙幣發行權ヲ特有スルアリ若シ一時ニ百萬磅ノ紙幣ヲ増發シ之ヲ貸出スト假定セヨ然ルトキハ市場ニ於テハ貨幣増加ノ爲メニ商工業ノ取引増大シ物價モ亦爲メニ騰貴スヘシ然リ而シテ元來人々カ金圓ヲ借用スルヤ空シク之ヲ庫裡ニ埋藏センカ爲メニアラスシテ必スヤ之ヲ運用シ以テ賣買取引ヲ爲サンカ爲メナリ而シテ斯ノ如ク賣買取引用ノ資金増加スルヤ即チ市場ニ於テ需要力ヲ増加シ需要力ノ増加途ニ物價ヲ引上テ騰貴セシムルニ至リ物價騰貴スルニ至リテ商業會社ニ左ノ三結果ヲ生スヘキナリ

(第一)物價騰貴スレバ更ニ貨幣ノ需要ヲ増加ス抑物價騰貴トハ即チ貨幣ノ購買力ノ減退スルヲ表スルモノナリ而シテ貨幣ノ購買力減退スルヤ商業ニ從事スル人々ハ從來ト同一ノ貨幣ノ高ヲ以テ從來ト同一ノ賣買取引ヲ爲スヲ得サルカ故ニ此等ノ人々ハ從來ヨリハ一層多額ノ貨幣ヲ運用スルノ必要ヲ感スルニ至ルモノナリ例ヘハ鐵道株券ノ價一割騰貴シタリトセハ右株券取引人ハ必ス

ヤ一割多クノ貨幣ヲ運用セサルヲ得サルヘキヲ以テ金融市場自然ト借入高ノ増加ヲ致スヘシ

(第二)右貨幣ニ對スル需要ハ實力アルモノニシテ爲メニ貨幣ノ價格ヲ騰貴セシム即チ右鐵道株券ノ價騰貴スルトキハ之ヲ抵當トシテ貨幣ヲ借入ル、人ハ必ス從前ヨリ多額ノ貨幣ヲ借ルヲ得ヘキカ故ニ金融市場ニ於テ貨幣ノ供給ニ餘裕アル間ハ之ニ應シテ多分ノ貨幣ヲ貸出スヲ得ヘシト雖モ金融市場ノ貨幣固無限ナラス其供給漸ク以テ其需要ニ應スルニ足ラサルニ及ヒテヤ自然ト貨幣ノ價格ヲ上騰セシムヘシ語ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ物價漸ク下落スルニ至ルヘシ斯ノ如クニシテ一時貨幣増給ノ爲メニ其價低落スルモ其反動忽チ到リテ貨幣ニ對シテ新需要ヲ生シ遂ニ之カ價ヲ騰貴シ以テ平ニ復セシムルモノナリ右ニ述フルニ條件アルカ故ニ紙幣發行者ハ多額ノ紙幣ヲ發行貸出シテ以テ能ク一時其價ヲ下落シ利子ヲ低減セシムルヲ得ヘシト雖モ決シテ其勢力ヲ永久ニ保持スルヲ得ルモノニアラス而シテ此結果タル紙幣ノ兌換タルト不換タルトヲ問ハス常ニ金融市場ニ於テ之ヲ見ルヘキナリ例ヘハ英蘭銀行ハ彼ノ千七



百九十七年ヨリ千八百十九年ニ至ル正金仕拂中止時期ニ於テモ又彼ノ千八百十九年以降即チ正金仕拂ヲ復興シタル後ニ於テモ其ニ無限ノ勢力ヲ金融市場ニ有スルヲ得サリシカ如シ且ツ又兌換制ノ行ハル、所ニ在リテハ更ニ他ノ一層強大ナル効果ヲ致スモノナリ

(第三)凡ソ一國ニ於テ物價騰貴スレハ輸入増加シテ輸出減少スヘシ其故ハ外國商ハ割合ニ廉價ヲ以テ物品ヲ輸入スルモ割合ニ多分ノ利益ヲ収ムヘク之ニ反シ内國品ノ市價騰貴ノ爲メニ之ヲ輸出スルモ其収益ノ割合甚ク僅少ナルヘクナリ而シテ其輸入増加スレハ則チ外國ニ對スル負債増加シ輸出減少スレハ則チ外國ニ對スル負債ヲ償却スルノ手段減少スヘク勢正ニ斯ノ如クナルヲ以テ該國ハ其外國ニ對スル仕拂義務ヲ果スカ爲メ多分ノ地金ヲ輸出シテ以テ輸出入ノ平均ヲ取ラサルヘカラス而シテ此輸出スル地金ハ之ヲ銀行ノ準備金ヨリ取出スヘキモノナルカ故ニ準備金漸ク減少セサルヲ得ス準備金減少スレハ勢其過出ヲ制止スルカ爲メ金利ヲ引上ケサルヲ得ス是ニ於テカ金融市場逼迫チ感シ貸借甚ク困難トナルヘシ



右述ノル所ヲ以テ貨幣ノ價ハ諸他物品ニ異ナル方法ニ依リテ定マラルト謂ヒ英  
 蘭銀行ハ貨幣市場ニ於テ無限ノ勢力アリトノ説ハ固ト認見ニ堪キヤルヲ知了  
 スヘキナリ英蘭銀行ハ貨幣市場ニ於テ強大ナル勢力ヲ有シ時ニ能ク金融ノ景  
 況ヲ左右スルコトアリト雖モ是レ蓋シ同銀行ノ取引巨大ニシテ實力モ亦他ニ  
 比シテ莫大ナルガ故ニ自ラ他ノ銀行ニ比シテ強大ナル作力アルニ過キサルヲ  
 在時其權力非常ニ強盛ニシテ諸他銀行ノ勢力尙ホ甚ク微弱ナリシ時ト雖モ  
 同銀行カ金融市場ニ有セル權力ハ固ヨリ無限ナラスシテ唯之ヲ支配シ之ヲ左  
 右スルヲ得タルノミニシテ決シテ專裁強行スルヲ得ザリシモノナリ  
 然リト雖モ貨幣ノ價即チ利子歩合ノ定マラルヤ自ラ他ノ貨物ト異ナル所ナキニ  
 アラス蓋シ貨幣ノ物タル今日ノ如キ商業社會ニ於テハ必需缺シヘカラサルモ  
 ノニシテ其需要供給ノ關係ヨリシテ生スル所ノ價格ノ搖動ハ甚ク鋭敏ナルモ  
 ノナリ若シ其供給ト需要ト時ニ相平均スルヲ得サルアレハ其價格忽チ昇降シ  
 金融市場ニ影響ヲ及ホスナ常トス例ヘハ一商人ニシテ明日仕拂フヘキ手形ヲ  
 有スルトキハ其將來ノ取引ニ傷害セザラシク爲メ手形之ヲ約束チ果スノ貨幣



セキニ於テハ必スヤ之ヲ市場ヨリ借入レサルヲ得キルヘシ而シテ勢斯ノ如ク  
ナルトキハ該商人ハ金利ノ如何ヲ問フノ邊アラサルナリ彼ノ恐慌時ニ於テ貨  
幣ノ價非常ニ騰貴シ金融市場逼迫ヲ告グルニ至ルハ皆斯ノ如ク急需ノ金圓ヲ  
要スル商買輩カ相互ニ競争シテ以テ貨幣ヲ手ニセシコトナカムルニ由ルモノ  
ナリ然ルニ此ノ如キ急需アルニアラスマテ市場若シ多分ノ貨幣ヲ備フルトキ  
ハ時ニ全ク反對ノ結果ヲ生シ貸付ヲ欲スルモ之ヲ需要スル者甚少ク金融爲  
メニ自ラ緩慢トナリ供給過多ノ顯象ヲ生シ金利非常ニ低壓スルニ至ルヘシ  
若シ貨幣ニシテ總テ所有者ノ手ニ在ラシムルカ若シクハ銀行ニ於テ之ヲ預ル  
モ別ニ之ニ對シ利子ノ仕拂ヲ要セザラシメハ貨幣ノ價ハ右ニ述フルカ如ク急  
激ナル變動ヲ蒙ラサルヘシ夫レ然リ然リト雖モ金融市場ニ於ケル貨幣タル決  
シテ實際斯ノ如キ性質ノモノニアラスマテ之ヲ有スル者ハ必スヤ他人ニ對シ  
利子ヲ拂ハサルヲ得ス既ニ利子ヲ拂フヘキ貨幣ヲラハ更ニ之ヲ他ニ貸附ケテ  
以テ利子ヲ得ルコトナカメサルヘカラス一方ニ向ヒ利子ヲ仕拂ヒナカラ他方  
ニ向ヒテ貸出シテ爲サレハ是レ自ラ全ク人ノ爲メニ苦シムノミ誰カ此ノ如

キ愚ヲ學フ者アラシヤ勢正ニ斯ノ如クナルカ故ニ金融市場ニ立交ル者ハ成ル  
ヘシ多分ノ利子ヲ得シコトナカムヘキハ勿論ナレトモ常ニ市場ノ景況ニ應シ相  
競ヒテ其所有スル所ヲ盡ク運用シテ以テ幾分カノ利子ヲ得シコトナカムルノ  
止ムヲ得サルアルカ爲メニ或ハ時ニ其利子ノ厚薄ヲ論スルニ時ナクシテ貸附  
ヲ欲スヘシ而シテ市場ニシテ若シ之ヲ吸収スルノ需要ナケレハ勢益其利子歩  
合サシテ低落セシムルニ至ルヘシ是レ實ニ貨幣カ其格價變動ノ點ニ於テ他ノ  
諸貨ト異ナル所以ナリ即チ市場ニ於テ借手競ヒ起ルトキハ其價忽チ上騰シ貨  
附ヲ急ク者爭ヒ出ツルヤ其價忽チ低落ス  
由是觀之苟モ全國ノ準備金ヲ所持シ全國金融ノ中衝ニ當ル中央銀行ノ責任ノ  
大ニシテ且ク重キ知ルヘキナリ夫レ此ノ如キ中央銀行ハ固ヨリ永久ニ貨幣ヲ  
所定スルコト能ハス又無限獨裁ナル權力ヲ金融市場ニ有スルモノニアラスト  
雖モ而モ一時市場ノ景況ヲ制シ貨幣ノ價ヲ左右スルヲ得ルモノナリ是レ以テ  
若シ此ノ如キ銀行ニシテ取引上宜シキヲ失シ貨幣ノ放収其當チ過ルトキハ則  
チ金融市場ニ不要ノ變動ヲ作起シ金利割合ニ急激ナル動搖ヲ生シ初メハ徒ラ



市場ノ崩壊則シテ一國ノ之ヲ在ルモノ又之ヲ憂慮セシムルハ然リト雖モ  
若シ其作業ニシテ時宜ヲ愆フス其貨幣ノ放収ヨシテ適當ナル度合ヲ守ラシメ  
ハ此等銀行ハ能ク貨幣ノ價ヲ整制シ金融市場ヲ裁理シ以テ全國ノ信用取引ヲ  
安然圓滑ナラシムルヲ得ヘシ之ヲ要スルコト其所爲ノ宜シキヲ得ルト否トニ依  
リ濟經社會ノ福利ニ大影響ヲ及ホスモノナリ彼ノ英蘭銀行ノ如キ一大中央銀  
行ノ金融上責任ノ重クシテ且ツ大ナル實ニ十分ノ注意ヲ要スルモノナリ其路  
ニ當ル者豈ニ沈思戒慎セズシテ可ナランヤ

### 第七章 金融市場ノ浮沈

國ノ東西ヲ問ハズ時ノ古今ヲ論セス若シ割合ニ少額ノ貨幣ヲ以テ割合ニ多額  
ノ貸借取引ヲ爲ス邦國ニ於テ一朝不時ノ正金支拂ノ要求起ルトキハ必スヤ金  
融市場ニ急迫ヲ生シ商業社會ニ恐慌ヲ惹起スヘキナリ夫レ斯ノ如キ邦國ハ常  
ニ信用ヲ十分ニ利用シ小許ノ準備金ヲ基礎トシテ莫大ナル取引ヲ爲スモノナ  
ルカ故ニ若シ右基礎タル準備金ニシテ不時急激ニ減却スルコトアラシメハ之  
ニ依リテ以テ行ハルハ所ノ信用取引ハ忽チ攪乱セラレ遂ニ全市場ヲ舉ケテ恐  
慌ノ狂瀾中ニ陥没セシムルニ至ル豈ニ懼レサルヘケンヤ  
抑斯ノ如キ變動ノ生スルヤ其事情種々一ナラス或ハ歲凶歉ニ屬シ穀物登ラサ  
ルコト由ルコトアルヘク或ハ外敵侵犯ノ虞アルニ由ルコトアリ又ハ從來信用厚  
カリシ所ノ一大會社等ノ不意ニ破産セルコト因ルモノアルヘク其他不時ニ金融  
市場ニ急變ヲ來スノ原因實ニ一々枚擧スルニ遑アラズ然リト雖モ其事情原因  
ヲ如何ニ辨ハス必スヤ一定ノ顯象ノ金融市場ニ生ラレアリ其一定ノ顯象トハ



何ゾ即チ現金支拂ノ要求ニ急迫ヲ告グルノ一事是ナリ而シテ斯ノ如ク必ス一定ノ顯象ノ各種ノ事情ニ伴フヲ見且ツ此顯象ニ應シ之ヲ處理スルノ要具ノ準備金ニアルヤヲ見ルヤハセオット氏ハ左ノ如ク言ヘリ

或ハ恐慌ノ原因ヲ探究類別シ以テ各別ニ之ニ應スルノ手段ヲ講セントスル者アレトモ余輩ヲ以テ之ヲ見レハ此ノ如キハ殆ト無用ノ事ニ似タリ何トナレハ原因如何ニ異ナルモ其信用取引上ニ及ホス所ノ結果ニ至リテハ全ク無差別ナレハナリ要スルニ余輩ノ須ヲ務ムヘキハ其結果ニ應スルカタメ多分ノ準備金ヲ有スルヲ計ルニアルノミ

此ハセオット氏ノ言タル固ヨリ一理ナキニアラス然リト雖モ氏カ恐慌ノ原因ヲ探查類別スルヲ以テ無要ノ勞ニ過キスト爲スカ如キハ余輩之ヲ是認スルヲ得サルナリ夫レ余輩カ金融事情ヲ論究スルハ單ニ既成ノ事變ヲ處理スルノ方策ヲ講ゼシカ爲メノミニニアラスシテ又其未然ニ備フルノ豫計ヲ講ゼントスルモノナリ余輩カ目的ニシテ果シテ斯ノ如クナラハ時ニ金融市場ヲ擾亂スル恐慌ノ原因ヲ調査シ其原因ヲシテ其結果ニ至ラシメサルノ方策ヲ案セサルヘカ

ラス即チ換言スレハ其結果ヲ未然ニ避クルノ豫防策ヲ講ゼサルヘカラサルナリ而シテ此豫防策ヲ講ゼントスルニハ其原因如何ヲ探究シ其事變發達ノ順序ヲ察知シ其時期ノ尙ホ早キニ方リテ之ヲ濟治シ其勢焰ヲシテ市場ヲ煽動スルコトナカラシメサルノ手段ヲ盡クサルヘカラス此手段ヲ盡クスニハ決シテ其既成ノ情况ヲノミ知ルヲ以テ足レリトセス宜シク其原因ニ溯リ其變遷ノ有様ヲ詳知セサルヘカラス而ルテ況ンヤ余輩カ諸君ト共ニ講究セントスル所ハ學理ニ基キ實際ノ事物ニ鑑ミ以テ其結果ヲ金融市場ニ見サランコトナリ期スル方却テ其既成ノ恐慌ヲ鎮靜スルノ方法ヲ論スルヨリモ緊要ナルコトヲ信スルモノナリ既致ノ恐慌ヲ鎮靜スルノ方法固ヨリ詳ニ研究セサルヘカラス然リト雖モ是レ實ニ止ムヲ得サル場合ニ立チ至リテ後ノ事ニシテ若シ幸ニシテ之ヲ未成ニ防止セルヲ得ハ其効用ノ差果シテ如何ンヤ今之ヲ醫師ノ病ヲ治スルニ譬ヘンニ病既ニ熱シテ後之ヲ治メントスルニハ或ハ非常ノ危法ヲ用フルカ或ハ非常ノ難苦ヲ受ケンメサルヘカラス是ヲ以テ醫師ノ常ニ務ムヘキハ其病勢ノ尙ホ微弱ナルニ方メテ之ヲ退治スルニ在リ徒ラニ其勢ノ熾ナルノ後ニ於テ



皆悉感其不若好景氣ニハ世人一般其所不得不景氣ニハ人皆困弊ニ陥ルコト  
宛モ海潮ノ時ニ滿干スルカ如キアルヤヲ疑フヘシ其疑ヲ實ニ理ナキニアラス  
然リト雖モ今少シク思考ヲ費サハ其然ル所以ヲ知ルコト決シテ難キニアラス  
ルナリ今尋常ノ經濟書ヲ編クニ能ク此等ノ關係ヲ述ヘタルモノ甚ク稀レナル  
ヲ以テ好景氣ノ時ニ何故ニ市場ニ於テ金融活潑ニシテ各人多分ノ利益ヲ占メ  
得ル程ノ資金アリヤ又不景氣ノ時ニ在リテハ右資金ハ何地ニ往キ去リテ金融  
ヲシテ壅塞セシメ人々ヲシテ損失ヲ蒙ラシムルヤヲ知了スルニ由ナキニ似タ  
リ是ヲ以テ茲ニ少シク之ヲ論スルハ決シテ無要ノ業ニアラサルヘシ  
抑商業取引上最も重要ナル關係ヲ有スルモノハ時間ナリトス蓋シ吾人經濟社  
會ニ於テ分業出テ來リタル後ハ二箇ノ重要ナル原則ヲ生ス其二箇ノ原則トハ  
何ソ即チ

第一 物品ハ交易セラルヘキ爲メニ生産スルモノナルカ故ニ生産次第速ニ  
交易スルヲ得ルヲ以テ利トス

第二 各生産者ハ自家ノ欲望ヲ満足スル爲メニ物品ヲ生産スル者ニアラス

シテ廣シ他人ノ需要ニ應ゼシカ爲メニ之ヲ生産スル者ナルカ故ニ其  
需要者ヲ得ルコト最も容易ニ最モ速ニ且ツ最も確實ナルヲ要ス  
抑此二點タル其理自ラ分明ニシテ別ニ之カ解釋ヲ要セサルヘシ夫レ販賣ノ目  
的ヲ以テ製造セラレタル物品ニシテ速ニ其賣レ口ヲ得又勞役ニ服セシトスル  
者ニシテ容易ク其雇レ口ヲ見出スヲ得ルハ皆人ノ常ニ希望シテ措カサル所ナ  
リ然リ而シテ分業一旦經濟社會ニ行ハル、ニ至リテハ此二ツノ希望ヲ常ニ相  
共ニ満足セシムル事ノ實際ニ容易ナルヲ得サルコトモ亦皆人ノ了知スル所ナ  
リ例ヘハ甲ニ於テ乙必ス買フヘシト思ヒテ製出スル物品ニシテ乙之ヲ需要セ  
サルコトアルヘシ乙某物品ヲ欲シ而シテ甲之ヲ知ラサルカ故ニ之ヲ作ラサル  
コトアリ供給者ト需要者トノ關係正ニ斯クノ如キニ於テハ常ニ前掲二點ニ注  
意シテ怠ラサルハ實ニ經濟者ノ宜シク盡スヘキノ要務ナリ  
右ノ二點タル理ニ於テ最も親易キモノナリト雖モ其社會ニ及ホス所ノ効果ノ  
大ナル決シテ漫然視過スヘキモノニアラサルナリ而シテ其實際ヲ顧ミレハ世  
人中此結果ニ關シ一定ノ所見ヲ有ル者甚ク稀ナルハ豈ニ歎クヘキノ至チラスヤ